

2016年度(平成28年度)入学生用

1. 博士前期課程

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MA0101	看護学研究法特論 M	1 年/前期	2
担当教員		課程	
森美智子 倉田節子 郷良淳子 西川まり子 北川真理子		博士前期課程	
授業計画詳細			
授業目的			
自立した実践リーダー・管理者・教育者になるために看護の実践や教育の場において専門的な知識・技術の向上、ケアプログラムやケアシステムの改善・開発など実践的研究活動が行われるようにする。研究の新規性・独創性・社会的価値を考慮して研究テーマと研究目的に合致する研究デザインを選択する。 研究の新規性・独創性・社会的価値を考慮して研究テーマと研究目的に合致する研究デザインを選択する。 研究の方法として質的研究法、調査研究法、実験的研究法を学修し、研究の進め方、研究結果データの扱い方、考察、結論の書き方を含めて研究プロセスにおける研究の質管理方法、研究論文作成方法について学修する。			
授業内容			
研究テーマ・研究目的について社会的ニーズの分析・研究の新規性・独創性・社会的価値・研究倫理を検討する。 研究計画書の作成において研究デザインの検討を行う。具体的な研究方法の選択、その適切性と妥当性を検討する。適切な研究データ収集法、研究スケジュールを含めて研究の実施計画、研究過程における研究質及び量的データの管理と解析方法を検討し、具体的で実行可能な研究計画書作成の準備をする。 研究計画発表会に向けて、研究倫理を踏まえた研究計画を検討することができる。 (オムニバス方式／15回) (倉田節子／3 回) 看護研究の特徴・文献レビュー・論文クリティーク方法、研究の目的、研究デザインの選択、研究仮説の立て方、タイムスケジュール、研究倫理、研究倫理審査申請書作成方法 (森美智子／2 回) 研究結果・考察・結論の示し方、論文作成のポイント、論文発表と留意点 (郷良淳子／3 回) 看護における質的研究法 (西川まり子／5 回) 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な調査研究法、看護の知識・技術の向上・開発をめざす介入研究法 (北川真理子／2 回) 看護における実験的研究法			
留意事項			
1. 科学文献などから情報収集と分析、論理的な文章化が求められる。 2. レポートなどの提出物は期日ごとに提出する。 3. 授業への出席率と研究への積極的な取り組み、行動力が求められる。			
教材			
1. 学生は自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。 2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。			
授業計画 (15 回)			
1 看護研究の特徴・文献レビュー・論文クリティーク方法 新規性・独創性・社会的価値を考慮した研究とは (倉田節子／1 回) 2 研究の目的、研究デザインの選択、研究仮説の立て方、タイムスケジュール (倉田節子／1 回) 3 研究倫理 研究倫理審査申請書作成方法 (倉田節子／1 回)			

4-6 看護における質的研究法	(郷良淳子／3回)
7-8 研究の信頼性・妥当性確保を意図した適切な調査研究法	(西川まり子／2回)
9-10 看護における実験的研究法	(北川真理子／2回)
11-13 看護の知識・技術の向上・開発をめざす介入研究法	(西川まり子／3回)
研究の質管理としての研究の信頼性・妥当性・一貫性を高める方法	
14 研究結果・考察・結論の示し方	(森美智子／1回)
15 論文作成のポイント、論文発表と留意点	(森美智子／1回)
評価基準	
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)	
到達目標	A B C D
1. 看護の実践や教育の場における疑問・改善点を客観的に整理することができる。	
2. 整理した疑問・改善点を専門的な知識・技術の向上、ケアプログラムやケアシステムの改善・開発などの実践的研究課題に結び付けて考えることができる。	
3. 研究の課題について先行研究をレビューし、新規性・独創性・社会的価値のある研究デザインを検討することができる。	
4. 自身の論文作成に結び付けて、倫理的配慮を踏まえた計画書作成の準備ができる。	

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MA0201	疫学統計学M I (必修)	1 年/前期	2
担当教員		課程	
市川誠一 西川まり子		博士前期課程	

授業計画詳細			
授業目的			
健康に関連する保健医療分野の調査研究で得られるデータの分布や統計量、統計学的分析方法を修得する。また調査研究を計画し実施するうえで基盤となる調査研究プロセス（質問紙作成と留意点、データの種類の、データ収集・分析・調査実施など）、表計算ソフト Excel の活用、統計パッケージ SPSS の使い方、量的研究の基礎的手法、効果的な統計方法の基本を修得する。また、保健医療情報を取り扱う際の留意点・遵守すべき倫理的事項を修得する。さらに看護研究におけるテキストマイニングの活用について修得する。			
授業内容			
看護研究における疫学の活用について概説する。健康に関連する保健医療分野の調査研究において、得られるデータの分布や統計量、統計学的分析方法を理解しておくことは、調査研究を計画し実施するうえで基盤となる。統計分析で基本となる分布、平均値と標準偏差の関係、母集団と標本、連続型変数と離散型変数についての統計学的推定、統計学的検定、量-反応関係の分析などの基本的統計分析方法を講義する。 健康関連情報処理のプロセスとして、質問紙作成と留意点、データの種類の、データ収集・分析・調査実施のプロセス、保健医療情報を取り扱う際の留意点・遵守すべき倫理的事項、について講義する。 Hard to reach 層へのアプローチ、リスボンデントドリブンサンプリング法などのサンプリング手法、行動ステージモデルなど健康行動理論にもとづく行動分析手法などについて事例を用いて講義する。 近年、看護研究において多用されてきているテキストマイニングについて講義する。			
留意事項			
1. 授業に積極的に参加する 2. 授業内容について事前に情報を収集し、必要に応じて分析を試みる 3. 授業内容を自己の研究の計画立案や実践に反映させる			
教材			
福富和夫・橋本修二：保健統計・疫学、南山堂、2400 円＋税 大村平：統計のはなしー基礎・応用・娯楽、日科技連、1836 円(税込) 中村好一：基礎から学ぶ楽しい疫学、医学書院、3150 円＋税 古谷野亘・永田久雄：実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方、ワールドプランニング、2718 円＋税 Leon Gordis 著、木原正博・木原雅子訳：疫学ー臨床・公衆衛生・法律的判断のための基礎科学、三煌社、2400 円＋税 服部兼敏：テキストマイニングで広がる看護の世界ーText Mining Studio を使いこなすー、ナカニシヤ出版、3500 円＋税			
授業計画 (15 回)			
(市川 12 回、市川・西川 3 回)			
1	看護研究における疫学・統計学について	西川	
2	統計学の基礎 1：母集団、標本、分布	市川	
3	統計学の基礎 2：平均値・分散・標準偏差、母集団の推定	市川	
4	統計学の基礎 3：確率論と仮説検定	市川	
5	統計学の基礎 4：数量データの比較検定 母集団と標本集団の比較、標本集団の比較	市川	
6	統計学の基礎 5：相関関係	市川	
7	統計学の基礎 6：離散データの統計処理、 χ^2 検定など	市川	

8	調査研究の進め方 1：質問紙調査を例に-質問紙の作成について	市川			
9	調査研究の進め方 2：質問紙調査を例に-データコーディング	市川			
10	調査研究の進め方 3：質問紙調査を例に-データクリーニング	市川			
11	調査研究の進め方 4：質問紙調査を例に-SPSS による分析の準備	市川			
12	調査研究の進め方 5：SPSS による分析	市川			
13	看護研究における疫学の活用：サンプリングについて	市川			
14	看護研究におけるテキストマイニング-1	西川			
15	看護研究におけるテキストマイニング-2	西川			
評価基準					
課題レポート 70% 講義中の討議への参加 15% 授業への参加 15%					
A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good)					
B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)					
C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)					
D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)					
到達目標		A	B	C	D
保健医療データを統計分析する上で基本となるデータの分布や基本統計量についての理解					
連続型変数と離散型変数についての統計学的推定、統計学的比較検定、量-反応関係の分析などの基本的統計分析方法					
健康関連情報処理のプロセス—質問紙作成と留意点、データ収集～分析の調査実施プロセス					
保健医療情報を取り扱う際の留意点・遵守すべき倫理的事項					

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MA0301	疫学統計学MⅡ	1 年/後期	2
担当教員		課程	
市川誠一 西川まり子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

疫学という考え方、疫学の歴史、疫学の目的として疾病の予防、寿命の延長、生活の質の向上を理解し、ジョン・スノーから今日に至る疫学の歴史を灌漑する。疫学で用いられる指標、サンプリング、曝露・誤差、疫学研究方法、疫学調査のプロセスと統計分析、スクリーニング、テキストマイニング、調査データの GIS 表示などを含めた専門的知識を自己研究に照らして修得する。

また、先行研究により、ロジスティック分析、乳幼児健診を活用した地域連携研究、リスボンデントドリブンサンプリング法などのサンプリング手法について学習する。

授業内容

健康に関連する保健医療分野の調査研究において、疫学の方法、分析手法を理解することは研究を計画し実施するうえでの基盤となる。講義では主に以下のことを取り上げる。

- ・疫学で用いられる指標(有病率、罹患率など)、研究対象者の抽出(全数調査、標本調査、層化、偏り)、
- ・疫学研究方法(患者-対照研究とオッズ比、コホート研究と相対危険度・寄与危険度)、
- ・疾病頻度の測定(交絡、バイアスなど)、スクリーニングについて
- ・健康関連情報処理のプロセスとして、質問紙作成と留意点、データ収集・分析・調査実施
- ・保健医療情報を取り扱う際の留意点・遵守すべき倫理的事項
- ・健康関連情報の統計処理(基本統計量、統計学的検定、多変量解析など)
- ・数理地図システム(GIS: Geographic Information System)を用いた解析について
- ・Hard to reach 層へのアプローチ、リスボンデントドリブンサンプリング法などのサンプリング手法等を講義する。

留意事項

1. 授業に積極的に参加する
2. 授業内容について事前に情報を収集し、必要に応じて分析を試みる
3. 授業内容を自己の研究の計画立案や実践に反映させる

教材

福富和夫・橋本修二：保健統計・疫学、南山堂、2400 円＋税

大村平：統計のはなしー基礎・応用・娯楽、日科技連、1836 円(税込)

中村好一：基礎から学ぶ楽しい疫学、医学書院、3150 円＋税

古谷野亘・永田久雄：実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方、ワールドプランニング、2718 円＋税

Leon Gordis 著、木原正博・木原雅子訳：疫学ー臨床・公衆衛生・法律的判断のための基礎科学、三煌社、2400 円＋税

服部兼敏・西川まり子・木村義成：地域支援のためのコンパクトGISー「地図太郎」入門、古今書院、3,024 円(税込)

授業計画 (15回)

(市川 14 回、市川・西川 1 回)

- | | | |
|---|-----------------------------|------|
| 1 | 疫学の看護研究への適用、調査統計データの GIS 表示 | 西川 |
| 2 | 疫学という考え方、疫学の歴史から | 市川 |
| 3 | 疾病頻度の測定 1：曝露と疾病、疫学的指標 | 市川 |
| 4 | 疾病頻度の測定 2：相対危険、寄与危険、オッズ比 | 市川 |
| 5 | 疫学研究方法 1：記述疫学、横断研究、対象者の選択 | 他 市川 |

6	疫学研究方法 2 : 症例対照研究、コホート研究、介入研究、他	市川			
7	疫学研究方法 3 : スクリーニングについて	市川			
8	調査研究の進め方 1 : 研究計画から調査実施・分析	市川			
9	調査研究の進め方 2 : 質問紙調査を例にプロセスを考える	市川			
10	調査研究の進め方 3 : 質問紙調査を例にプロセスを考える	市川			
11	疫学研究例をもとに : 1) 保健所乳幼児健診を活用する	市川			
12	疫学研究例をもとに : 2) Hard to Reach 層を把握する	市川			
13	疫学研究例をもとに : 3) 行動疫学研究	市川			
14	疫学研究例をもとに : 4) RDS 法による疫学研究	市川			
15	まとめ : 課題レポートの説明	市川			
評価基準					
課題レポート 70% 講義中の討議への参加 15% 授業への参加 15%					
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)					
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)					
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)					
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)					
到達目標		A	B	C	D
疫学で用いられる指標、研究対象者の抽出、疫学研究方法、疾病頻度の測定等についての理解					
健康関連情報処理プロセス（質問紙作成と留意点、データ収集～分析等）の理解					
疫学研究手法の看護研究への適用への理解					
疫学研究における遵守すべき倫理的事項の理解					

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MA0401	看護理論特論M	1 年/前期	2
担当教員		課程	
小笠原知枝		博士前期課程	
授業計画詳細			
授業目的			
看護理論の変遷とさまざまな理論の構造と特徴及び限界について知識を深めるとともに、看護理論の活用方法を探求して、各看護専門領域の実践・教育・研究に不可欠な論理的な思考能力を高めることを目標とする。			
授業内容			
看護理論の変遷と諸理論の特徴及び限界について知識を深めるとともに、各看護専門領域の実践・教育・研究に不可欠な批判的思考能力を高めることを目標とする。授業科目の内容には、理論の定義とその生成過程、理論の変遷、看護大理論（発達モデル、ニード論、相互作用モデル、システムモデル、ケアリングモデル、文化人類学的看護論等）の特徴、実践の基盤となる中小範囲理論（患者の理解と援助のための発達理論・ニード論・ストレス・コーピング理論、危機介入モデル、ソーシャルサポート・システム論、症状マネジメントモデル等）、理論および EBN の検索、理論開発の意義、などを含む。			
留意事項			
1. 授業に積極的参加を期待する。 2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。 3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。			
教材			
1. 松木光子・小笠原知枝・久米弥寿子編（2009）. 看護理論と実践のリンケージ, ニューヴェルヒロカワ. 2. Tomey, A. M. (ed.)（1994／1995）. 都留伸子（監訳）, 看護理論家とその業績 第2版. 医学書院. 3. George, J. B. (ed.)（1993／2003）. 南裕子, 野嶋佐由美, 近藤房江（訳）, 看護理論集. 日本看護協会出版会. 4. 野川道子編著（2014）. 看護実践に活かす中範囲理論. メヂカルフレンド社			
授業計画（15回）			
1. 看護理論活用の意義 2. 理論の定義と用語の理解 3. 看護理論の生成過程 4-5. 看護理論の変遷 6-8. 看護大理論の構造と特徴： 発達モデル、ニード論、相互作用モデル、システムモデル、ケアリングモデル、文化人類学的看護論等 9. 看護理論（大理論）に関する課題の発表と討議 10-12. 実践の基盤となる中小範囲理論の構造と特徴： 発達理論、ニード論、ストレス・コーピング理論、危機介入モデル、ソーシャルサポート・システム論、症状マネジメントモデル 13. 看護過程と看護診断分類・看護介入分類・看護成果分類 14. 看護理論（中範囲理論）に関する課題の発表と討議 15. まとめと課題（小笠原知恵／15回）			
評価基準			
1. 授業中の質疑・討議 30% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 40% A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)			

到達目標	A	B	C	D
1. 看護専門領域における看護の実践や研究の基礎となる看護理論や看護モデルを理解し、その特徴と限界について説明できる。				
2. 看護の具体的な実践の基盤となる中範囲理論の特徴を理解し、具体的な場面でどのように活用できるのかについて検討できる。				
3. 看護実践と看護理論と看護研究との相互の関連性について考察し、看護理論の意義と開発の必要性を検討できる。				
4. 特定の看護理論を用いて、具体的な事例の看護過程に適用して、その長所・短所を分析できる。				
5. 看護理論が看護実践と看護研究にどのように貢献するのかについて説明できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数		
MA0501	看護教育学特論M共通	1 年/後期	2		
担当教員		課程			
小笠原知枝		博士前期課程			
授業計画詳細					
授業目的					
看護者としての倫理的態度を持って、看護実践における教育的機能を効果的に果たすために、教育心理学・教育学、看護教育学の基礎的知識を基盤とした看護実践能力とその資質を養う。					
授業内容					
看護実践・教育における教育的機能を、看護者としての倫理的態度を持って効果的に果たすために、教育心理学・教育学の基礎的知識を基盤とした能力・資質を養うことを目標とする。授業科目の内容は、教授・学習過程における学習理論、教育指導の方法論、教育評価、臨地実習指導方法、カウンセリング技法などについて教授するとともに、クライアント及び家族に対する介入指導計画の立案から評価に至るプロセスなどを含むものとする。					
留意事項					
1. 授業に積極的参加を期待する。 2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。 3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。					
教材					
随時紹介					
授業計画 (15回)					
1 看護教育の現状と課題（現行看護学カリキュラムの特徴を含む） 2-3 教授・学習過程における基礎知識と学習理論 4 体験学習理論 5. 教育指導の方法論 6-7 対人関係を支えるカウンセリング技法と演習法 8 グループダイナミクスを支えるリーダーシップ理論 9 実習環境と実習評価 10 教育評価 11-12 クライアントや家族に対する教育指導計画：クライアント理解のための諸理論、アセスメント、立案、評価を含む 13 各自教育指導計画案の作成：対象者のセルフケア能力や看護学生のコミュニケーション能力などを高めるための教育指導計画案の作成 14 上記の各自が作成した教育指導計画案の発表と討議 15 まとめと課題について討議					
(小笠原知枝／15回)					
評価基準					
1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30% A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)					
到達目標		A	B	C	D
1. わが国の看護教育制度の歴史的発展にみられる特徴を理解し、現行大学のカリキュラムの課題をクリティークできる。					

2. 教授・学習過程における基礎的知識を理解し、体験学習理論の特徴について説明できる。				
3. 教育評価の基礎知識を理解し、実習評価時の留意事項について述べることができる。				
4. 看護学生の気質と特徴を理解し、対象に合わせた看護ケア技術教育の指導法および看護者としての倫理的態度の教育法について考察し、討議することができる				
5. 看護学生の実習環境に関する課題を挙げ、その対策について検討できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MA0601	看護倫理特論M	1年/前期	2
担当教員		課程	
内藤直子 小笠原知枝 森美智子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

看護職者は、日常的に倫理的問題に直面するので、どう考え意志決定するか、倫理、生命倫理、看護倫理の基本的な理論、意志決定モデルを学び、臨床看護の倫理的問題を検討し、意志決定の考えを深める。看護研究で対象の人権擁護を行いつつ研究プロセスを踏む基本的な考え方や、医療の倫理的概念を概観し、倫理原則、看護実践、研究上の倫理的課題や問題解決法から倫理的判断能力を養い、看護の役割・責務を探究する。

授業内容

看護職者は、人間の尊厳とは何か、人間を尊重する意味はなにかを実践現場で問題意識を持ちケアすることが大切である。今日は、延命や生殖補助医療、臓器移植、再生医療等の臨床現場で適切なケアのあり方や倫理的判断と解決方法能力が求められる。倫理的な葛藤に対峙する時、倫理的感受性や倫理的判断力、意志決定力を高め、看護の役割・責務を探究し、看護ケアの向上の能力を学び、倫理観、看護観、人間観を洞察し関係者間の倫理的判断・支援に必要な知識を探究する。

(オムニバス 全15回)

(内藤直子/11回)

人間の尊厳と倫理、倫理的規範、看護・保健・医療、福祉と倫理・死生観と生命倫理、いのちの始まりにおける倫理的ジレンマ、倫理原則、倫理的ジレンマ、インフォームドコンセント、医療に関連する倫理的トピックス、「看護倫理のための意志決定10ステップ」、女性の出産と倫理的課題、女性とリプロダクティブヘルス、胎児・新生児の権利と擁護

(森美智子/2回)

思春期の倫理とケア・子どもの人権に関する倫理的経緯、子どもの権利条約とインフォームドアセスメント、終末期医療における倫理的問題；小児の死、脳死と臓器移植、

(小笠原知枝/2回)

終末期医療における患者の意思決定、Truth Telling、痛みの強い終末期がん患者の鎮静・安楽死について

留意事項

履修生は、人間を尊重するという意味を考える習慣を養い、人として倫理的感受性を培うことを望む。授業は相互作用なので自主的発言を求め、各自が興味のあるトピックスを選択しプレゼンテーション後、各発表に対するディスカッションを行う。

教材

1. ジョイス E・トンプソン他、ケイコ・イマイ・キシ他監訳 (2004)：看護倫理のための意思決定の10のステップ、日本看護協会出版、3000＋税
2. 鶴若麻里、松原きよみ編 (2013)：ナラティブでみる看護倫理-6つのケースで感じるちからを育む-：南江堂、1900＋税
3. 松木光子編 (2010)：看護倫理学・看護実践における倫理的基盤、ヌーヴェルヒロカワ出版、3200＋税
4. 石垣靖子他 (2014)：臨床倫理ベーシックレッスン、日本看護協会出版会、2800＋税
5. John R. Williams & 世界医師会 (WAM) 編著、樋口範雄監訳 (2007)：WMA 医の倫理マニュアル、日本医師会、医師会ホームページからダウンロード可：http://www.med.or.jp

授業計画 (15回)

- | | |
|--|-----------|
| 1. 導入ー人間の尊厳と倫理、倫理的規範、看護・保健・医療 | (内藤直子/1回) |
| 2. 福祉と倫理・死生観と生命倫理 | (内藤直子/1回) |
| 3. 思春期の倫理とケア・子どもの人権に関する倫理的経緯 | (森美智子/1回) |
| 4. 子どもの権利条約とインフォームドアセスメント
終末期医療における倫理的問題；小児の死、脳死と臓器移植 | (森美智子/1回) |

5. 終末期医療における患者の意思決定、Truth Telling	(小笠原知枝/ 1 回)			
6. 痛みの強い終末期がん患者の鎮静・安楽死について	(小笠原知枝/ 1 回)			
7. いのちの始まりにおける倫理的ジレンマ	(内藤直子/ 1 回)			
8. 倫理原則、倫理的ジレンマ、インフォームドコンセント、	(内藤直子/ 1 回)			
9. 医療に関連する倫理的トピックス	(内藤直子/ 1 回)			
10. 「看護倫理のための意志決定 10 ステップ」、 よりよい倫理的意思決定を導くための方法 1・2・3・4・5	(内藤直子/ 1 回)			
11. よりよい倫理的意思決定を導くための方法 6・7・8・9・10	(内藤直子/ 1 回)			
12. 女性の出産と倫理的課題；「看護倫理のための意志決定の 10 のステップ」	(内藤直子/ 1 回)			
13. 女性とリプロダクティブヘルス、 胎児・新生児の権利と擁護	(内藤直子/ 1 回)			
14. 看護研究倫理申請書作成のポイント	(内藤直子/ 1 回)			
15. まとめ	(内藤直子/ 1 回)			
評価基準				
1. 課題に関するレポート提出 (40%) プレゼンテーション (40%)				
2. 講義の参加度 (20%) 以上を総合的に評価する				
A (100～80 点)： 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点)： 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点)： 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満)： 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A B C D			
1. 国内外における看護倫理やバイオエシックスの考え方の歴史的背景、変遷、現状が理解でき、わが国の特徴と、課題分析ができる。				
2. 生殖医療や臓器提供について倫理的問題を多義的に識別でき、自らの考えや看護の立場（価値観）を述べることができる。				
3. 家族や患者の人権擁護を考えた看護ケアを具体的な事例から、意思決定のアセスメント法を用いて課題探求ができる				
4. 社会における看護の役割と責務・倫理とその必要性が述べられ、人として、倫理的感受性や判断力、倫理的意志決定力を高め、看護現場の倫理的問題により良い判断・意思決定のあり方を説明でき、看護ケアの質の向上を目指すことができる。				
5. 看護研究倫理申請時の留意すべき事柄が理解できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MA0701	看護管理特論M	1 年/後期	2
担当教員		課程	
藤原奈佳子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

職場（病院）組織で良質な看護サービスを提供するために、職場内の看護組織、看護チームの運営や組織力の強化に必要な知識・技術を学ぶ。

授業内容

医療現場で良質な看護サービスを提供するためには、看護組織、看護チームを構成する個々の看護職員が役割を認識し、円滑に看護実践を遂行することが求められている。本科目では、看護管理者として、看護組織力を強化し、効果的・効率的な看護ケアが実践できる知識・技術の修得をめざす。このために、看護管理に関する知識と諸理論を基盤とする科学的思考力を学び、組織的に問題を解決する方法を修得する。

留意事項

授業内容について自己の課題と照合させ、事前に関連文献等に目を通しておき、授業中は積極的に討論ができる準備をしておくこと。プレゼンテーションは、テーマの理論概説、先行研究や既存資料の観察などを通じた現状分析、自身の体験事例などを統合させて、改善策の提言、看護実践への応用などを含む。討議内容をふまえて課題レポートを作成する。

教材

必要文献は、必要に応じて提示する。

（参考書）

- ・ スティーブン P. ロビンス著、高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、2009 年
- ・ 中西睦子編集：看護サービス管理、第 3 巻、医学書院、2007 年
- ・ 井部俊子他監修：看護管理学習テキスト、第 2 版、第 1 巻、看護管理概説、日本看護協会出版会
- ・ 井部俊子他監修：看護管理学習テキスト、第 2 版、第 2 巻、看護組織論、日本看護協会出版会
- ・ 井部俊子他監修：看護管理学習テキスト、第 2 版、第 3 巻、看護マネジメント論、日本看護協会出版会
- ・ 井部俊子他監修：看護管理学習テキスト、第 2 版、第 4 巻、看護における人的資源活用論、日本看護協会出版会

授業計画 （15 回）

1. 病院の看護管理の国内外の動向分析（2 回）
病院看護管理システムの国内外文献の検討から、看護管理の概念と歴史的背景、看護管理の機能について概観
2. 組織論と組織分析（2 回）
 - 1) 組織論、組織の構造、集団の機能、医療・保健サービス提供組織、専門職組織
 - 2) 自施設または提示組織の組織分析（SWOT 分析）を実施し、組織の改善策を検討
3. 看護専門職としての人的資源活用（2 回）
 - 1) 組織行動論、人間行動学的理論をふまえたアプローチによる効果的な人的資源の活用方法
 - 2) 専門職とはどうあるべきかを探求し、キャリアに関する理論をとおして自己のキャリア発達と組織におけるキャリア開発のしくみを理解
4. 看護サービスの提供（4 回）
 - 1) 看護サービスの基本的概念と、看護サービスの提供過程のとらえ方
 - 2) 看護実践における倫理的問題の把握と意思決定や現場でおこる問題の解決手順を理解し、適切な解決策を検討
 - 3) 看護サービスの質管理
質評価の枠組みを学び、提供される看護サービスの安全管理方法、医療・看護サービスの質の評価方法

5. 看護実践におけるリーダーシップ（3回） 1) 集団力学（グループダイナミクス）の機能、看護チームにおけるリーダーの役割、医療チームにおける看護の役割 2) 看護実践の質を改善するための交渉や組織変革実践のプロセスについて変革理論を含めた理解 3) 看護組織内において、効果的な教育、研修の企画 6. 労務管理（1回） 労働に関する法規を学び、看護職として心身ともに健康で働くことができるための組織支援の理解 7. 看護をとりまく社会情勢（1回） 看護に関連する法律や制度の変遷をふまえた近年の社会情勢とその看護政策が職場に及ぼす影響 （藤原奈佳子／15回）

評価基準				
1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35% A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 看護管理に関する知識と諸理論を修得し、科学的思考力をもつ看護実践現場のリーダーとして組織力の強化に必要な知識・技術が理解できる。				
2. 看護専門職の役割と機能を認識し、看護現場でおこる問題の解決手順を理解し適切な解決策の検討ができる。				
3. 授業内容を含めて先行研究や既存資料の観察などを通した看護領域における現状分析、自身の体験事例などを統合させて、論点を伝えることができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MA0801	看護政策特論M	1 年/後期	2
担当教員		課程	
藤原奈佳子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

- 1) 政策と政策決定プロセスに関する基本的な構造を理解できる。
- 2) 看護の質向上のために、制度改革や法改正を含む政策的な働きかけや専門領域における看護政策の具体的な課題にとりくむことができる。

授業内容

特に看護制度と関連する政策課題について看護行政における政策活動や政策的な働きかけの方法、看護サービスに関する将来設計、看護職の政策的役割を探究する。看護の質向上と関係する社会保障のしくみや医療制度、医療保険制度、介護保険制度、診療報酬制度、医療法、保健師助産師看護師法などの法的基盤を理解し、看護の質向上のための課題を明確にし、その課題に効果的に取り組む政策決定のプロセス、看護行政における政策活動などの方策を提言できる力を涵養する。

留意事項

授業内容について自己の課題と照合させ、事前に関連文献等に目を通しておき、授業中は積極的に討論ができる準備をしておくこと。

教材

必要文献は都度提示する。

(参考書)

見藤隆子他：看護職者のための政策過程入門、2007 年、定価 1,944 円

井部俊子他監修：看護管理学習テキスト、第 2 版、看護制度・政策論、日本看護協会出版会、2014 年、定価 2,484 円

授業計画 (15 回)

1-2 政策決定の過程と政策提言活動

わが国の立法行政について閣法、議員立法を確認し、法律案の成立過程、政策決定のプロセスが理解できる。看護政策について具体的な政策決定プロセスが理解できる。

3-4 社会保障の概念

わが国の社会保障制度の軌跡を確認し、現在の課題と将来の福祉ビジョンについて理解できる。また、OECD ヘルスデータなどから社会保障に関して国際比較について検討することができる。

5-6 社会保障と資源

わが国の予算における社会保障関係費用の推移から社会保障に必要な費用やマンパワーについて現状の課題が理解できる。

7-8 保健医療福祉制度とヘルスケアシステム

保健・医療・福祉の主要な法律を概観し、これらの法律の基盤にたつヘルスケアシステムと現状の課題が理解できる。

9-10 看護制度と看護マンパワー

保健師助産師看護師法の改正過程を検証し、看護基礎教育の向上と看護専門職としてのあり方を考察することができる。看護師等の人材確保の促進に関する法律を確認し、看護職員需給見通し、看護職員確保対策が理解できる

11-12 医療施策と看護政策

国民のヘルスニーズと医療法改正を理解し、現状における政策課題が見いだせる。

13-15 プレゼンテーション

これまでの看護政策論の学びの中から看護の質向上のための課題を明確にし、その課題に効果的に取り組

む政策決定のプロセス、看護行政における政策活動などの方策を提言する。 (藤原奈佳子／15 回)				
評価基準				
1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35%				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 保健・医療・福祉の主要な法律を概観し、これらの法律の基盤にたつヘルスケアシステムと現状の課題を理解し、看護政策について具体的な政策決定プロセスが理解できる。				
2. 国内外の社会保障制度の軌跡を確認し、現在の課題と将来の福祉ビジョンについて検討することができる。				
3. 社会保障に必要な費用やマンパワー現状の課題を理解し看護職員需給見通し、看護職員確保対策について考察できる。				
4. 国民のヘルスニーズと医療法改正を理解し、現状における政策課題が見いだせる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MA0901	国際保健看護学特論M共通	1 年/後期	2
担当教員		課程	
西川まり子 市川誠一		博士前期課程	

授業計画詳細			
授業目的			
将来、国際社会においてヘルスの分野で活躍する基礎を学ぶために、国際的なヘルスに関する指標から、世界のヘルス状況を把握する。グローバル化の中での人々の移動や原住民のヘルスと多文化看護を理解する。世界の看護の動向、グローバルヘルスとその問題点、世界の保健部門をサポートする国連を含む国際組織やNGOの活動を理解する。 保健医療の重要な担い手として、国際社会におけるアドボカシーについて、自分の意見を持つことができるようにする。			
授業内容			
(オムニバス方式 5回と共同 10回) 西川まり子5回 西川まり子・市川誠一 共同10回 将来、国際社会においてヘルスの分野で活躍する基礎を学ぶ。授業は、初心者にも理解しやすいように、健康課題について地図上で世界を旅しながら、国際看護の専門的な知識を学ぶ。内容は、世界のヘルスの指標の見かた(共同)、世界の看護の動向、グローバル化の中での人々の移動や原住民のヘルスと多文化看護(西川まり子)、グローバルヘルスとその問題点、世界の保健部門をサポートする国連を含む国際組織やNGO。そのうえで、保健医療の重要な担い手として、国際社会におけるアドボカシーについて、自分の意見を持つことができる。国際的にみて日本の看護の特徴、日本の看護が国際社会に与える影響、役割、国際貢献として果たすべき役割について考究する。DVDにより視覚的に教授しながら、レポートを作成して討論により、具体的に修得できるようにする(共同)。			
留意事項			
学生には積極的に質疑・討論に参加することを期待する			
教材			
日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2013) ISBN978-4-7644 ¥3200 UNICEF『世界子供白書』最新版¥240、UNICEF『基礎リーフレット』最新版, ¥10 <資料> デイヴィッド ワーナー, 若井 晋(翻訳)『いのち・開発・NGO』1998, 新評論 ISBN13:978-4794804228 ¥3990 西川まり子『目で見る国際看護』DVD I, II, III, 医学映像教育センター ¥29400 X3 その他の論文資料は、適宜配布			
授業計画 (15回)			
(オムニバス方式 5回と共同 10回) 西川まり子5回 西川まり子・市川誠一 共同10回 1. 国際看護学の総論：国際看護学とは、国際看護を学ぶ意義(西川・市川) 2. ヘルスの指標：国際看護に関するヘルスの指標の捉え方と評価。 世界のヘルス：歴史的展開と現代の課題。将来に向けて。ミレニアムゴール(西川・市川) 3. 世界の看護の動向：アメリカ、カナダ、イギリス、マルタ、オーストラリア(西川) 4. 世界の看護の動向：アフリカ諸国、イスラム諸国、南アメリカ諸国(西川) 5. 世界の看護師の移動：看護師の国境を越えた移動状況、その利点と問題点(西川) 6. グローバル化の中での人々の移動：日本における医療の国際化、日本人の渡航、外国人診療、留学生、短期就労者、旅行者、移民、中国残留日本人孤児帰国者のヘルス、グローバル化の中での人々の移動：海外における移民、難民のヘルス(西川) 7. 原住民：アボリジニーやアメリカインディアン生活や社会的背景に由来するヘルスへの影響(西川) 8. グローバルヘルス：世界のヘルスの指標とともに視る世界のヘルスリーダーの焦点(西川・市川) 9. グローバルヘルス：世界で問題になっている病気やそのケア：下痢や肺炎、マラリア等(西川・市川)			

10. グローバルヘルス：世界で問題になっている病気やそのケア：人口やジェンダー問題、FGM（西川・市川）				
11. グローバルヘルス：世界で問題になっている病気やそのケア、テロと保健（西川・市川）				
12. 保健に関する国際機関やNGO：看護に関する国際機関：UNICEF, UNFPA, ICN（西川・市川）				
13. 保健に関する国際機関やNGO：看護に関する国際機関：WHO, 世界銀行（西川・市川）				
14. 15. まとめとプレゼンテーション・討論（西川・市川）				
評価基準				
1) テーマごとのレポート作成 30% 2) テーマごとの発表・質疑・討論 30%				
3) 国際保健看護に関する今後に向けての提言のレポートと発表 40%				
A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
世界のヘルスの指標と、ヘルスへのサポートにおける世界トップが考えている目標について理解できる				
グローバル化の中で、世界で問題となっているヘルスに関連する状況が理解できる				
グローバル化の中で、国境を越えた看護師の移動が理解できる				
グローバル化の中で、難民を含む世界の人々の移動に伴うヘルスに関連する問題を理解できる				
世界にヘルス、保健、看護をサポートする国際機関や NGO を理解することができる				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数	
MA2101	フィジカルアセスメント特論M	1 年/前期	2	
担当教員		課程		
山内豊明 伊藤千晴 篠崎恵美子		博士前期課程		
授業計画詳細				
授業目的				
1. フィジカルアセスメントの概念について理解する。 2. フィジカルアセスメントの構成・優先度について理解する。 3. 生命維持に関するフィジカルアセスメントを運用できる。 4. 生活を支えるためのフィジカルアセスメントを運用できる。				
授業内容				
さまざまな疾患の早期発見・予防を目的としたフィジカルアセスメントの技術・知識を修得する。具体的には、医療面接を通して病歴を聴取し、フィジカル・メンタル・ソーシャルなヘルスアセスメントができるようになること、病状や疾患別にアサメントを行い鑑別診断につなげられるようにし、その経過を記録できるようになること、が求められる。系統的にフィジカルアセスメントを習得できるように授業が構成されている。				
留意事項				
授業への出席と研究への積極的な取り組みが求められる 集中講義 (山内) 6/2 (木) 1～6 限、7/1 (金) 1～5 限 (篠崎・伊藤) 7/14 (木) 2～5 限				
教材				
山内豊明「フィジカルアセスメントガイドブック 第2版」医学書院、2005 年				
授業計画 (15回)				
1-11 フィジカルアセスメント総論 複雑な健康問題をもった対象の身体状況を診査し、臨床看護判断を実践する能力と病状や疾患別にアセスメントを行い鑑別診断方法 フィジカルアセスメントの構成・優先度 生命維持に関するフィジカルアセスメント：呼吸器系 生命維持に関するフィジカルアセスメント：循環器系 生命維持に関するフィジカルアセスメント：腹部・栄養 生命維持に関するフィジカルアセスメント：意識レベル 生活を支えるフィジカルアセスメント：高次脳機能 生活を支えるフィジカルアセスメント：感覚器系 生活を支えるフィジカルアセスメント：運動器系 (山内豊明／11 回)				
12-13 生命維持に関するフィジカルアセスメント：看護介入 (伊藤千春／2 回)				
14-15 生命維持に関するフィジカルアセスメント：看護介入 (篠崎恵美子／2 回)				
評価基準				
授業の参加状況、レポート等による総合評価 A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
臨床推論の進め方・看護臨床場面での優先度について理解し説明できる。				
生命維持に関するフィジカルアセスメントの進め方を理解し説明できる。				
生活を支えるフィジカルアセスメントの進め方を理解し説明できる。				
フィジカルアセスメントを看護介入に活用する方法について説明できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MA2201	臨床薬理学特論M	1 年/前期	2
担当教員		課程	
堀田芳弘 安藤純子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

総論において、薬理学の基礎知識について医学用語を説明でき、薬理学の大筋をつかむ。そして各論の総論とも言われている自律神経系に作用する薬物を中心として臨床で使用されている薬物について理解し、中枢神経、心臓血管系、消化器、抗感染症、抗悪性腫瘍、薬物中毒などの各論につなげる。教科書・参考書などを読むことにより理解できることを教育の優先とするため、すべてを講義しない。疾病に対して重要な薬物のポイントを認識でき類推できるようになる。体の 60%を水が占めており、体に良い水を飲んでいれば、心身の健康を増進させる。体をつくる水を飲めば脳梗塞、心筋梗塞、がん、糖尿病、肥満などの生活習慣病から、うつ病などの心の病に至るまで改善できることが知られている。どんな水を飲めば病気や老化から体を作れるか簡単な実験を通じて検討する。これらの結果について考察することにより、薬物の疾患に対する自己の考え方の向上につなげることを目的とする。

授業内容

人への薬物療法を効果的に行える能力を身につけるため、薬物の生体に対する作用機序と共に、生体の薬物に対する効果反応を理解し説明できるようにする。疾患と重ね合わせることでより薬物の薬効メカニズムを理解し、副作用、相互作用の機序、薬物の保管・管理方法などを理解し、より実践的な知識を身につけ臨床の場で応用できる力をつける。さらに課題である体をつくる水・壊す水などの副読本を読み、どのような水が、どのような疾患に有効なのか分析できる簡単な実験情報を収集し研究・解析を行う。これらの結果について考察を加えレポート化し発表を行う。

留意事項

1. 授業に積極的参加を期待する。
2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。
3. 授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させる。

教材

テキスト：薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 3 吉岡允弘ら著、医学書院（2015）2300 円
 参考書：シンプル薬理学、第 5 版、野村隆英、石川直久編集、南江堂（2014）2900 円
 最新薬理学 第 9 版 長友孝文、國友勝ら編 廣川書店（2013）7600 円
 New 薬理学 第 6 版 田中千賀子、加藤隆一 編 南江堂（2014）9504 円
 Goodman & Gillman's Pharmacological Basis of Therapeutics, 12th edition, Hardman JG.
 Limbird LE, Mc（日本語版あり）
 副読本：体をつくる水、壊す水、藤田紘一郎 ワニブックス/plus/新書（2014）800 円

授業計画（15回）

- 1-13 薬物に関する基礎的知識とともに、救急疾患と慢性疾患に用いる必要な薬剤の機序と投与に関する判断力を修得する。（堀田芳弘／13 回）
- 14-15 クリティカルケア・疼痛管理・高齢者の薬物管理における必要な薬剤とその影響をアセスメントし、適切な全身管理方法を修得する。
 高齢者に応じた薬剤の影響をアセスメントし、必要な看護を教授する（安藤純子／2 回）

評価基準

1. 授業中の発表・質疑・討論 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. レポート 30%から総合的に評価する。
- A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good)
 B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
 C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
薬物に関する基礎的知識とともに、救急疾患と慢性疾患に用いる必要な薬剤の機序と投与に関する判断力を修得する。				
クリティカルケア・疼痛管理・高齢者の薬物管理における必要な薬剤とその影響をアセスメントし、適切な全身管理方法を修得する。				
高齢者に応じた薬剤の影響をアセスメントし、必要な看護を教授する。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数	
MA2301	病態生理学特論M	1 年/前期	2	
担当教員		課程		
太田美智男 田中登美 竹川幸恵		博士前期課程		
授業計画詳細				
授業目的				
疾患理解のための、病態生理に関する基礎的な知識と考え方を学び、応用力を身につける。				
授業内容				
専門的な看護ができる基礎的知識を身につけるために、感染症、膠原病・免疫疾患、代謝・内分泌疾患、消化器疾患ならびに呼吸器、循環器、腎臓などそれぞれの領域の基本的な疾患についてとりあげ、病態生理について演習形式などの双方向講義を行い、理解を深めて基礎的知識を身につける。後半の 3 回は専門看護師による実践的な講義を行う。				
留意事項				
講義の出席は必須であり、課題についての予習を必要とする。				
教材				
臨床病態学 1、2、3、総論（ヌーヴェルヒロカワ） その他の参考文献、テキストは講義の都度に紹介する。				
授業計画 （15回）				
1 免疫：免疫の機構、アレルギー疾患、膠原病				
2 自己免疫疾患、免疫不全、				
3 感染症：敗血症、臓器別感染症				
4 炎症と修復：炎症性マーカー、発熱、SIRS、ショック				
5 代謝異常：糖尿病、脂質異常症、痛風				
6 体液の異常：電解質異常ならびに酸塩基平衡の異常に関わる疾患				
7 循環障害：高血圧、うっ血性心不全、塞栓症、梗塞				
8 血液疾患：貧血、凝固異常症、白血病、リンパ腫				
9 消化器の腫瘍：食道癌、胃癌、大腸癌、直腸癌、肝癌、胆管癌、胆嚢癌、膵癌				
10 肺腫瘍：COPD、肺癌、中皮腫				
11 腎臓・膀胱・前立腺腫瘍、女性生殖器の腫瘍：腎癌、膀胱癌、前立腺癌、子宮癌、卵巣癌、乳癌				
12 癌の治療法：外科療法、放射線療法、化学療法、分子標的治療薬（太田美智男／12 回）				
13 慢性呼吸器疾患看護領域の具体的事例について検討する				
14 慢性呼吸器疾患看護領域の事例の倫理的課題とコンサルテーションを検討（田中登美／2 回）				
15 慢性呼吸器疾患看護領域の具体的事例について検討、併せて倫理的課題も討議する（竹川幸恵／1 回）				
評価基準				
毎回の講義の出席とプレゼンテーション 50%、課題に対するレポート提出 50% など積極的参加を総合的に評価する。 A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
対象の状態、生理学的変化の解釈、臨床看護判断と実践における知識を習得できる。				
基本的な疾患の病態生理が理解でき、それを臨床判断に活かすことができる。				
慢性期疾患の患者の生理学的変化を理解でき、臨床判断に活かすことができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MB0101	看護教育学特論M	1 年/前期	2
担当教員		課程	
小笠原知枝 篠崎恵美子 伊藤千晴		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

教育学や教育心理学などの諸理論を基盤として、看護教育学に関する基礎的概念や理論を修得し、基礎看護教育における基礎的知識、看護ケア技術、看護者としての倫理的態度を育成する指導方策を探究する。合わせて、諸理論や EBN などの先行文献をクリティークすることにより、効果的な教育方法や教材の開発法などについて探究する。

授業内容

看護教育の現状と課題、看護学カリキュラム作成のプロセス、教授・学習過程における学習理論、教育指導方略、教育評価・実習評価、看護過程展開に関する教育指導法などについて、先行文献を提示しながら講義する。

看護教育制度と看護教育課程の変遷、看護教育対象の理解、アセスメント技術・対人関係技術・援助ケア技術に関する教育指導法などについて先行文献を提示して講義する。

看護者としての倫理的態度の教育、臨地実習指導と実習環境について、先行文献を提示しながら講義する。
(オムニバス方式／15 回)

(小笠原知枝／5 回)

国内外の看護教育の現状と課題、看護学カリキュラム作成のプロセス、教授・学習過程における学習理論、教育指導方略と教育評価・実習評価

(篠崎恵美子／6 回)

看護教育制度と看護教育課程の変遷、看護教育対象の理解、アセスメント技術・対人関係技術・援助ケア技術に関する教育指導法

(伊藤千晴／3 回)

看護者としての倫理的態度の教育、臨地実習指導と実習環境 (伊藤千晴／1 回)

(小笠原知枝、篠崎恵美子、伊藤千晴／1 回) 共同

学生の修得内容のまとめ 発表と検討により自己の教育力と研究に反映させる

留意事項

1. 授業に積極的参加を期待する。
2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。
3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。

教材

必要に応じてその都度提示及び配布する。

参考書：

1. 杉森みど理・舟島なをみ (2012) . 看護教育学 第 5 版, 医学書院.
2. 近藤潤子、小山真理子訳 (1988) . 看護教育カリキュラム, その作成過程, 医学書院.
3. Kolb, D. A. (1984) . Experiential Learning: Experience as the Source of Learning and Development, Prentice-hall, New Jersey.
4. 佐藤光子, 宇佐見千恵子, 青木康子, 平の朝久. 看護教育における授業設定-指導案作成の実際, 医学書院.
5. 小笠原知枝 (2014) . 看護学生の臨地実習と実習評価, 関西看護医療大学紀要, 第 6 巻、号, 3～11

授業計画 (15 回)

- 1 看護教育の現状と課題 (小笠原知枝／1 回)
- 2-3 看護教育制度と看護教育課程の変遷 (篠崎恵美子／2 回)

4-5 看護学カリキュラム作成のプロセス (小笠原知枝／2回)				
6 教授・学習過程における学習理論 (小笠原知枝／1回)				
7 教育指導方略と教育評価・実習評価 (小笠原知枝／1回)				
8 看護教育対象の理解 (篠崎恵美子／1回)				
9-11 アセスメント技術・対人関係技術・援助ケア技術に関する教育指導法 (篠崎恵美子／3回)				
12-13 看護者としての倫理的態度の教育 (伊藤千晴／2回)				
14 臨地実習指導と実習環境 (伊藤千晴／1回)				
15 まとめ 発表と討議により自己の教育力と研究に反映させる (小笠原知枝、篠崎恵美子、伊藤千晴／1回) 共同				
評価基準				
1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30%				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. わが国の看護教育制度の歴史的発展にみられる特徴と課題について分析できる				
2. 看護学カリキュラム作成のプロセスを理解し、現行大学のカリキュラムをクリティークできる。				
3. 教授・学習過程における基礎的知識を理解し、体験学習理論の特徴について説明できる。				
4. 看護学生の気質と特徴を理解し、アセスメント技術、対人関係技術、援助ケア技術に関する指導法における留意事項を述べることができる。				
5. 看護者としての倫理的態度の教育法について考察し、討議することができる				
6. 看護学生の実習環境に関する課題を挙げ、その対策について検討できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MB0201	看護教育学演習M	1年/後期	2
担当教員		課程	
小笠原知枝 篠崎恵美子 伊藤千晴		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

看護教育学特論Ⅰの学習を踏まえ、授業展開方法や演習展開方法、目的に応じた教育評価や実習評価方法などの演習を通して学修し、効果的な教育方法や教材の開発法、及び評価法などを先行研究やエビデンスに基づいて探求する。看護学生の看護実践能力、問題解決能力、判断能力などを高める教育・実習指導法とその効果を測定する評価法を模索すると同時に、看護学教師としての教育力を発展させ、自己の研究課題や研究計画に反映させる。

授業内容

1. 看護学教育は様々なレベルの集団において実施されるために、まず、集団力学に関連した理論の理解と教育研究のエビデンスに基づく看護学生の特性の理解
2. 目的に応じた授業案の設計法と教育評価法
3. 教材の開発のプロセスとその効果測定尺度の開発
4. アセスメント技能、対人関係技能、倫理的態度育成の授業展開法とその評価法
5. 問題解決過程の思考過程（臨床判断能力を高める）を重視した授業指導
6. 評価の目的に応じた実習評価法
7. 臨地実習指導者の教育指導と実習環境間との調整

まとめ

学生の修得内容のまとめ 発表と検討により自己の教育力と研究に反映させる

（オムニバス方式／30回）

（小笠原知枝／10回）

看護学教育は様々なレベルの集団において実施されるために、まず、集団力学に関連した理論の理解と教育研究のエビデンスに基づく看護学生の特性の理解、目的に応じた授業案の設計法と教育評価法、問題解決過程の思考過程（臨床判断能力を高める）を重視した授業指導

（篠崎恵美子、伊藤千晴／9回）共同

アセスメント技能、対人関係技能、倫理的態度育成の授業展開法とその評価法、

（小笠原知枝、篠崎恵美子、伊藤千晴／11回）共同

教材の開発のプロセスとその効果測定尺度の開発、評価の目的に応じた実習評価法、臨地実習指導者の教育指導と実習環境間との調整

留意事項

1. 授業に積極的参加を期待する。
2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。
3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。

教材

必要に応じて適宜使用

参考テキスト

1. 杉森みど理・舟島なをみ（2012）．看護教育学 第5版，医学書院．
2. 近藤潤子、小山真理子訳（1988）．看護教育カリキュラム，その作成過程，医学書院．
3. 小笠原知枝，久米弥寿子（1996）．看護過程の教授計画と指導，Quality Nursing, Vol. 2, No. 2, pp. 18-
4. 小笠原知枝（1996）．人間関係技術における教授計画と指導，Quality Nursing, Vol. 2, No. 4, pp. 24-27.
5. 小笠原知枝，久米弥寿子，辻聡子，田中結華（1996）．データ収集と批判的思考能力のトレーニング，

Quality Nursing, Vol. 2, No. 9, pp. 19-25.				
授業計画 (30回)				
授業はオムニバス方式、一部共同して展開する。				
1-2 看護学教育は様々なレベルの集団において実施されるために、まず、集団力学に関連した理論の理解と教育研究のエビデンスに基づく看護学生の特性の理解 (小笠原知枝／2回)				
3-6 目的に応じた授業案の設計法と教育評価法 (小笠原知枝／4回)				
7-10 教材の開発のプロセスとその効果測定尺度の開発 (篠崎恵美子、伊藤千晴／4回) 共同				
11-20 アセスメント技能、対人関係技能、倫理的態度育成の授業展開法とその評価法 (篠崎恵美子、伊藤千晴／10回) 共同				
20-23 問題解決過程の思考過程(臨床判断能力を高める)を重視した授業指導 (小笠原知枝／3回)				
24-26 臨地実習指導者の教育指導と実習環境間との調整 (伊藤千晴／3回)				
評価の目的に応じた実習評価法				
27-28 (小笠原知枝、篠崎恵美子、伊藤千晴／3回) 共同 (伊藤千晴／3回)				
30 まとめ：学生の修得内容のまとめ 発表と検討により自己の教育力と研究に反映させる (小笠原知枝、篠崎恵美子、伊藤千晴／1回) 共同				
評価基準				
1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30%				
A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 一単元の授業設計を作成し、それに基づき模擬講義を実施できる。				
2. 各自でアセスメント技術、コミュニケーション技術、臨床判断技術育成の教育プログラムを作成し、グループでクリティークできる。				
3. グループワークにおけるファシリテーターの役割をとることができる。				
4. 看護教育における実習指導の意義と実習評価上の留意点をあげ説明できる				
5. 知識、技術、態度などの目標達成に向けての具体的指導法を討議することができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MB0301	看護教育学演習Ⅱ	1 年/後期	2
担当教員		課 程	
篠崎恵美子 伊藤千晴		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

看護実践能力は看護教育において基盤を形成し、また生涯にわたり個々の能力を維持・向上させることが求められる。この科目では基礎教育および継続教育における看護実践能力育成のための教育の能力を強化することを目的とする。具体的には次の2点である。

- 1) 看護基礎教育における臨地実習での実習指導を体験し、看護学実習の意義や目的・目標到達のための効果的な指導方法の実際を学ぶ。これらの体験を振り返ることで看護者としての倫理観の育成や、看護学実習指導に関する自己の課題を明確にする。
- 2) 看護実践現場でのフィールドワークおよび教育担当者への調査を実施し、継続教育の現状把握・分析を行い、課題を見いだす。さらに、見いだされた課題に対する看護実践現場での教育計画を立案する。

授業内容

看護教育学特論Ⅱ、看護教育学演習Ⅱなどで学んだ内容を踏まえて、看護基礎教育を受ける学部生への臨地実習に参加し、担当教員とともに学生への指導の計画・評価を行う。

臨地実習の指導案を作成し、教員とともに指導を振り返ることで、看護学実習の意義や目的・目標到達のための効果的な指導方法の理解を深める。具体的には教員の指導のもとで以下のことを行う。1) 学内で授業案(実習指導案)・教育評価の方法などの検討 2) 臨地実習での学生指導 3) 臨地実習指導終了後に学生の評価を検討する。臨地実習での教育指導の体験を振り返り、看護学実習の意義、看護者としての倫理観の育成、看護学実習指導に関する自己の課題を明確にする。

また、看護実践現場での教育能力を強化するために、1) 看護実践現場でのフィールドワークおよび教育者への調査 2) 看護実践現場での教育計画の立案および発表・討議を行う。(篠崎恵美子、伊藤千晴／30 回共同)

留意事項

1. 学内および実習現場での学習に積極的に参加し、現場の指導者・スタッフの協力が得られるようにする
2. 提示された事前課題については、期日までにまとめて積極的に教員から指導を受ける
3. 臨地実習での教育指導体験を振り返り、自己の課題を明確にし、発表・討議する
4. 看護実践現場でのフィールドワークおよび教育担当者への調査を実施する

教材

必要に応じて適宜使用する

授業計画 (30 回)

- | | |
|--|--------------|
| 1-4 臨地実習における授業案の作成
実際に指導を行う看護学実習について | (篠崎恵美子、伊藤千晴) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的・目標の明確化 ・ 指導対象となる学生の学生観の明確化 ・ 授業案の作成(学習目的、教授方法、場所、教材・教具、評価など) | |
| 5-20 臨地実習指導 | (篠崎恵美子、伊藤千晴) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員とともに実際に指導を行う臨地実習について打ち合わせを行う ・ 担当する臨地実習に参加する ・ 事前に作成した実習指導案をもとに、学部生への指導を行う ・ 学部生への指導の報告を教員へ行う | |
| 21-22 臨地実習での教育指導の体験の振り返りおよび自己の課題の明確化の発表・討議・まとめ | (篠崎恵美子、伊藤千晴) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨地実習での教育指導を振り返る | |

・看護学実習の意義を探究する ・看護者としての倫理的態度の教育、看護学実習指に関する自己の課題を明確にする	
23-24	看護実践現場における継続教育の基本的な考え方 (篠崎恵美子、伊藤千晴) ・継続教育の定義 ・継続教育の対象 ・継続教育の範囲 ・継続教育の基準
25-28	看護実践現場におけるフィールドワークおよび教育者への調査 (篠崎恵美子、伊藤千晴) ・継続教育の現状を調査する ・現状を分析し、課題を見いだす
29-30	看護実践現場での教育計画の立案および発表・討議 (篠崎恵美子、伊藤千晴) ・調査の結果をもとに課題に対する教育計画を立案する ・立案した教育計画について発表し、討論する
評価基準	
5つの到達目標について事前課題 60%、看護学実習への積極的な参加状況 20%、事後課題 20%で評価する	
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)	
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)	
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)	
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)	
到達目標	A B C D
1. 看護教育学特論 M、看護教育学演習 M など学んだ内容を踏まえて、看護基礎教育を受ける学部生への臨地実習における授業案を作成することができる	
2. 看護基礎教育の看護学実習において目的・目標到達のために効果的な指導ができる	
3. 看護学実習の指導体験をもとに、看護学実習の意義、看護者としての倫理的態度の教育、看護学実習指導に関する自己の課題を明確にすることができる	
4. 看護実践現場でのフィールドワークおよび教育担当者への調査を実施し、現状を把握し、今日的な課題を見いだすことができる	
5. 見いだされた課題について、教育計画を立案することができる	

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MB2101	看護保健管理学特論M	1 年/前期	2
担当教員		課 程	
藤原奈佳子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

院内から院外へとケアが継続する看護保健管理上の課題に対処するために、看護実践リーダーとして、他職種・他部門・他施設・地域などとの協働・連携の役割・方法および連携システムの構築の要件とその活用法を学ぶ。

授業内容

病院の機能分化がはじまり、急性期医療での在院日数は短縮される一方で、退院後も継続して在宅ケアができるように地域との連携を担保することが重要となっている。こうした社会情勢をふまえて看護の質向上をめざすためには、病院の臨床現場における看護管理のみならず、地域における多職種が協働しておこなわれる継続ケアを視野にいたった幅広い保健管理が求められている。

看護実践リーダーとして、院内の地域連携室（退院調整支援室）や外来、他職種との連携や地域における院外施設との連携の役割を学ぶ。

質の高い継続看護を実施するために、病棟から外来もしくは院外へと連携する際に、患者のニーズを適切にアセスメントし、かつ連携先の条件を分析する科学的思考力を身につけ、病院から地域・在宅へ移行するシステムの構築方法を修得する。

留意事項

各回のテーマに関する国内外論文を検索し、論文内容、研究方法について学習しておくこと。プレゼンテーションは、テーマの理論概説、先行研究や既存資料の観察などを通じた現状分析、自身の体験事例などを統合させて、改善策の提言、看護実践への応用などを含む。討議内容をふまえて課題レポートを作成する。

教材

必要文献は、必要に応じて提示する。

（参考書）

- ・石原ゆきえ他著：多職種協働事例で学ぶ退院支援・調整、日総研、2014 年
- ・細田満和子：「チーム医療」とは何か、日本看護協会出版会、2012 年
- ・田村由美：新しいチーム医療、看護の科学社、2012 年
- ・井部俊子他監修：看護管理学習テキスト、第 2 版、看護管理学研究、日本看護協会出版会、2014 年

授業計画（15 回）

1. 保健医療福祉制度に関する国内外動向と関連法規（2 回）
保健医療福祉制度とヘルスケアサービス提供組織を規定する法律、特に医療法、社会保障制度改革推進法
2. 地域包括ケアシステムと看-看連携（3 回）
具体的な地域における地域包括ケアシステムについて、院外施設との連携の方法について説明し、看-看連携における課題を見出し、その解決案の提示
3. チーム医療における看護職の役割（3 回）
多職種で構成される院内のチーム医療における看護職の役割と院内における連携の効果的な運営や教育、協働の方法、他職種との調整方法
4. 院内から院外への連携（3 回）
急性期病院での退院支援に関する効果的な方策、多職種ならびに関連施設との連携のあり方を検討し、院内から地域へと継続ケアを視野にいたった包括的な看護保健管理上の課題を検討
5. 院内外の連携における看護実践リーダーの役割（1 回）
看護実践リーダーとしての、院内の地域連携室（退院調整支援室）や外来、他部門、他職種との調整や地域の院外施設との連携方法

連携に際し、入院中の患者のニーズを適切にアセスメントし、連携先の（訪問看護ステーション・在宅支援診療所・高齢者ケア施設・医療機関など）の条件の分析など科学的思考力を養い、病院から地域・在宅へ移行するシステムの構築において看-看連携を中心とした課題を検討

6. 連携と患者情報（1回）

連携と患者情報について院内外で共有される退院サマリや看護記録などから抽出される患者情報について、電子カルテなどの取扱いに関する規則や医療情報管理に関する法律などを理解

7. 連携システムの構築のための要素・要件とその活用方法（2回）

患者の意向をふまえた療養生活を支援するツールの検討

（藤原奈佳子／15回）

評価基準

1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35%

A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)

B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 院内のチーム医療における看護職の役割を理解できる。				
2. 院内から院外への連携において、多職種ならびに関連施設との連携のあり方を検討できる。				
3. 院内外の多職種連携における看護実践リーダーの役割を理解し、患者のニーズを適切にアセスメントでき、看-看連携を中心とした課題を検討できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数		
MB2201	看護保健管理学演習M	1 年/後期	2		
担当教員		課 程			
藤原奈佳子 永坂和子		博士前期課程			
授業計画詳細					
授業目的					
看護管理学領域に関連する課題を中心に、国内外の論文や図書などから情報を収集し、自己の研究課題を導く。					
授業内容					
論文講読は、研究デザインや研究方法の妥当性と信頼性、得られた結果の検討など批判的に精読する。文献検索法、文献整理など研究の基礎的な技術や情報収集能力を修得する。必要な研究方法については、専門書を輪読する。また、既存資料の利用に際して、分析方法、結果の解釈、課題の明確化へと発展させる能力を修得する。学生の関心に応じて先進的取り組みを行っている組織においてフィールドワークを行い、その結果を報告・討議し看護管理上の課題を検討する。					
国内外の文献検索法を学び、文献の系統的整理ができる。					
研究について「バーンズ&グローブ看護研究入門」を中心に購読し、研究計画作成に必要な知識について学習するとともに自己の課題について探究する。					
既存資料の利用に際して、分析方法、結果の解釈、課題の明確化へと発展させることができるようにする。					
留意事項					
自己の研究課題を明確にするために、事前に自ら演習計画を立案するなど積極的な準備が必要である。					
教材					
必要文献は都度提示する。					
書名：バーンズ&グローブ看護研究入門					
著者名：Nancy Burns／Suzan K. Grove／監訳＝黒田裕子他、					
出版社・出版年：エルゼビア・ジャパン；原著第7版・2015 年 価格：9,720 円					
授業計画 (30 回)					
1-6 国内外の文献検索法を学び、文献の系統的整理ができる。(藤原奈佳子・永坂和子／6 回)					
7-22 研究について「バーンズ&グローブ看護研究入門」を中心に購読し、研究計画作成に必要な知識について学習するとともに自己の課題について探究する。(藤原奈佳子・永坂和子／16 回)					
23-26 既存資料の利用に際して、分析方法、結果の解釈(藤原奈佳子・永坂和子／4 回)					
27-30 課題の明確化へと発展させることができる。(藤原奈佳子・永坂和子／4 回)					
評価基準					
1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35%					
A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good)					
B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)					
C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)					
D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)					
到達目標		A	B	C	D
1. 国内外の文献検索法を学び、文献の系統的整理ができる。					
2. 既存資料の利用に際して、分析方法、結果の解釈、課題の明確化へと発展させる能力を修得できる。					
3. 研究計画作成に必要な知識について学習するとともに自己の課題について探究することができる。					

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MB2301	看護保健管理学演習MⅡ	1年/後期	2
担当教員		課程	
藤原奈佳子 永坂和子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

看護管理学および保健管理学領域における ①リーダー能力 ②管理者能力 ③現場指導者としての教育能力の強化をめざす。これらの能力内容を理解し、知識・技能・コミュニケーション力を含めて計画的、効果的な実践現場での展開方法を学ぶ。そのために(1)リーダー、(2)管理者、(3)教育支援者のそれぞれの役割と機能について、実習病院でのフィールドワークを体験し、その前後に学内演習を加える。

授業内容

看護マネジメントに求められる能力について、(1)実践リーダー(チームリーダー、チーム医療・他職種との調整者、退院支援調整者)、(2)管理者(看護師長、看護部長)、(3)教育支援者(スタッフ、学生、教育担当師長)のそれぞれの立場における役割の認識と機能を果たす能力を理解し、看護マネジメントとして実施展開する能力の強化・向上を目指す。上記の三つの課題について、実習病院を中心として、その前(準備)と後(まとめ)は学内での演習を設定する。この演習における看護マネジメントは、看護管理に関する論理的な考え方に加えて、医療体制、ヘルスケアシステムにおける社会資源など患者、家族をとりまく保健医療体制についても事前に学び、早期の退院支援が地域での継続ケアに有機的につながることを意識しながら、実習病院でのとりくみや看護マネジメントの実践に接することにより自施設での実践力の強化・向上をめざす。

留意事項

1. 学内と現場での演習において積極的に参加し、現場の指導者やスタッフの協力が得られるように調整する。
2. 授業の課題について事前に情報収集し、レポートを期日ごとに作成し発表や報告を行う。
3. 自己の看護マネジメントの実践力強化・向上について具体的に評価する。

教材

教員および実習病院担当者より適宜提示

授業計画 (30回)

(1)実践リーダー(チームリーダー、チーム医療・他職種との調整者、退院支援調整者)、(2)管理者(看護師長、看護部長)、(3)教育支援者(スタッフ、学生、教育担当者)のそれぞれの立場の役割と機能を理解し、現場での看護マネジメントとしての実践展開能力の強化・向上をめざす。

上記三つの課題を達成する方法は以下のとおりとする。

- 1 教員の指導のもと、学内で演習の準備のための文献検討と討議によるレポートを作成する。
 - 2 実習病院の管理者(または担当者)の指導のもと、可能な範囲で実践リーダー、管理者、教育支援者に同行またはインタビューを実施し、実際の行動や態度、考え方をとおして、その行動や態度がもたらす影響について看護管理特論M、看護保健管理学特論Mの授業内容とあわせて考察する。
 - 3 教員の指導のもと、学習内容を深めるためのまとめをする。各自のレポートに基づいて学内での発表・討論から本演習履修学生が情報を共有することで演習効果を増大させる(オムニバス方式/30回)
- 1-4: (学内) 三課題のフィールドワークの準備(文献調査、討論、レポート作成)(藤原奈佳子、永坂和子/4回)
- 5-12: (病院) 病院における看護実践にかかわるリーダー(チームリーダー、チーム医療・他職種との調整者、退院支援調整者、中堅看護管理者、看護副師長、主任、係長)の役割・機能を果たす実践力の向上(永坂和子/8回)
- 1) 病棟スタッフマネジメント、チームナースの遂行方法
 - 2) 良質なチーム医療展開のための他職種との調整方法
 - 3) 安心できる継続ケアへの展開、退院支援調整のとりくみ方法

4) 倫理的調整の方法 5) リーダーの役割と機能 13-22 : (病院) 病院における看護管理者 (看護師長、看護部長) としての役割・機能を果たす実践力の向上 (永坂和子/10 回) 1. 看護師長 (中堅管理者) として 1) 病棟の理念に基づく病棟運営 2) キャリア開発におけるスタッフのキャリア発達へのアプローチ方法 3) 質の高い看護の提供のためのとりくみ 4) 看護師長の役割と機能 2. 看護部長 (トップ管理者) 1) 病院の方針、看護部の方針をふまえた看護部の組織づくり 2) 他職種、他部門との調整、交渉の方法 3) 人的資源管理と組織力強化へのとりくみ 4) 看護の質と財務管理 5) 看護部長の役割と機能 (藤原奈佳子) 23-28 : (病院) 病院における教育支援者 (スタッフ、学生 of 教育担当者) としての役割・機能を果たす実践力の向上 (永坂和子/6 回) 1. スタッフへの教育支援 1) 看護実践力の評価方法 2) 新卒看護職員の教育方法 3) 職務満足をもたらす教育方法の工夫 2. 看護学生の実習における教育支援における留意点 3. 教育支援者の役割と機能 29-30 : (学内) 上記の三課題のレポートに基づく発表・討論・まとめ (藤原奈佳子、永坂和子/2 回)				
評価基準				
1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35% A (100~80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79~70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69~60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 看護実践リーダーの役割・機能の理解と効果的な看護マネジメントの展開方法について理解し、自己能力を判断して自施設で有効な範囲で演習の成果を活用できる。				
2. 管理者の役割・機能の理解と効果的な看護マネジメントの展開方法について理解し、自己能力を判断して自施設で有効な範囲で演習の成果を活用できる。				
3. 教育支援者の役割・機能の理解と効果的な教育の展開方法について理解し、自己能力を判断して自施設で有効な範囲で演習の成果を活用できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MB9101	看護教育管理学特別研究M I	1 年/通年	4
担当教員		課程	
篠崎恵美子 藤原奈佳子 伊藤千晴		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

本科目の目的は看護教育・看護管理の質保証を目指して、看護活動の改善・改革のために先進的な課題で実践的研究に取り組む、看護教育学・看護保健管理学の領域を看護教育管理学分野としている。その分野で広い視点が持てるように、分野で指導を行う。学生は分野の中から主指導教員を選び、その教員と相談して副指導教員を選択する。専門的視点から科学的思考力と研究能力を持った、看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献ができる高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につける。適切で実行可能な研究計画書を作成し、研究倫理委員会への提出を目指す。

授業内容

本授業科目は看護の質保証を重視して、専門性の高い看護を行うための科学的な知見を明らかにしていくために、看護の現象をよりとらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるかについての枠組みを明確化し、看護の実践に有用な研究を行う。

研究は分野の広い視野を基盤として個別研究を行う。看護の改善・改革のために、看護サービスの提供方法、看護システム、看護教育内容と展開方法などについて取り組む。研究の過程（①研究テーマと目的の決定 ②研究倫理を含めた研究デザインの選定、データ収集方法の決定 ③データ分析方法の決定 ④研究の精度を保つ管理方法の検討 ⑤修士論文計画書の完成）を理解し、研究計画書を作成する。

授業は、学生が広い視野をもつために分野の教員が学生のテーマに合わせて討論を主体として講義を含めて展開する。学生主体で研究過程に沿って取り組み、教員は①～⑤に沿って指導を行う。

（篠崎恵美子）

看護教育学領域では、看護教育および基礎看護領域における独自の研究テーマ・方法を含む研究計画書を作成する。

研究テーマは、フィジカルアセスメントの教育・実践に関する研究、看護技術教育に関する研究、コミュニケーションスキルに関する研究などである。

（伊藤千晴）

研究テーマは、看護教育に関する研究（基礎教育・継続教育）、看護倫理に関する研究などである。

（藤原奈佳子）

1. いずれのテーマにおいても看護実践現場の組織特性を踏まえた看護マネジメントの改善や変革のために新たな知見の提案ができること。
2. 研究手法は、看護・医療の質を構造（提供体制）、過程（ケアや医療の内容）、成果（実際に得られた効果）の視点から測る評価研究、調査研究、介入前後比較研究、関係探索研究、疫学研究手法を用いる。
3. 研究テーマ例は、①看護記録を活用した生活支援システム ②多職種連携と協働 ③医療専門職の人的資源活用 ④看護実践における質評価 ⑤院内の療養環境、医療安全 ⑥病院の機能分化をふまえたヘルスケアシステム ⑦難病・慢性疾患患者の継続看護など。

留意事項

1. 国内外の文献などから情報収集を行い、レビューを作成する。
2. 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。
3. レポートなどの提出物と発表資料は期日ごとに提出する。

教材

- ・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。
- ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。

授業計画（60回）				
1-20 共通性が高く有用な研究課題と手法の代表的な研究例などを用いて講義演習を行う。				
21-23 研究テーマと目的を決定する（国内外の文献クリティークを行い、研究テーマ・目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・新規性・独創性・社会的価値及び研究倫理を明確にする）				
24-27 研究デザインの選定、論文レポートと研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討する				
28-30 研究目的を達成するための実行可能なデータ収集方法を選択する				
31-35 データ分析方法を選択する				
36-41 研究過程において研究の精度を保つ管理方法を検討する				
42-48 研究計画書を作成する				
46-52 看護学研究会委員会による「研究計画発表会」において準備・発表・討論を行う				
53-60 発言した研究計画の評価に基づいて修正し、研究計画書を完成する				
評価基準				
5つの到達目標について評価する				
A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究論文のクリティークができる				
2. 研究テーマと目的について社会的ニーズの分析・研究の社会的価値・研究倫理を検討し、研究テーマと目的を決定できる				
3. 適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる				
4. 研究データ収集方法の具体化とデータ分析法を決定できる				
5. 看護教育・看護管理の質保証を目指して、看護活動の改善・改革のために研究計画書を完成できる				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MB9201	看護教育管理学特別研究MⅡ	2年/通年	4
担当教員		課程	
篠崎恵美子 藤原奈佳子 伊藤千晴		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

特別研究Ⅱでは特別研究Ⅰの研究計画書に沿って看護教育・看護管理の質保証をめざして、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む。看護教育学・看護管理学の領域を看護教育管理学分野としている。その分野で広い視点が持てるように2つの領域でのいずれかにおいて個別専門的視点から科学的思考力と研究能力と看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につける。そのために研究論文を完成させる。

授業内容

本授業科目は看護の質保証を重視して、専門性の高い看護を行うための科学的な知見を明らかにしていくために、看護の現象をよりとらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるのかについての枠組みを明確化し、看護の実践に有用な研究を行う。そのため研究目的を達成するために特別研究Ⅰで作成した研究計画に沿って次の①～⑧の通り研究を進める。研究の精度を保つ方法で①データを収集する。②効率的なデータ入力方法、③妥当なデータ分析方法によって、研究結果の信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて結果をまとめる。④研究結果データに基づいて、適切な考察と結論を導き論理的にまとめる。⑤研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を適切に検討する。⑥「修士論文中間発表会」において評価を受けて修士論文を修正し、完成させる。

看護教育領域では、看護教育および基礎看護領域における独自の研究テーマ・方法を含む研究計画書を作成する。

(篠崎恵美子)

看護教育学領域では、看護教育および基礎看護領域における独自の研究テーマ・方法を含む研究計画書を作成する。

研究テーマは、フィジカルアセスメントの教育・実践に関する研究、看護技術教育に関する研究、コミュニケーションスキルに関する研究などである。

(伊藤千晴)

研究テーマは、看護教育に関する研究（基礎教育・継続教育）、看護倫理に関する研究などである。

(藤原奈佳子)

1. いずれのテーマにおいても看護実践現場の組織特性を踏まえた看護マネジメントの改善や変革のために新たな知見の提案ができること。
2. 研究手法は、看護・医療の質を構造（提供体制）、過程（ケアや医療の内容）、成果（実際に得られた効果）の視点から測る評価研究、調査研究、介入前後比較研究、関係探索研究、疫学研究手法を用いる。
3. 研究テーマ例は、①看護記録を活用した生活支援システム ②多職種連携と協働 ③医療専門職の人的資源活用 ④看護実践における質評価 ⑤院内の療養環境、医療安全 ⑥病院の機能分化をふまえたヘルスケアシステム ⑦難病・慢性疾患患者の継続看護などである。

留意事項

1. 科学文献などから情報収集と分析、論理的な文章化が求められる。
2. レポートなどの提出物は期日ごとに行う。
3. 授業への積極的参加と研究への積極的な取り組み、行動力が求められる。

教材

1. 学生は自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。
2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。

授業計画 (60 回)				
1-10 研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備 11-20 研究の精度を保つ方法でデータを収集 21-35 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果の信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化研究結果に基づいて、適切な考察と結論を導き論理的にまとめる 36-43 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討 44-50 「論文発表会」において適切な準備の上で発表・討論 51-60 発表した論文の評価に基づいて修正し論文を完成する				
評価基準				
6つの到達目標について評価する A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究計画に沿って研究を進め、研究の精度を保ちデータ収集ができる				
2. 適切なデータ分析方法によって結果の信頼性を高め妥当な解釈ができる				
3. 適切な図表を加えて結果をまとめることができる				
4. 研究結果に基づいて適切な考察と結論を導くことができる				
5. 研究目的から結論までの論旨の一貫性と信頼性・妥当性が確認できる				
6. 「論文発表会」において、評価を受け、論文を修正弛緩性することができる				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MC0101	小児看護学特論M	1 年/前期	2
担当教員		課程	
森美智子 倉田節子 深谷久子		博士前期課程	
授業計画詳細			
授業目的			
小児とその家族の対象理解を深めるための小児看護学の基盤となる諸理論に基づいて、小児と家族の健康問題の把握方法と質の高い看護実践への適用を探究する。また、小児の最善の利益を保障するための倫理的判断に基づき、さまざまな健康状態にある小児と家族の健康問題に応じた援助方法を考究する。			
授業内容			
小児とその家族の対象理解を深めるために、小児看護学の基盤となる諸理論を学び、小児の成長・発達に影響する環境との相互作用について理解する。小児各期の成長・発達の特性や子どもと家族をめぐる現代社会の特徴を踏まえ、主要な発達理論を用いて小児各期の認知や行動について科学的根拠に基づいて分析し、小児の理解および看護実践への理論的裏づけや活用について探究する。また、家族の発達や機能について諸理論を用いて小児の重要な環境としての家族をアセスメントし、養育・教育に関する問題を理解し、研究的取り組みや介入方法の構築を目指す。小児看護におけるさまざまな現象や現代的課題を理解し、小児と家族の最善の利益を保障するための倫理的判断に基づいた援助方法を探究する。小児医療や小児看護の現場で起こりやすい倫理的諸課題について明確にし、課題解決のための具体的援助方法の提案に結びつける。			
留意事項			
各回の授業テーマに関する事前学習を主体的に行い、授業に積極的に臨むこと。 本学の受験資格規定（授業の出席状況）に準ずる。また、20 分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退あわせて 3 回で欠席 1 回となる。			
教材			
中野綾美 小児の発達と看護 メディカ出版・2015 年 3800 円+税 その他、適宜紹介			
授業計画 （15 回）			
1－2 小児看護における専門性、小児医療や小児看護における現代的課題 小児を取り巻く福祉・教育・医療の現状と課題について学び、あらゆる発達過程や健康状態にある小児とその家族に関わる小児看護の役割と、看護の質の向上を目指した看護実践能力について検討する （森美智子/2 回）			
3－9 成長発達に関する理論について学び、小児看護における成長発達の評価方法を検討する ・代表的な発達理論（フロイト・エリクソン・ピアジェ・ボウルビイ等）について理解を深める ・小児の成長発達、セルフケア能力の評価や、フィジカルアセスメントについて学び、小児の成長発達や健康状態を包括的にアセスメントする方法について検討する ・小児の発達過程や複雑な健康問題に応じた適切なケア方法とケアの質評価について検討する ・文献や自身の看護実践経験に基づき、適切なケア方法およびケア実践評価としてのアウトカム評価方法を検討する （倉田節子/7 回）			
10-15 家族に関する理論について学び、小児にとって重要な環境としての家族のアセスメント方法や問題に応じた介入方法を検討する ・家族発達段階論、家族構造機能論について学び、家族の状態や家族援助の結果をアセスメントする方法を検討する ・小児医療および小児看護における小児の権利について学び、小児医療や小児看護の現場で起こりやすい倫理的諸課題に対応するための方法を検討する ・小児看護におけるインフォームドコンセント、プレパレーションについて、自身の実践経験や文			

献から検討する ・小児のストレス、コーピング、レジリエンスについて理解を深め、治療や処置を受ける小児の力が発揮できるような支援のあり方を検討する (深谷久子/6回)				
評価基準				
テーマに沿ったレポート作成および授業への取り組み・発表内容・参加状況等から総合的に評価する。 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 小児と家族に関する諸理論について理解し、小児の理解および看護実践への理論的裏づけに応用できる。				
2. 科学的根拠に基づいた小児の発達過程や健康状態のアセスメント方法およびケアの質評価について理論・文献・事例から検討し、小児と家族への適切なケアを探索することができる。				
3. さまざまな健康問題を抱えた小児の最善の利益を保障するための具体的援助方法について提案できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MC0201	小児看護学演習M	1 年/後期	2
担当教員		課程	
森美智子 倉田節子 深谷久子		博士前期課程	

授業計画詳細	
授業目的	
小児看護の看護実践能力の向上を目指し、受講生の関心領域において、健康問題をもつ小児と家族への支援体系の開発・構築の基盤となる援助方法を検討する。	
授業内容	
小児看護学特論Mを基盤に、小児看護を専門とする看護職の役割について探究し、看護実践能力の向上に寄与する方法を検討する。病棟や外来における小児看護実践をする際に必要となる社会資源やチームアプローチの適用、小児の最善の利益を保证するための具体的方法について検討する。ケアの困難度が高い小児と家族への看護実践に必要なチームアプローチ、小児科外来や短期入院等短い関わりにおける看護実践の評価方法、混合病棟における小児看護人材育成支援、病気や障害を抱えて在宅へ移行する小児と家族への退院支援に向けた指導案作成など、学生の関心のあるテーマについて文献検討や事例検討で得られた示唆を基に、フィールドワークを取り入れ、小児と家族に貢献できる看護実践モデルや支援計画を考究する。 (共同方式／30 回) 学生各自のテーマに沿って関連領域の文献および実践事例検討を基に、看護実践計画を立案する。必要に応じて、対象となるフィールドで情報収集や看護実践を行う。 中間発表と討議 更なる文献や実践事例検討を行うとともに、課題に基づいて、小児と家族への支援体系の開発・構築を目指した看護実践モデルや支援計画を作成する。 必要に応じて、対象となるフィールドで情報収集や看護実践を行う。 発表・討議 看護実践のまとめと提出	
留意事項	
各回の授業テーマに関する事前学習を主体的に行い、授業に積極的に臨むこと。 本学の受験資格規定（授業の出席状況）に準ずる。また、20 分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退あわせて 3 回で欠席 1 回となる。	
教材	
適宜紹介	
授業計画 (30 回)	
1-4 学生各自のテーマに沿って関連領域の文献および実践事例検討を基に、看護実践計画を立案する。 必要に応じて、対象となるフィールドで情報収集や看護実践を行う。 5-12 中間発表と討議 13-18 更なる文献や実践事例検討を行うとともに、課題に基づいて、小児と家族への支援体系の開発・構築を目指した看護実践モデルや支援計画を作成する。 必要に応じて、対象となるフィールドで情報収集や看護実践を行う 19-24 発表・討議 25-30 看護実践のまとめと提出 (森美智子、倉田節子、深谷久子／30 回) 共同	
評価基準	
テーマに沿ったレポート作成および授業への取り組み・発表内容・参加状況等から総合的に評価する。 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)	

到達目標	A	B	C	D
1. 小児とその家族への看護実践について、関心領域に沿って理論・文献・実践事例から検討し、小児と家族に寄与する方法を提案できる。				
2. 看護実践をする際に必要となる社会資源の活用、および多職種によるチームアプローチについて検討できる。				
3. 小児看護実践において考慮すべき倫理や、小児の最善の利益の保障について、理論・文献・実践事例から検討できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MC0301	小児看護学演習Ⅱ	1 年/後期	2
担当教員		課程	
森美智子 倉田節子 深谷久子		博士前期課程	
授業計画詳細			
授業目的			
小児看護のケアの質の向上と、小児看護の人材育成を目指し、①リーダー能力、②管理能力、③看護実践を支援する教育能力の強化を目的とする。これらの能力について理解し、小児とその家族の最善の利益を保障するための計画的かつ効果的な看護実践の展開方法を学ぶ。そのために、小児看護における（１）実践リーダー、（２）管理者、（３）教育支援者の役割・機能の実践力の強化・向上の３つの課題について、小児病棟や小児科外来等でのフィールドワークおよび学内演習によって展開する。			
授業内容			
小児看護における（１）実践リーダー（２）管理者（３）教育支援者の役割・機能を果たす能力を理解し、これらの能力の強化および向上を目指す。小児の在院日数の短縮化が進む中、複雑な問題を抱える小児とその家族の最善の利益を守るためのケアの確立、小児看護を専門とする看護師の確保の困難さや、人材育成をする上での課題について現状を把握し、小児看護を提供する看護職者への教育支援・キャリア支援についても検討する。2単位のうち、1単位（５日間）は、小児病棟や小児科外来等フィールドでの具体的な実施とし、その前（準備）と後（まとめ）は学内演習を設定する。教員の指導のもとに、（１）学内でフィールドワークの準備のための文献検討および討議によるレポート作成、（２）フィールドワークにおいては、臨床のリーダーや看護管理者の指導のもとに、実践の見学・共同実施をすることで、①実践リーダー ②管理者 ③教育支援者の役割の３つの課題を実践する。（３）学習内容を深めるためのまとめは学内で学生主体で教員とともに学生のレポートに基づいて発表・討論により行う。 （オムニバス方式／30 回）（一部共同） （森美智子／4 回） フィールドワークの準備（文献検討、討論、レポート作成） （森美智子、深谷久子／8 回） 小児看護実践の現場におけるリーダーの役割・機能・コンサルテーション能力の向上 13-22（実習場）（森美智子、倉田節子／10 回） 13-22（実習場）小児看護実践の現場における管理者としての役割・機能を果たす実践力の向上 （倉田節子、深谷久子、森美智子／8 回） 小児看護実践の現場におけるスタッフと看護学生（小児看護実習）への教育的支援の実践力の向上（実習場） ／上記の３つの課題のレポートに基づく発表・討論・まとめ（学内）			
留意事項			
授業テーマに関する事前学習を主体的に行い、積極的に取り組むこと。 本学の受験資格規定（授業の出席状況）に準ずる。また、20 分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退あわせて 3 回で欠席 1 回となる。			
教材			
適宜紹介			
授業計画（30 回）			
1-4	フィールドワークの準備（文献検討、討論、レポート作成）（森美智子）		
5-12	（実習場）小児看護実践の現場におけるリーダーの役割・機能・コンサルテーション能力の向上 （森美智子、深谷久子） 1）受け持ち小児と家族へのケアの質保証を目指したスタッフへのケア支援 2）医療チーム、他職種との連携調整方法 3）小児と家族が抱える倫理的問題に対する調整 4）中間看護管理者としてのリーダーの役割・機能		

13-22	(実習場) 小児看護実践の現場における管理者としての役割・機能を果たす実践力の向上 (森美智子、倉田節子)
1) 小児の最善の利益の保障および説明と同意の方法 2) 小児病棟や小児外来におけるケアの質を保证するシステム 3) 小児看護における人材資源管理とキャリア支援 4) 小児病棟や小児外来における感染管理・安全管理 5) 小児ケアの可視化および経済的評価	
23-28	(実習場) 小児看護実践の現場におけるスタッフと看護学生(小児看護実習)への教育的支援の実践力の向上 (倉田節子、深谷久子、森美智子)
1) スタッフへの教育支援 (1) スタッフの看護実践の評価と支援 (2) 小児看護初心者(新卒および異動看護師)への支援 2) 看護学生の小児看護実習における教育支援 実習計画に基づく実習展開における教育支援方法	
29-30	上記の3つの課題のレポートに基づく発表・討論・まとめ (学内) (倉田節子、深谷久子、森美智子)
評価基準	
評価項目に沿い、看護の実践状況、演習に対する態度、意欲、レポートなどから総合的に評価する。 A (100~80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79~70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69~60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)	
到達目標	
1. 小児看護における看護実践リーダーの役割・機能の理解と小児と家族の最善の利益を保障する看護実践 について理解し、対象に応じた方法で実施できる。	A B C D
2. 小児が療養している現場における看護管理者の役割・機能、小児看護の質保証および人材育成について理解し、現場の状況に応じた方法で実施できる。	A B C D
3. 小児看護における教育的機能について理解し、自己能力を判断して現場や対象に応じた方法で実施できる。	A B C D

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MC2101	リプロダクティブヘルス看護学特論M	1 年/前期	2
担当教員		課程	
内藤直子 杉下佳文		博士前期課程	

授業計画詳細			
授業目的			
リプロダクティブヘルスの歴史を学び、母性と父性を育む看護学とジェンダー視点から今日的課題の生殖医療における倫理と女性の人権を守る視座で、女性のエンパワーメントを高める健康支援の課題を明確にし、その方略を探求する。			
授業内容			
自立した実践リーダー・管理者・教育者の育成のために性と生殖に関する健康課題や健康問題から、近年の動向を講述する。Well-being の維持や各健康問題に対する看護援助の方法論では、看護理論やその活用法を講義しディスカッションする。院生は生殖医療の倫理的問題や施策を理解し、女性がリプロダクトの正しい知識や意志決定ができ母子機能遂行に向け、看護活動や研究ができるよう子産み子育てケアの本質から論文をクリティカルに分析し、母性看護の新しい理論構築の方法を学ぶことができる。			
留意事項			
1 回の授業時間：90 分、母性看護理論や今日的課題や動向を中心に進める。 講義及び課題についてプレゼンテーションやレポート発表や、討議・ディベートを行うので、積極的に参加することを期待する。			
教材			
1. 新女性医学体系 11・リプロダクティブヘルス 武谷雄二、内藤直子、他：中山書店、2001：31500+税 2. 中絶技術とリプロダクティブ・ライツ 塚原久美：勁草書房、2014：3700+税 3. 母性-こころ・からだ・社会 繁多 進、大日向雅美、新曜社、1992：2500+税 4. 出産の歴史人類学 鈴木七美、新曜社、1997：3800+税 他は、適時紹介する。			
授業計画（15 回）			
1-3. 各論 母性看護に有用な概念と理論 (内藤直子/3 回) 4-5. 母性看護に有用な概念と理論 * 課題発表とディベート、家族機能 (杉下佳文/2 回) 6-10. 夫婦の関係性・親密性・性と生殖に関連する健康問題に関する動向と施策 日本・海外の文献検索と分析・批判 家族の体験、感情、行動の文献の分析と批判 看護実践場面の文献検索と分析、学生の研究課題の検討・明確化 看護の対象理解の研究アプローチ * 課題発表とディベート 疫学的な研究手法 質的帰納的な研究手法・生理的な測定方法まとめ・研究計画 (内藤直子/5 回) 11-12. PBL 学習の課題をグループワークし、パワーポイント作成 (杉下佳文/2 回) 13-14. リプロダクティブヘルスケアとヘルスプロモーション関連の実践から女性の well-being を探り PBL 学習の課題発表 (内藤直子/1 回) 15. まとめ・評価 (内藤直子/1 回)			
評価基準			
1. 課題に関するレポート提出・プレゼンテーション、その内容で評価 (80%) 2. 講義の参加度 (20%) 以上の総合評価 A (100~80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79~70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69~60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)			

到達目標	A	B	C	D
1. リプロダクティブヘルスに関する健康問題と健康課題の国内外の今日的動向を分析し、探究すべき課題の提示ができる。				
2. リプロダクティブヘルスケアに関する健康課題や健康問題への科学的アプローチの方法を説明できる。				
3. 心身の健康に関する諸理論をリプロダクティブヘルスケア看護学の研究や実践に活用できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MC2201	リプロダクティブヘルス看護学演習M	1 年/後期	2
担当教員		課程	
内藤直子 杉下佳文		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

リプロダクティブヘルスの視座から生涯を通じた女性の健康支援の学問分野から知識に依拠し、子どもを産み育てるケアの本質を追究する方法と理論を教授し、自己の関心課題を中心に、文献検討を通し研究的感性を培う。更に自己の研究課題を明確にできるよう事例を用い問題や課題を討議し、健康に関わる研究をPBL学習でクリティカルに分析し、女性の安寧を考慮した看護技術とケアシステム確立に向かう修士論文作成を容易にする。

授業内容

女性のリプロダクティブヘルスの文献の分析で看護介入モデルを検討し、自己の研究課題を明確にできるよう実践から女性の健康を考え、研究的に発展させる修論作成を容易にする。特に、リプロダクティブヘルスケアを必要とする思春期・更年期講座や子育て家族や、医療施設の実践活動に参加し対象のアセスメントから、研究課題を探索する。また、今日的動向を取り上げ講述しながら、Well-being の維持や各健康問題の看護援助の方法論では看護理論やその活用法を講義し、質疑し討議する。

留意事項

講義と課題学習に毎回参加して、討議やプレゼンテーションを積極的に行うことを求める。また、学会参加および発表、可能な範囲で地域へ出向き演習として体験学習を期待する。講義の必携テキストは多く提示されているが、文献に親しみ読破することを望む。

教材

1. APA 論文作成マニュアル APA 著、江藤裕之他：医学書院・2000：3800＋税
2. ACADEMIC NURSING PRACTICE-未来のヘルスケアを創出する看護学部への挑戦 Lois k. Evans & Norma M. Lamg 著、森田チエコ他監訳：看護の科学社・2009、3400＋税
3. グランデッド・セオリー・アプローチ実践ワークブック さい木クレイグヒル滋子著：日本看護協会出版会・2010、2400＋税
4. 質的研究方法ゼミナール さい木クレイグヒル滋子著：医学書院・2008、2600＋税
5. 研究デザインー質的・量的そしてミックス法 John W. Creswell 著、操 華子他：日本看護協会出版会・2008：3000＋税

授業計画 (30 回)

- 1-6. ガイダンス 学習の方法と講義予定について：

概要・学習進度・評価方法・マックマスター大学方式 PBL と SE 学習方法

リプロダクティブヘルスに関する健康課題や健康問題の今日的動向：

 - 1) 不妊女性へのカウンセリングの今日的課題
 - 2) Well-being の維持や各健康問題に対する看護援助の方法論
 - 3) 出生前診断をめぐる課題と事例研究の方法論
 - 4) 若年妊娠・出産女性と家族への支援 (内藤直子/6 回)
- 7-8. 母性看護学領域における研究方法論の動向
 - 1) 量的研究の文献クリティークと看護介入モデルの検討 (杉下佳文/2 回)
- 9-10 母性看護学領域における研究方法論の動向
 - 2) 質的研究の文献クリティークと看護介入モデルの検討 (内藤直子/2 回)
- 11-12 研究事例に基づいた研究方法論・アプリケーションソフトの演習 (1)

①科学論文作成のための和文ワープロ②計算ソフト及びグラフ機能
- 13-14 研 究事例に基づいた研究方法論を学ぶ (2)

③ SPSS 統計ソフトについて (杉下佳文/4 回)				
15-22 研究事例に基づいた質的研究方法論を学ぶ (3)				
④ナラティブ・インタビュー ⑤ グランデットセオリー・アプローチ				
研究事例に基づいた研究方法論を学ぶ (4)				
⑥ ミックス法とトランアンギュレーション				
既習の概念や理論から各自の研究課題や興味関心から選択し PBL 学習				
① 女性への暴力・思春・更年期の女性特有な問題について				
② 女性のライフステージにみる親性について				
③ 子育て支援・多胎児の育児支援・父親・祖父母など (内藤直子/8 回)				
23-24 PBL 学習の課題をグル〜プワ〜クし、パワーポイント作成				
25-26 PBL 学習の課題をグル〜プワ〜クし、パワーポイント作成 (内藤直子・杉下佳文/4 回) 共同				
27-28 リプロダクティブヘルスケアとヘルスプロモーション関連の実践から				
女性の well-being を探り PBL 学習の課題発表 (杉下佳文/2 回)				
29-30 まとめ・評価 (内藤直子/2 回)				
評価基準				
1. 文献による情報収集・分析 (30%) 2. 発表・質疑・討論 (40%) 3. レポート (30%)				
A (100~80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79~70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69~60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. リプロダクティブヘルスに関する健康課題や問題をもつ対象者への看護実践について、取り組む研究課題を明確にすることができる。				
2. 研究課題に必要な文献の抄読、クリティークから適した看護介入モデルの検討を行うことができる。				
3. リプロダクティブヘルスに関する健康課題や問題をもつ対象者への看護実践について、多面的に分析する研究過程を理解できる。				
4. 研究課題に必要な文献の抄読、クリティークからアウトカム評価法を理解し、研究課題の枠組みを構築できる。				
5. 研究事例を通して必要な研究手法のトレーニングを実施し、基本的レベルを習得できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MC2301	リプロダクティブヘルス看護学演習Ⅱ	1 年/後期	2
担当教員		課程	
内藤直子 杉下佳文		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

リプロダクティブヘルス看護における管理能力、看護実践力の質的向上への臨床指導力の強化を図ることを目的とする。周産期における倫理的問題への対応、エビデンスの臨床への適用、業務管理、ケア評価、周産期周辺の母子支援システムを充実・発展させるうえでのリーダーシップ、社会参画の方法など、実践で知識・技術・コンサルテーション力を含めて計画的効果的な実践の展開方法を学ぶ。そのために周産期センターでのフィールドワークを行い、その前後に学内演習を加えて展開する。

授業内容

リプロダクティブヘルス看護学演習Ⅱは、リーダーシップ・看護管理・臨床指導力についても、強化・向上を目指す。周産期センターでのフィールドワークを中心とする。後期履修期間で、各自が実習を計画する。その具体的日程は、演習到達度目標に沿って３段階のレベルを設定し、３区分（１期プレ実習・導入、２期メイン実習・展開、３期ポスト実習・まとめ）に分け、日常業務の臨床現象で看護スタッフが困っていること、知りたいことの価値ある課題を、探索するための実習であり、科学的に検討することである。プレ実習の前（オリエンテーション・準備）と後の（まとめ）、メイン実習の後（まとめ）、ポスト実習と、その後の（まとめ）の学内演習を設定し、理論的な考え方を学び実践力の強化・向上をめざして進める。

本科目演習Ⅱの演習・実習は、クリティカルシンキングにより、入院中の妊産褥婦と看護職者のケア満足度やケアリングの評価の一致度、管理者の課題や、臨床実習の指導方法の課題や、リーダーシップなどについて、フィールドワークを中心に行い、リプロダクティブヘルスケアの向上につながることをめざして実施する。

（１）学内でフィールドワークの準備のための文献検討と討議によるレポート作成 （２）フィールドワークは臨床のリーダーと管理者の指導のもとに実践の見学・共同実施および臨床にとって効果的である範囲で課題を実践する。ここでいう教育支援者の役割・機能は臨床のスタッフや看護学生（母性看護学実習）への支援を指す。（３）学習内容を深めるためのまとめは学内で実施し、教員と共に学生が主体的にレポートに基づき発表・討議により進める。

（オムニバス方式／３０回）（一部共同）

（学内演習）

リプロダクティブヘルス看護学演習Ⅱオリエンテーション、フィールドワーク準備について：文献調査、討議、レポート作成、学内演習として、PBL 教育方法で、進め適時、教員や学生が相互に質疑・討議して効果的に進める。

（学内演習）フィールドワークの課題の討議・まとめを行う。

（内藤直子／１２回）

（実習場）

周産期周辺のリプロダクティブヘルス看護における業務管理、ケア評価、周産期周辺の母子支援システムを充実・発展させるうえでのリーダーシップ、社会参画の方法リーダーの役割能力・コンサルテーション能力向上／周産期センターにおける看護業務管理、ケア評価について／周産期センターにおけるスタッフと看護学生（母性看護学実習）への教育的支援の実践力の向上

（内藤直子、杉下佳文／１８回）（共同）

留意事項

- １．課題について事前に情報収集し、レポートを期日毎に作成し発表や報告を行う。
- ２．フィールド・ワークの演習計画を教員の指導のもとに立案する。
- ３．自己の実践力強化・向上について具体的に評価する。

教材

各教員により研究論文を中心に適宜使用

授業計画（３０回）

1-3：（学内演習）

- １）リプロダクティブヘルス看護学演習Ⅱオリエンテーション

2) フィールドワーク準備について：文献調査、討論、レポート作成				
3) 学内演習として、以下の内容で、PBL 教育方法で、進め適時、教員や学生が相互に質疑・討議して効果的に進める。 (内藤直子)				
4-9: (実習場) 周産期周辺のリプロダクティブヘルス看護における業務管理、ケア評価、周産期周辺の母子支援システムを充実・発展させるうえでのリーダーシップ、社会参画の方法リーダーの役割能力・コンサルテーション能力向上				
1) 母子支援システムと、ケアの質保証のためにスタッフへのケア支援				
2) 他職種・機関との連携調整方法の実際				
3) 倫理的調整の方法				
4) 中間管理者としてのリーダーの役割・機能 (内藤直子、杉下佳文)				
10-12: (学内演習) フィールドワークの課題の討論・まとめを行う。 (内藤直子)				
13-18: (実習場) 周産期センターにおける看護業務管理、ケア評価について				
1) 個人情報の保護の方法				
2) 個別事例と家族のケアの質管理方法				
3) 事例ケアの質保証のためのケアの組織化とケア評価、及びケア体制づくり				
4) 人事管理と組織力強化				
5) 周産期センターにおける危機管理				
6) ケアの質管理と経営管理を両立させる方法 (内藤直子、杉下佳文)				
19-21: (学内演習) フィールドワークの課題の討論・まとめを行う。 (内藤直子)				
22-27: (実習場) 周産期センターにおけるスタッフと看護学生(母性看護学実習)への教育的支援の実践力の向上				
1) スタッフへの教育支援				
(1) 各スタッフのケア実践力の形成的評価を行い、各スタッフの受け持ち事例を用いてリプロダクティブヘルス看護の知識と技術力向上(事例検討・実践場面での共同実施・アセスメント・ケア方法・技術などの個人およびグループへの指導・訓練)に向けた教育的支援を行う。				
(2) 実践例について連携調整方法・社会資源利用・チームケア展開方法を分析する。				
2) 看護学生の母性看護学実習での教育支援				
実習計画に基づく実習展開における教育支援方法を挙げ、教育実践する。 (内藤直子、杉下佳文)				
28-30: (学内演習) フィールドワークの課題をレポートし、発表・討論・まとめを行う。 (内藤直子)				
評価基準				
1. 課題の抽出分析およびフィールドワーク準備 (30%) 2. フィールドワークレポート (40%) 3. フィールドワーク後の課題における質疑・討論・提言 (30%)				
A (100~80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79~70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69~60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 看護管理者・リーダーシップの役割・機能の理解と効果的な実施方法について理解し、自己能力を判断して臨床に有効な範囲で実践できる。				
2. 看護実践力の質的向上への臨床指導力の強化を図るため、リプロダクティブヘルス看護を実践できる。				
3. リプロダクティブヘルス看護における教育的機能について理解し、自己能力を判断して臨床に有効な範囲で教育的役割を実践できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MC9101	発達看護学特別研究M I	1 年/通年	4
担当教員		課程	
森美智子 内藤直子 倉田節子 深谷久子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

本科目の目的は、発達看護学の領域において、科学的思考力と研究能力を有する看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につけるために、研究計画書を作成することである。ここでは発達看護活動の改善・改革につながることをめざして、理論的・実践的な課題を小児看護学・リプロダクティブヘルステ論Mと小児看護学・リプロダクティブヘルス看護学演習M I・M IIおよび共通科目から学んだ内容を活用して、発達看護学の先進的な課題で実践的研究に取り組む。適切な研究計画書を完成することができる。さらに、研究倫理審査会への提出を目指す。

授業内容

本授業科目は看護の質保証を重視して、専門性の高い看護を行うための科学的な知見を明らかにしていくために、看護の現象をよりとらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるのかについての枠組みを明確化し、看護の実践に有用な研究を行う。

研究は分野の広い視野を基盤として、2つの領域のいずれかに焦点を当てて個別研究を行う。看護の改善・改革のために、看護サービスの提供方法、看護システム、看護教育などについて取り組む。研究のプロセスを理解し、研究計画書を作成する。研究のプロセスは、①研究テーマと目的の決定、②研究倫理を含めた研究デザインの選定、データ収集法 ③データ分析法 ④研究の精度を保つ質管理方法 ⑤修士論文計画書を完成する。

(森美智子)

小児看護領域における研究課題の明確化に際し、既存の文献を検索し、社会的状況や問題の現状把握を通して社会的ニーズを分析し、小児看護への貢献や研究の新規性を検討する。研究テーマは、①小児看護に携わる看護師への教育支援、②小児看護における人材育成とキャリア支援、③小児看護に携わる看護師の専門職としての自律性、④小児と家族への看護実践の質評価、⑤病気と共に生活する小児と家族への支援、⑥苦痛を伴う検査・処置を受ける小児へのケア、⑦医療・保健・福祉領域における小児と家族への支援などを行う。

(倉田節子)

発達看護学における小児看護学領域の研究は、小児とその家族への看護の質の向上と対象者の最善の利益の保障を追究したテーマとする。小児病棟の縮小化の中で、小児看護を専門とする人材育成は重要課題であるため、小児看護に携わる看護師への教育支援も含む。そのために、対象者の現状から支援の示唆を得る調査研究や、その結果から看護の質を評価する研究を行う。研究手法としては、対象者の体験を明らかにする質的研究、質問紙調査、看護ケアや対象者の認識を測定する尺度開発を目的とした因子分析などである。研究対象が小児やその家族であることを想定したデータ収集やデータの解釈、考察に留意して指導する。

(深谷久子)

発達段階からみた小児の看護過程、先天性障害をもつ小児に関する研究、ハイリスク新生児と母親への看護ケアについてなどの研究を探索する。

(内藤直子)

リプロダクティブヘルス看護学では、グローバルな視野で女性の生涯にわたる性と生殖に関する課題に取り組む。研究テーマは、①女性の月経ケア、②不妊治療女性のナラティブ、③褥婦と助産師のケアリング CBA 日本版尺度、④出産育児期母性の WPL-R 日本版尺度、⑤流産産婦の心理的ケア調査、⑥産婦リラックス簡易判定表と温罨法の生理的ケア評価、⑦単胎児と双胎児の子育て観尺度 CPS-M97 と支援法開発、⑧子育てと時短の仕事子育ての変化構造、⑨低出生体重児母親の辛さ抑うつ明確化、⑩育児の社会化、⑪国内外の看護教育方法、⑫就労妊婦のコンフリクト WFC 6 次元モデル日本版尺度、⑬国内外の助産歴史研究、⑭切迫早産女性の GOL と煎茶洗浄後の細菌等を行う。

留意事項				
1. 国内外の文献などから情報収集を行い、レビューを作成する。 2. 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。 3. レポートなどの提出物と発表資料は期日ごとに提出する。				
教材				
1. 学生は、自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により検索する。 2. 教員は、必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。				
授業計画 (60 回)				
1-20 共通性が高く有用な研究課題と手法の代表的な研究例などを用いて講義演習を行う。 21-23 研究テーマと目的を決定：(自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・研究新規性、独創性・社会的価値・研究倫理を明確にする。) 24-27 研究デザインの選定、論文レポートと研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討 28-30 研究目的を達成するために実行可能なデータ収集法を選択 31-35 データ分析法の選択 36-41 研究プロセスにおいて研究の精度を保つ質管理方法 42-48 研究計画書を作成 49-52 看護学研究科委員会による学生とテーマ関連教員参加の下「研究計画発表会」において準備・発表・討論 53-60 発表した研究計画の評価に基づいて修正し、また、発達看護学分野のテーマ関連の教員が参加し助言の下、研究計画書を完成する。				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究論文のクリティークができる。				
2. 研究テーマと目的について社会的ニーズの分析・研究の社会的価値・研究倫理を検討し、研究テーマと目的を決定できる				
3. 適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる				
4. 研究データ収集方法の具体化とデータ分析法を決定できる				
5. 発達看護学分野の看護活動の改善・改革のために新しい知見が予測される研究計画を完成できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MC9201	発達看護学特別研究MⅡ	2年/通年	4
担当教員		課程	
森美智子 内藤直子 倉田節子 深谷久子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

本研究では、小児看護学・リプロダクティブヘルス看護学領域を発達看護学分野として構成し、特別研究Ⅰの研究計画書に沿って特別研究MⅡは小児看護・リプロダクティブヘルス看護の質保証をめざして、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む。その分野で広い視点が持てるように2つの領域でのいずれかにおいて個別専門的視点から科学的思考力を備えた看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につける。そのため、独創的な論文を作成する。

授業内容

授業内容は、研究目的を達成するために特別研究Ⅰで作成した研究計画に沿って次の①～⑧の通り研究を進める。研究の精度を保つ方法で①データを収集する ②効率的なデータ入力方法、③妥当なデータ分析方法によって、研究結果の信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて結果をまとめる、④研究結果データに基づいて、適切な考察と結論を導き論理的にまとめる、⑤研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を適切に検討する。

（森美智子）

小児看護領域における研究課題の明確化に際し、既存の文献を検索し、社会的状況や問題の現状把握を通して社会的ニーズを分析し、小児看護への貢献や研究の新規性を検討する。研究テーマは、①小児看護に携わる看護師への教育支援、②小児看護における人材育成とキャリア支援、③小児看護に携わる看護師の専門職としての自律性、④小児と家族への看護実践の質評価、⑤病気と共に生活する小児と家族への支援、⑥苦痛を伴う検査・処置を受ける小児へのケア、⑦医療・保健・福祉領域における小児と家族への支援を行う。

（倉田節子）

発達看護学における小児看護学領域の研究は、小児とその家族への看護の質の向上と対象者の最善の利益の保障を追究したテーマとする。小児病棟の縮小化の中で、小児看護を専門とする人材育成は重要課題であるため、小児看護に携わる看護師への教育支援も含む。そのために、対象者の現状から支援の示唆を得る調査研究や、その結果から看護の質を評価する研究を行う。研究手法としては、対象者の体験を明らかにする質的研究、質問紙調査、看護ケアや対象者の認識を測定する尺度開発を目的とした因子分析などである。研究対象が小児やその家族であることを想定したデータ収集やデータの解釈、考察に留意して指導する。

（深谷久子）

発達段階からみた小児の看護過程、先天性障害をもつ小児に関する研究、ハイリスク新生児と母親への看護ケアについてなどの研究を探索する。

（内藤直子）

リプロダクティブヘルス看護学では、グローバルな視野で女性の生涯にわたる性と生殖に関する課題に取り組む。研究テーマは、①女性の月経ケア、②不妊治療女性のナラティブ、③褥婦と助産師のケアリングに関する研究、④出産育児期母性の子育ての尺度 ⑤流産産婦の心理的ケア調査、⑥産婦リラックス簡易判定表と温罨法の生理的ケア評価、⑦単胎児と双胎児の子育て観尺度 CPS-M97 と支援法開発、⑧子育てと時短の仕事子育ての変化構造、⑨低出生体重児母親の辛さ抑うつ の明確化、⑩育児の社会化、⑪国内外の看護教育方法、⑫就労妊婦のコンフリクト、⑬国内外の助産歴史研究、カンガルーケアに関する研究などを指導する。

留意事項				
1. 科学文献などから情報収集と分析、論理的文章化が求められる。 2. レポートなどの提出物は期日ごとに行う。 3. 授業への積極的参加と研究への積極的な取り組み、行動力が求められる。				
教材				
1. 学生は、自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。 2. 教員は、必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。				
授業計画 (60回)				
1-10 研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備。 11-20 研究の精度を保つ方法でデータを収集。 21-35 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果の信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化研究結果に基づいて、適切な考察と結論を導き論理的にまとめる。 36-43 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討。 44-50 「論文発表会」において適切な準備の上で発表・討論。 51-60 発表した論文の評価に基づいて修正し論文を完成する。				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究計画に沿って研究を進め、研究の精度を保ちデータ収集ができる。				
2. 適切なデータ分析方法によって結果の信頼性を高め妥当な解釈ができる。				
3. 適切な図表を加えて結果をまとめることができる。				
4. 研究結果に基づいて適切な考察と結論を導くことができる。				
5. 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性が確認できる。				
6. 「論文発表会」において、評価を受け、論文を修正し完成することができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MD0101	クリティカルケア看護学特論M	1 年/前期	2
担当教員		課程	
柴山健三		博士前期課程	

授業計画詳細			
授業目的			
クリティカルケアにおける看護師の専門的役割と教育、研究動向を理解し、クリティカル状況下にある患者・家族の治療環境において、患者・家族の苦悩を理解し、病による人間の体験を哲学的に考察する。また、特殊な治療環境内にある患者・家族の精神的・心理的反応のアセスメントができ、予期的対応や危機的介入の援助法について理解し、予期的対応や危機的介入の援助法ならびに危機介入の看護実践評価や有効性を研究的探求し、研究課題を明らかにする。 クリティカル状況下にある患者とその家族を中心とした看護実践をするための病態、治療およびその管理方法、クリティカル状況下にある患者への生体侵襲による反応と適応について理解できる。			
授業内容			
自立した実践リーダー・管理者・教育者の育成のためにクリティカルケア看護の対象者を理解するにあたり、生命の尊厳や内的世界などの哲学的知識を学び、生命哲学的視点を深めることができるようにする。集中治療環境の特殊性を理解し、的確にアセスメントする基礎的知識を得ることができるようにする。 また、クリティカルケア看護の対象をより深く理解し、適切な援助を実践するために必要な QOL や病の軌跡などの諸理論を理解したうえでアセスメントおよび研究的介入を行い、その方法について探索する。 具体的内容 クリティカルケアにおける看護師の専門的役割と教育、研究動向、クリティカルケアの概念、歴史的背景、介入研究の今日的動向、患者・家族の治療環境へのアセスメント。救急外来や集中治療室の構造・環境、設備、法的基準、構成スタッフ、特殊な集中治療室、感染予防対策など、クリティカル状況下にある患者への生体侵襲による反応と適応。神経・内分泌反応、血液凝固系、サイトカイン、危機の概念・危機理論と看護支援。危機事例の分析、ラザルスのストレス・コーピングモデル、クリティカル状況下にある患者の体験や苦悩の実際。救急外来患者の事例紹介、CCU 患者での事例紹介とこれらの病による人間の体験へのホリスティック看護実践への哲学的検討、クリティカル状況下にある患者家族の体験や苦悩の実際。交通外傷患者家族の事例紹介、脳血管障害患者家族での事例紹介とこれらの病による人間を持った家族体験へのホリスティック看護実践への哲学的検討、患者・家族への危機介入への実際。薬物中絶、自殺企図患者事例からの分析検討、患者・家族への危機介入への実際。呼吸不全から脳死に至った患者事例からの分析検討、危機介入の看護実践評価や有効性、看護実践課題の検討。			
留意事項			
学習は主体的に臨み、議論には積極的に発言することを期待する			
教材			
1) ひととは生命をどのように理解してきたか：山口裕之：講談社・2011 年：1700 円 2) はじめて学ぶ生命倫理、「いのち」は誰がきめるのか：小林亜津子：筑摩書房・2011 年：819 円 3) 病いの哲学：小泉義之：筑摩書房・2006 年：756 円 4) 「尊厳死」に尊厳はあるか：中島みち：岩波書店・2007 年：720 円 5) 手塚治虫傑作選「家族」：手塚治虫：祥伝社・2008 年：750 円 6) 家族エンパワーメントをもたらす看護実践：中野彩美 編集：へるす出版・2005 年：6090 円 7) 妻と最期の十日間：桃井和馬：集英社・2010 年：740 円 その他適宜紹介する。			
授業計画 (15 回)			
1-2. クリティカルケアにおける看護師の専門的役割と教育、研究動向、クリティカルケアの概念、歴史的背景、介入研究の今日的動向			

3-4. 患者・家族の治療環境へのアセスメント。救急外来や集中治療室の構造・環境、設備、法的基準、構成スタッフ、特殊な集中治療室、感染予防対策など 5-6. クリティカル状況下にある患者への生体侵襲による反応と適応。神経・内分泌反応、血液凝固系、サイトカイン 危機の概念・危機理論と看護支援。危機事例の分析、ラザルスのストレス・コーピングモデル 9-10. クリティカル状況下にある患者の体験や苦悩の実際。救急外来患者の事例紹介、CCU 患者での事例紹介とこれらの病による人間の体験へのホリスティック看護実践への哲学的検討 11-12. クリティカル状況下にある患者家族の体験や苦悩の実際。交通外傷患者家族の事例紹介、脳血管障害患者家族での事例紹介とこれらの病による人間を持った家族体験へのホリスティック看護実践への哲学的検討 13. 患者・家族への危機介入への実際。薬物中度、自殺企図患者事例からの分析検討 14. 患者・家族への危機介入への実際。呼吸不全から脳死に至った患者事例からの分析検討 15. まとめ。危機介入の看護実践評価や有効性からの実習や課題研究への看護実践課題の検討				
評価基準				
講義の討論への参加（30%）、課題レポート（60%）、出席状況（10%）により総合的に評価する。 A（100～80 点）：到達目標に達している (Very Good) B（79～70 点）：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C（69～60 点）：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D（60 点未満）：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. クリティカルケアにおける看護師の専門的役割と教育、研究動向を認識できる。				
2. 特殊な治療環境内にある患者・家族の精神的・心理的反応のアセスメントができ、予期的対応や危機的介入の援助法について理解できる。				
3. クリティカル状況下にある患者への生体侵襲による反応と適応を理解できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MD0201	クリティカルケア看護学演習M	1 年/後期	2
担当教員		課程	
柴山健三 福田元敬 吉川公章		博士前期課程	

授業計画詳細	
授業目的	
1) クリティカル状況下にある患者とその家族および脳死患者とその家族の倫理的問題を判断し、患者の権利を擁護する立場から援助できる専門的能力と他の専門職者との協働や調整の必要性を習得することができる。 2) クリティカル状況下にある患者の身体的苦痛を分析・評価することができる。 3) クリティカル状況下にある患者とその家族の精神・社会的苦痛を分析・評価することができる。 4) クリティカル状況下にある患者の身体的苦痛を緩和するための適切な看護援助の知識・技術を習得することができる。 5) クリティカル状況下にある患者とその家族の精神・社会的苦痛を緩和するための適切な看護援助を実践するための知識・技術を習得することができる。 6) クリティカル状況下にある患者とその家族への看護実践評価や有効性を研究的に探求し、研究への課題を明らかにすることができる。	
授業内容	
クリティカル状況下にある患者とその家族および脳死患者とその家族の倫理的問題を判断でき、患者の権利を擁護する立場から援助できる専門的能力と他の専門職者との協働や調整の必要性を習得する。クリティカル状況下にある患者とその家族の身体的苦痛および精神・社会的苦痛を分析・評価し、専門的判断できる知識・技術を習得する。クリティカル状況下にある患者とその家族への援助的関わりを援助関係論や家族看護論を含めて理解する。クリティカル状況下にある患者とその家族への看護実践評価や有効性を研究的に探求し、研究への課題を明らかにする。 (オムニバス方式/全 30 回) (⑮柴山建三/22 回) クリティカルケア領域における倫理に関する文献レビューする クリティカル状況下にある患者・家族への倫理的問題 クリティカル状況下にある患者・家族の精神・社会的苦痛の分析・評価 まとめとして看護実践評価や有効性からの研究への看護実践課題の検討 クリティカル状況下にある患者とその家族への援助 クリティカル状況下にある患者の身体的苦痛の分析・評価 クリティカル状況下にある患者・家族の精神・社会的苦痛への緩和援助方法 クリティカル状況下にある患者とその家族への援助 クリティカル状況下にある患者の身体的苦痛の分析・評価 クリティカル状況下にある患者の身体的苦痛への緩和援助方法	
留意事項	
学習は主体的に臨み、議論やシミュレーションには積極的に参加することを期待する。	
教材	
各教員により適宜使用。	
授業計画 (30 回)	
1-10 クリティカルケア領域における倫理に関する文献レビューする クリティカル状況下にある患者・家族への倫理的問題 クリティカル状況下にある患者・家族の精神・社会的苦痛の分析・評価 まとめとして看護実践評価や有効性からの研究への看護実践課題の検討 (⑮柴山健三/10 回)	

15-20. クリティカル状況下にある患者とその家族への援助 クリティカル状況下にある患者の身体的苦痛の分析・評価 クリティカル状況下にある患者・家族の精神・社会的苦痛への緩和援助方法 (⑮柴山建三/6 回) 25-30. クリティカル状況下にある患者とその家族への援助 クリティカル状況下にある患者の身体的苦痛の分析・評価 クリティカル状況下にある患者の身体的苦痛への緩和援助方法 (⑮柴山健三/6 回)				
評価基準				
シミュレーションや演習への参加 (30%)，課題レポート (60%)，出席状況 (10%) により総合的に評価する。 A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. クリティカル状況下にある患者の身体的苦痛を分析・評価ことができる。				
2. クリティカル状況下にある患者とその家族の精神・社会的苦痛を分析・評価することができる。				
3. クリティカル状況下にある患者の身体的苦痛を緩和するための適切な看護援助の知識・技術を修得することができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MD0301	クリティカルケア看護学演習Ⅱ	1 年/後期	2
担当教員		課程	
柴山健三		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

重篤患者、侵襲的治療を受ける患者や家族に生じる身体的・心理的・社会的困難のアセスメントと、患者と家族が体験する困難への対処方法の指導、看護ケアの開発など、急性・重症患者看護に求められる実践能力等の基盤となる演習・実習を展開し、クリティカルケア領域における①実践力、②リーダー能力、③教育力の強化をめざす。学内演習でそれらの能力について理解し、実践で知識・技術・コミュニケーション力を駆使して計画的、効果的な実践の展開方法を学ぶ。そのために、急性期病院でのフィールドワークを中心に体験し、その前後に学内演習を行い学びを深める。

授業内容

クリティカルケア領域における高度な実践者として、現場のリーダーとして、教育者としての役割・機能を理解し、その実践・展開能力の強化・向上を目指す。そのために、実習前の学内演習では、クリティカルケア看護に必要な理論を学び、実践能力、リーダー能力、教育力の強化・向上について学修する。その後、急性期病院（名古屋大学医学部附属病院）でのフィールドワークを行う。教育力については、臨地のスタッフや看護学生の成人看護学（急性期）実習への指導・支援を体験する。実習終了後に再び学内演習を行う。最終日のまとめは、授業目標に沿ったレポートに基づいて発表・討論により学修内容を深め、各自の研究課題に活かす。

クリティカルケア領域における高い実践力、リーダー能力、教育力強化の理解（文献調査と討論、レポート作成）、クリティカルケア領域におけるリーダーの役割能力（ケアの実践力、マネジメント、アドボケイト、コンサルテーション能力を含む）の向上、クリティカルケア領域におけるケアの質保証のためのスタッフへのケア支援、クリティカルケア領域における管理者としての役割・機能を果たす実践力の向上、個人情報保護の方法、急性期病院におけるスタッフと看護学生の成人看護学（急性期）実習に対する教育的支援による教育力の向上、急性期病院におけるリーダー能力、管理能力、教育力強化に関するレポートの作成と発表・討論・まとめ

留意事項

1. 学内と臨地での学習に積極的に参加し、臨地の指導者やスタッフの協力が得られるようにする。
2. 授業の課題について事前に情報収集し、レポートを期日ごとに作成し発表や報告を行う。
3. 自己の実践力の強化・向上について具体的に評価する。

教材

教員による研究論文を中心に適宜使用する。

授業計画（30回）

- 1-4. クリティカルケア領域における高い実践力、リーダー能力、教育力強化の理解（文献調査と討論、レポート作成）
- 5-10 クリティカルケア領域におけるリーダーの役割能力（ケアの実践力、マネジメント、アドボケイト、コンサルテーション能力を含む）の向
- 1) クリティカルケア領域におけるケアの質保証のためのスタッフへのケア支援
 - 2) チームケア、他職種との連携・調整方法
 - 3) 倫理的調整の方法
 - 4) 中間管理者としてのリーダーの役割・機能
- 11-18 クリティカルケア領域における管理者としての役割・機能を果たす実践力の向上
- 1) 個人情報保護の方法
 - 2) 個別事例と経過別看護の質管理方法

3) 個別看護の質保証（QOL、治療環境など）のための看護の組織化と看護体制づくり 4) 人事管理と組織力強化（スタッフの職種・人数、組織内・外との連携など） 5) 急性期病院における危機管理（感染症対策、自然災害・人的災害など） 6) 看護の質管理と経営 19-28 急性期病院におけるスタッフと看護学生の成人看護学（急性期）実習に対する教育的支援による教育力の向上 1) スタッフへの教育的支援 (1) 各スタッフの看護実践力を評価し、クリティカルケアの知識と技術力向上（事例検討・実践場面での共同実施・アセスメント・ケア方法・技術などの個人およびグループへの指導・訓練） (2) 実践例について連携調整方法・社会資源利用・チームケア展開方法 2) 看護学生の成人看護学（急性期）実習での教育支援 学生の実習計画に基づく教育支援方法 3) 自分の教育的課題（エビデンスに基づいた課題、患者の持つ問題解決への対応など）を実施 29-30 急性期病院におけるリーダー能力、管理能力、教育力強化に関するレポートの作成と発表・討論・まとめ				
評価基準				
到達目標の到達度により行う。 A（100～80点）：到達目標に達している（Very Good） B（79～70点）：到達目標に達しているが不十分な点がある（Good） C（69～60点）：到達目標の最低限は満たしている（Pass） D（60点未満）：到達目標の最低限を満たしていない（Failure）				
到達目標	A	B	C	D
1. 担当した重症・重篤患者に対しての的確な知識と方法で身体状況についてアセスメントができる。				
2. クリティカル期にある患者の治療環境を管理し、クリティカル期にある患者の看護実践の質の向上のための提案ができる。				
3. クリティカル期にある患者とその家族の尊厳を守り倫理的問題への対処を体験し、倫理的問題への対処のための態度を養う。				
4. 実践リーダーの役割・機能の理解と効果的な実施方法について理解し、自己能力を判断して臨地で有効な範囲で実施できる。				
5. 看護管理者の役割・機能の理解と効果的な実施方法について理解と、自己能力を判断し計画的に臨地で実施できる。				
6. クリティカルケアにおける教育的機能についての理解と、自己能力を判断して臨地で有効な範囲で実施できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MD2101	エンド・オブ・ライフ ケア看護学特論M	1 年/前期	2
担当教員		課程	
小笠原知枝 島内節 朝倉由紀 加藤亜妃子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

エンド・オブ・ライフケアにおいて総合的で質の高いケアを提供するために国内外の関連する法制度・ケア提供システムと看護の機能および研究動向について理解し、わが国の課題を検討する。エンド・ステージにある患者家族の生活環境と年齢層の相違によるケアニーズの特徴を理解し、QOLとQOD（Quality of Death）を高めるケア方法を検討する。患者と家族への告知と意思決定、インフォームド・コンセント、Total Pain、Spirituality、Grief & Mourningの概念を理解し、実際のケア支援方法を修得する。介入研究やEBNを検討しエンド・オブ・ライフケア看護学の科学的思考力と実践力の向上をめざす。

授業内容

国内外におけるエンド・オブ・ライフケアの法制度、ケア提供システム、ケアの実践については文献的に理解し、わが国の課題を分析する。国内外のエンド・オブ・ライフにおける研究動向を理解する。エンド・ステージを迎える事例の生活環境の相違による看護の提供システムの相違、また事例の年齢層による発達や生活の課題と病態像の相違を考慮した QOL と QOD（Quality of Death）を高める条件とケア方法を検討する。意思決定とインフォームド・コンセント、Total pain、Spirituality、Grief & Mourningなどの概念を理解をする。患者とその家族のさまざまなニーズ対応と課題及び専門的ケア介入に関する諸理論とケア方法を探究する。また、EBNなどの先行文献をクリティックすることにより、エンド・オブ・ライフケア看護学の科学的思考力と実践力の向上を図る。

（オムニバス 全 15 回）

（小笠原知枝／5 回）

エンド・オブ・ライフ患者の QOL と QOD、患者の権利と意思決定と告知・インフォームド・コンセントの概念とケア方法、エンド・オブ・ライフ患者の病態特性とエンド・オブ・ライフケアの疾患「がん・急死・難病・脳血管・呼吸器疾患」などの事例とその家族の条件によるケアの特徴、Death & Dying Care、スピリチュアルケア、Grief & Mourning と看取りケア

（朝倉由紀／3 回）

Total pain のアセスメント、疼痛管理、症状管理、統合的症候緩和ケアモデルと症状緩和ケア

（島内節、朝倉由紀／2 回）共同

諸外国におけるエンド・オブ・ライフケア制度、ケアシステムサービスの実態と研究動向から現状理解とわが国の課題について分析

（小笠原知枝、加藤亜妃子／2 回）

エンド・オブ・ライフ患者と家族の環境（病院・在宅・ホスピス・高齢者施設など）の生活条件によるアセスメントとケアポイントの相違・特徴

（加藤亜妃子／2 回）

臨死患者の家族の問題とサポートケアなどについて文献や事例検討、死にゆく人の心理過程の介入方法と Dying Patient（臨死患者）のアセスメントとニーズ

（小笠原知枝、島内節、朝倉由紀、加藤亜妃子／1 回）共同

学生の「修得内容のまとめ、レポート発表と検討」により自己の研究や実践力強化に反映させる

留意事項

1. 授業に積極的参加を期待する。
2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。
3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。

教材

1. 小笠原知枝、他（共著）（2005）「メンタルケア論Ⅱ Essays on Mental Care」メンタルケア協会
2. 松木光子・小笠原知枝・久米弥寿子編（2006）「看護理論 理論と実践のリンケージ」ニューヴェルヒロカワ出版

3. 小笠原知枝・松木光子編（2012）これからの看護研究 基礎と応用 第3版、ニューヴェルヒロカワ出版 4. 島内節、内田陽子（2014. 10 月出版予定）「在宅におけるエンド・オブ・ライフケア実践書ー死を迎える人の人生の質・価値を高めるために」ミネルヴァ書房 5. 内田陽子、島内節編（2014. 10 月出版予定）「施設におけるエンド・オブ・ライフケア実践書ー死を迎える人に人生の質・価値を高めるために」ミネルヴァ書房 （参考図書） 6. 島内節、薬袋淳子（2008）「在宅エンド・オブ・ライフケア、利用者アウトカムと専門職の実践力を高めるケアプログラムの応用」イニシア 7. 島内節、友安直子、内田陽子（2002）「在宅ケアアウトカム評価と質改善の方法」医学書院				
授業計画（15回）				
1-2 諸外国におけるエンド・オブ・ライフケア制度、ケアシステムサービスの実態と研究動向から現状理解とわが国の課題について分析（島内節、朝倉由紀／2回） 3 エンド・オブ・ライフ患者のQOLとQOD、患者の権利と意思決定と告知・インフォームド・コンセントの概念とケア方法（小笠原知枝／1回） 4-5 エンド・オブ・ライフ患者と家族の環境（病院・在宅・ホスピス・高齢者施設など）の生活条件によるアセスメントとケアポイントの相違・特徴（小笠原知枝・加藤亜妃子／2回） 6-7 エンド・オブ・ライフ患者の病態特性とエンド・オブ・ライフケアの疾患「がん・急死・難病・脳血管・呼吸器疾患」などの事例とその家族の条件によるケアの特徴（小笠原知枝・加藤亜妃子／2回） 8 事例年齢「乳幼少期・児童期・学童期・思春期・青年期・壮年期・高齢者」とその家族のエンド・オブ・ライフケアの特徴（加藤亜妃子／1回） 9 死にゆく人の心理過程の介入方法とDying Patient（臨死患者）のアセスメントとニーズ（小笠原知枝／1回） 10-12 Total painのアセスメント、疼痛管理、症状管理、統合的症狀緩和ケアモデルと症状緩和ケア（朝倉由紀／3回） 13 Death & Dying Care、スピリチュアルケア、Grief & Mourningと看取りケア（小笠原知枝／1回） 14 臨死患者の家族の問題とサポートケア、などについて文献や事例検討（加藤亜妃子／1回） 15 まとめ 学生の「修得内容のまとめ、レポート発表と検討」により自己の研究や実践力強化に反映させる（小笠原知枝、島内節、朝倉由紀、加藤亜妃子／1回）				
評価基準				
1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30% A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 諸外国とわが国のエンド・オブ・ライフ ケアシステムおよび看護職者の機能を比較し、わが国の課題について述べることができる。				
2. エンド・オブ・ライフ ケア看護学における基礎的用語を理解し、その定義を述べるができる。				
3. エンド・ステージ患者の身体的、心理社会的、精神的、霊的特徴を理解し説明できる。				
4. エンド・ステージの患者・家族の異なる生活の場におけるアセスメントとケアのポ特徴を理解し、説明できる。				
5. Total Painのアセスメント、疼痛管理や症状管理を含む統合的症狀緩和ケアが理解できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MD2201	エンド・オブ・ライフ ケア看護学演習M	1 年/後期	2
担当教員		課程	
小笠原知枝 島内節 朝倉由紀 加藤亜妃子 大村光代		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

エンド・オブ・ライフケアにおいて質の高いケアを提供するために、エンド・ステージにある患者ケアの場によるケア展開方法、病態や年齢条件によるケア展開方法、患者のアセスメント・心身変化と満足度のアウトカム評価方法、エンド・オブ・ライフケアの質管理、社会資源活用とチームケア、ケアシステムの評価方法を学修し、自己の研究に活用できる。

授業内容

QOL・QODを高めるためのエンド・オブ・ライフケアにおける権利擁護・インフォームド・コンセント方法、ケアリング能力を高める事例のアセスメントとアウトカム評価方法を理解し、エンド・ステージを迎える事例の年齢層・病態・生活環境条件によるケアの特徴とケア展開方法を研究エビデンスに基づいて理解する。ケア展開における社会資源活用とチーム展開法、ケアの質管理方法をエビデンスに基づいて修得する。

(オムニバス方式／全30回)

(島内節／8回)

エンド・オブ・ライフケア看護の事例アセスメント・アウトカム評価方法、在宅ケア看護におけるケア展開（プロセス・ケア内容・方法）、エンド・オブ・ライフケアにおける社会資源活用とチームケア

(小笠原知枝／6回)

病院、ホスピスケア病棟・高齢者ケア施設でのケアの特徴（プロセス・ケア内容・方法）：患者の病態や年齢その他の条件によるケアの特徴を含む

(朝倉由紀／6回)

エンド・オブ・ライフケアの質管理の視点とケアの展開方法

(加藤亜妃子／4回)

一般病棟・緩和ケア病棟でのエンド・オブ・ライフケア展開

(大村光代／4回)

高齢者ケア施設及び在宅ホスピスにおけるエンド・オブ・ライフケア展開

(小笠原知枝・島内節・朝倉由紀／2回) 共同

学生の習得内容のまとめ 討議や発表により自己の研究に反映させる

留意事項

1. 授業に積極的参加を期待する。
2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。
3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。

教材

1. 小笠原知枝・松木光子編（2012）これからの看護研究 基礎と応用 第3版、ヌーヴェルヒロカワ出版
2. 松木光子・小笠原知枝・久米弥寿子編（2006）「看護理論 理論と実践のリンケージ」ヌーヴェルヒロカワ出版
3. 小笠原知枝、久米弥寿子、他 研究成果報告書ターミナル期にあるがん患者の痛み管理とサポートケアを妨害する諸因子の抽出とその対策 平成9～11年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書
4. 島内節、内田陽子（2014）「在宅におけるエンド・オブ・ライフケア実践書ー死を迎える人の人生の質・価値を高めるために」ミネルヴァ書房
5. 内田陽子、島内節編（2014）「施設におけるエンド・オブ・ライフケア実践書ー死を迎える人に人生の質・価値を高めるために」ミネルヴァ書房
6. （参考図書）島内節、薬袋淳子（2008）「在宅エンド・オブ・ライフケア利用者アウトカムと専門職の

実践力を高めるケアプログラムの応用」イニシア

7. (参考図書) 島内節、友安直子、内田陽子 (2002) 「在宅ケアアウトカム評価と質改善の方法」医学書院
8. 埼玉県立大学編 (2009) IPW を学ぶ 利用者中心の保健医療福祉連携、中央法規
9. 大村光代、山下香枝子、西川浩昭 (2015) 特別養護老人ホームにおける看取りの看護実践能力の因子構造と関連要因 日本看護研究学会雑誌 Vol. 38 (2) : 1-12.

授業計画 (15回)

- 1-3 授業オリエンテーション、エンド・オブ・ライフケアの特徴 (小笠原知枝/3回)
- 4-7 一般病棟・緩和ケア病棟でのエンド・オブ・ライフケア展開 (加藤亜妃子/4回)
- 8-11 ホスピス病棟でのケア展開 (小笠原知枝/4回)
- 12-15 高齢者ケア施設及び在宅ホスピスにおけるエンド・オブ・ライフケア展開 (大村光代/4回)
- 16-17 在宅ケア看護におけるエンド・オブ・ライフケア展開 (島内節/2回)
- 18-23 エンド・オブ・ライフケアの質管理の視点とケアの展開方法 (朝倉由紀/6回)
- 24-25 エンド・オブ・ライフケア看護の事例アセスメント・アウトカム評価方法 (島内節/2回)、
- 26-29 エンド・オブ・ライフケアにおける社会資源活用とチームケア (島内節・加藤亜妃子/4回)
- 30 まとめ: 学生の習得内容のまとめ 討議や発表により自己の研究に反映させる
(小笠原知枝・島内節・朝倉由紀・加藤亜妃子・大村光代/1回) 共同

評価基準

1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30%
- A (100~80 点): 到達目標に達している (Very Good)
- B (79~70 点): 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
- C (69~60 点): 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
- D (60 点未満): 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 一般病棟、緩和ケア病棟、高齢者ケア施設、在宅でのエンド・オブ・ライフケアの特徴を説明できる。				
2. 患者のエンド・オブ・ライフの時期におけるケアニーズの変化をアセスメントとアウトカムの評価のポイントを説明できる。				
3. 患者の病態や発達段階に応じたケア展開を説明できる。				
4. エンド・オブ・ライフケアの質管理のポイントを説明できる。				
5. エンド・オブ・ライフケアにおける社会資源利用とチームケアの要点を説明できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MD2301	エンド・オブ・ライフ ケア看護学演習MⅡ	1年/後期	2
担当教員		課程	
小笠原知枝 島内節 朝倉由紀 加藤亜妃子 大村光代		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

本科目はエンド・オブ・ライフケアにおいて質の高いケアを提供するために、①リーダー能力 ②管理者能力 ③現場指導者としての教育能力の強化をめざしている。これらの能力内容を理解し、実践で知識・技能・コンサルテーション力を含めて計画的・効果的な実践の展開方法を習得する。そのためにエンド・オブ・ライフケア看護の(1)リーダー、(2)管理者、(3)教育支援者の役割・機能と、これらに関する実践力を強化する上での課題に関して、さまざまなケア施設（緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ホスピス、訪問看護ステーション、ペインクリニック施設など）において、フィールドワークを体験する。こうした体験学習で得た課題意識を、自己の研究計画に反映させる。

授業内容

本科目では、エンド・オブ・ライフケア看護の(1)リーダー、(2)管理者、(3)教育支援者の具体的な役割・機能と、これらに関する実践力を強化する上での課題について、エンド・オブ・ライフケアを提供する施設（緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ホスピス、訪問看護ステーション、ペインクリニック施設など）において、フィールドワークを体験する。このフィールドワークの前後に、学内演習を加えて体験学習を強化する。

具体的には以下を展開する。

1. 学内でフィールドワークの準備のための文献検討と討議によるレポート作成
2. フィールドワークは現場のリーダー（専門看護師を含む）と管理者の指導のもとに、上記3者の実践活動の見学及び指導の下で一部実践
3. フィールドワークによる体験学習内容を深めるためのまとめ：レポート作成、発表、討議

（オムニバス方式／30回）（共同）

（小笠原知枝、島内節／4回）

学内で、フィールドワークの準備

エンド・オブ・ライフケアを提供するさまざまな施設（緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ホスピス、訪問看護ステーション、ペインクリニック施設）において、(1)リーダー、(2)管理者、(3)教育支援者の具体的な役割・機能と、これらに関する実践力を強化する上での課題について、文献検討と討議によるレポート作成

（朝倉由紀／18回）

エンド・オブ・ライフケアを提供するさまざまな施設（緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ホスピス、訪問看護ステーション、ペインクリニック施設）において、リーダーとしての役割・能力・コンサルテーション能力向上、エンド・オブ・ライフケアを提供するさまざまな施設（緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ホスピス、訪問看護ステーション、ペインクリニック施設）において、管理者としての役割・機能を果たす実践力の向上

（小笠原知枝、朝倉由紀／6回）

エンド・オブ・ライフケア提供の各施設におけるスタッフと看護学生への教育的支援の実践力の向上

（小笠原知枝、島内節、朝倉由紀／2回）

上記の役割・機能及び実践上の課題と、それに基づく発表・討論・学生の修得内容のまとめ（学内）

留意事項

1. 授業に積極的参加を期待する。
2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。
3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。

教材

各教員により研究論文を中心に適宜使用。

授業計画（30回）

1-4 学内で、フィールドワークの準備：

エンド・オブ・ライフケアを提供するさまざまな施設（緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ホスピス、訪問

看護ステーション、ペインクリニック施設)において、(1) リーダー (2) 管理者 (3) 教育支援者の具体的な役割・機能と、これらに関する実践力を強化する上での課題について、文献検討と討議によるレポート作成 (小笠原知枝、島内節)				
5-12 エンド・オブ・ライフケアを提供するさまざまな施設(緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ホスピス、訪問看護ステーション、ペインクリニック施設)において、リーダーとしての役割能力・コンサルテーション能力向上 1) エンド・オブ・ライフケア施設の受持事例ケアの質保証のためにスタッフへのケア支援 2) チームケア、他機関との連携調整方法 3) 倫理的調整の方法 4) 中間管理者としてのリーダーの役割・機能 (朝倉由紀)				
13-22 エンド・オブ・ライフケアを提供するさまざまな施設(緩和ケア病棟、ホスピス、在宅ホスピス、訪問看護ステーション、ペインクリニック施設)において、管理者としての役割・機能を果たす実践力の向上 1) 個人情報の保護の方法 2) 個別事例と家族のケアの質管理方法 3) 事例ケアの質保証のためのケアの組織化とケア体制づくり 4) 人事管理と組織力強化 5) 訪問看護ステーションの危機管理 6) ケアの質管理と経営管理を両立させる方法 (朝倉由紀)				
23-28 エンド・オブ・ライフケア提供の各施設におけるスタッフと看護学生への教育的支援の実践力の向上 1) スタッフへの教育支援 (1) 各スタッフのケア実践力を評価し、各スタッフの受け持ち事例を用いてエンド・オブ・ライフケアの知識と技術力向上(事例検討・実践場面での共同実施・アセスメント・ケア方法・技術などの個人およびグループへの指導・訓練) (2) 実践例について連携調整方法・社会資源利用・チームケア展開方法 2) 看護学生のエンド・オブ・ライフケア実習での教育支援 実習計画に基づく実習展開における教育支援方法 (小笠原知枝、朝倉由紀)				
29-30 上記の役割・機能及び実践上の課題と、それに基づく発表・討論・学生の修得内容のまとめ(学内) (小笠原知枝、島内節、朝倉由紀)				
評価基準				
1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30% A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 看護実践リーダーの役割と機能および効果的な実施方法について理解できる。				
2. 看護実践リーダーの役割・機能を果たす効果的な実施方法について、自己能力を判断して現場に有効な範囲で実施できる。				
3. 看護管理者の役割と機能および効果的な実施方法について理解できる。				
4. 看護管理者の役割・機能を果たす効果的な実施方法について、自己能力を判断して現場に有効な範囲で実施できる。				
5. エンド・オブ・ライフケアにおける教育的機能について理解できる。				
6. エンド・オブ・ライフケアにおける教育的機能について、自己能力を判断して現場に有効な範囲で実施できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MD4101	高齢者看護学特論M	1年/前期	2
担当教員		課程	
安藤純子 臼井キミカ		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

諸外国の高齢者ケアの制度・サービスシステム・看護の機能についてケアの場による相違を含めて理解し、わが国の課題を明確化する。高齢者の自尊心を含めたケアの選択と意思決定、セルフケア能力の向上、高齢者の健康問題と生活の特徴に合わせて看護を展開するための哲学、理論の理解とその応用によってアセスメント方法、ケア実施での特徴、ケアの効果評価（アウトカム）方法を明らかにする。また、高齢者看護の高度な実践力、リーダーシップ能力、看護管理能力の向上を目指す。

授業内容

諸外国の高齢者ケアの制度、サービスシステム、看護の役割・機能（ケアの場による相違）を理解し、わが国の課題を明確化する。高齢者看護における哲学を学び、高齢者自身が自尊心・存在価値を自身で確認できる看護のかかわり方、高齢者ケアにおける選択と意思決定、高齢者のセルフケア能力の維持・向上への看護を展開するための哲学、先行文献や理論の活用などによってアセスメント方法、効果的なケア実施方法、ケアの効果評価（アウトカム）方法を修得する。また、高齢者看護の実践力、リーダーシップ能力、管理能力の向上を目指す。

（オムニバス方式／15回）

（安藤純子／9回）

諸外国の高齢者ケアの制度、サービスシステム、看護の役割・機能（ケアの場による相違）を理解し、わが国の課題を明確化、高齢者看護における哲学、自尊心・存在価値、高齢者ケアにおける選択と意思決定、高齢者のセルフケア能力の維持・向上への看護、高齢者の看護による効果評価（アウトカム測定を含む）、高齢者看護の高度なケア実践力向上の要件とその応用方法

（臼井キミカ／5回）

高齢者の健康レベル、環境（病院、施設）の相違によるアセスメント方法の特徴、高齢者の健康レベル・環境の相違（病院、施設）によるケア実施の特徴、高齢者の看護実践でのリーダーシップ能力の内容とその向上への方法・要件、高齢者看護の管理機能と管理能力の向上のための方法

（安藤純子・臼井キミカ／1回）共同

共同到達目標について学生の学修度をまとめたレポート発表と討議

留意事項

1. 学生は積極的に質疑・討論に参加することを期待する。
2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。
3. 授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させる。

教材

- 1) Handbook of Geriatric Assessment 4th : Joseph J. Giallo et al、Jones & Bartlett Publishers、2006.
- 2) 高齢者総合的機能評価ガイドライン：長寿科学総合研究 CGA ガイドライン研究班、2008.
- 3) 看護のための最新医学講座（第2版）：中山書店、2005.
- 4) 高齢者のための知的機能検査の手引き：ワールドプランニング

授業計画（15回）

- 1-6 諸外国の高齢者ケアの制度、サービスシステム、看護の役割・機能（ケアの場による相違）を理解し、わが国の課題を明確化、高齢者看護における哲学、自尊心・存在価値、高齢者ケアにおける選択と意思決定、高齢者のセルフケア能力の維持・向上への看護（安藤純子／6回）
- 7-9 高齢者の健康レベル、環境（病院、施設）の相違によるアセスメント方法の特徴、高齢者の健康レベル・環境の相違（病院、施設）によるケア実施の特徴（臼井キミカ／3回）

10-12 高齢者の看護による効果評価（アウトカム測定を含む） 高齢者看護の高度なケア実践力向上の要件とその応用方法（安藤純子／3回）				
13 高齢者の看護実践でのリーダーシップ能力の内容とその向上への方法・要件 （臼井キミカ／1回）				
14 高齢者看護の管理機能と管理能力の向上のための方法 （臼井キミカ／1回）				
15 まとめ 到達目標について学生の学修度をまとめたレポート発表と討議 （安藤純子・臼井キミカ／1回）				
評価基準				
1) 授業中の質疑・討論：40% 2) 情報収集と分析：30% 3) まとめのレポートと発表討論：30% A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 諸外国の高齢者ケアの制度、サービスシステム、看護の役割・機能（ケアの場による相違）を理解し、わが国の課題を明確化できる。				
2. 高齢者看護における哲学を学び、高齢者自身が自尊心・存在価値を自身で確認できる看護のかかわり方を明確化できる。				
3. 高齢者ケアにおける選択と意思決定、高齢者のセルフケア能力の維持・向上への看護を展開するための哲学、理論の活用などによってアセスメント方法を理解する。				
4. 高齢者に対する効果的なケア実施方法、ケアの効果評価（アウトカム）方法を修得できる。				
5. 高齢者看護の実践力、リーダーシップ能力、管理能力を明確化し、その能力を向上させることができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MD4201	高齢者看護学演習M	1 年/後期	2
担当教員		課程	
安藤純子 臼井キミカ		博士前期課程	
授業計画詳細			
授業目的			
高齢者の健康状態や生活行動能力の向上、悪化防止、維持と QOL の向上を目指して、高齢者の健康生活行動のレベルや高齢者に発生しやすい健康問題と生活問題を中心として看護実践の向上とそのための理論や介入のエビデンスを用いて、実践力の向上と研究への応用能力の修得を目指す。			
授業内容			
高齢者の健康と生活行動の状態や条件に応じた看護の課題について、効果的な展開方法および研究方法について学ぶ。高齢者の健康問題や生活問題の悪化予防、維持、高齢者自身のセルフケアの向上への看護、高齢者の健康と生活のリスク要因とその予防と発生時の看護、高齢者の生活やケアの場による高齢者ケアニーズの特徴とケア体制における看護の特徴、認知症高齢者のケアの場に応じたケアとリーダーシップ・管理の特徴とケア対策、高齢者の終末期における生活環境条件によるケアの特徴と看護の役割・機能とその発展要件について講義する。 (オムニバス方式／全 30 回) (臼井キミカ／14 回) 高齢者の健康問題や生活問題の悪化予防、維持、高齢者自身のセルフケアの向上への看護 認知症高齢者における ADL・IADL を中心とした自立度向上と服薬援助方法 認知症高齢者のケアの場におけるケアとリーダーシップ・管理の特徴とケア対策 ① 認知症の悪化予防へのケアとリーダーシップ ② 高齢者と家族介護者へのケアとリーダーシップ ③ 多職種連携とチームケアとリーダーシップ 高齢者の終末期における生活環境条件によるケアの特徴とケアの方法の違い 到達目標について学生の学修度をまとめたレポート発表と討議 (安藤純子／16 回) 高齢者の健康問題や生活問題の悪化予防、維持、高齢者自身のセルフケアの向上への看護 高齢者の生活行動自立低下予防（介護予防）、高齢者の日常生活において意思決定とセルフケア能力の向上を目指す看護方法とコミュニケーション方法 高齢者と生活のリスク要因とその予防と看護一転倒、感染、病状悪化、服薬、排泄（失禁を含む）等、高齢者の生活やケアの場による高齢者ケアニーズの特徴とケア体制における看護の特徴と看護展開のポイント、高齢者看護の現行の制度からみた看護課題と改善へのアイデアと政策への提案事項の検討、到達目標について学生の学修度をまとめたレポート発表と討議			
留意事項			
1. 学生は積極的に質疑・討論に参加することを期待する 2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする 3. 授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させる			
教材			
各教員により適宜使用			
授業計画 (30 回)			
高齢者の健康レベルと生活行動問題別の国内外における看護の研究動向からみた自己研究への活用方法 1-10 高齢者の健康問題や生活問題の悪化予防、維持、高齢者自身のセルフケアの向上への看護。 ① 高齢者の生活行動自立低下予防（介護予防） (安藤純子／2 回) ② 認知症高齢者における ADL・IADL を中心とした自立度向上と服薬援助方法(1)			

(臼井キミカ／2回)				
③ 同上 (2) (臼井キミカ／2回)				
④ 高齢者の日常生活において意思決定とセルフケア能力の向上を目指す看護方法とコミュニケーション方法 (1) (安藤純子／2回)				
⑤ 同上 (2) (安藤純子／1回・臼井キミカ／1回)				
11-16 高齢者の健康と生活のリスク要因とその予防と看護 転倒、感染、病状悪化、服薬、排泄（失禁を含む）等 (安藤純子／6回)				
17-18 高齢者の生活やケアの場による高齢者ケアニーズの特徴とケア体制における看護の特徴と看護展開のポイント (安藤純子／2回)				
19-24 認知症高齢者のケアの場におけるケアとリーダーシップ・管理の特徴とケア対策 ① 認知症の悪化予防へのケアとリーダーシップ ② 高齢者と家族介護者へのケアとリーダーシップ ③ 多職種連携とチームケアとリーダーシップ (臼井キミカ／6回)				
25-26 高齢者の終末期における生活環境条件によるケアの特徴とケアの方法の違い (臼井キミカ／2回)				
27-28 高齢者看護の現行の制度からみた看護課題と改善へのアイデアと政策への提案事項の検討 (安藤純子／2回)				
29-30 まとめ 到達目標について学生の学修度をまとめたレポート発表と討議 (安藤純子／1回・臼井キミカ／1回)				
評価基準				
1) 授業中の質疑・討論：40% 2) 情報収集と分析：30% 3) まとめのレポートと発表討論：30%				
A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 高齢者の健康問題や生活問題の悪化予防、維持、高齢者自身のセルフケア向上への看護に関する各種理論や介入方法を明確化できる。				
2. 高齢者の健康と生活のリスク要因とその予防と発生時の看護方法を習得できる。				
3. 認知症高齢者のケアの場に応じたケアとリーダーシップ・管理の特徴とケア対策が説明できる。				
4. 高齢者の終末期における生活環境条件によるケアの特徴と看護の役割とその発展要件を明確化できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MD4301	高齢者看護学演習Ⅱ	1年/後期	2
担当教員		課程	
臼井キミカ 安藤純子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

この科目は、高齢者とその家族への質の高い看護を提供するために高度実践力、臨床指導力、リーダーシップの強化・向上を目指している。学内演習では、それらの諸能力を理解し、介護老人保健施設でのフィールドワークにおいて知識・技術・コミュニケーション力を含めて計画的、効果的な実践を行うとともに、教育支援者の役割・機能の強化・向上の課題についても体験し、学修内容を深める。

授業内容

高齢者看護における実践能力の向上、および臨床指導力の強化と、リーダーとしての役割・機能を理解し、その実施・展開能力の強化・向上を目指す。そのために実習前の学内演習では、高齢者看護における質の高い実践力、リーダー能力、指導・教育力について学修する。その後に介護老人保健施設でのフィールドワークを行い、実習終了後に再び学内演習で学びを深める。すなわち、演習Ⅱで学んだ諸理論を駆使しつつ、実践的に学ぶ。指導・教育力については、介護老人保健施設のスタッフや看護学生（高齢者看護学実習）への教育・支援を行うことで、臨床指導力の強化を図る。最終日のまとめは、学生の授業目標に沿ったレポートに基づいて発表・討論により行い、現状から今後の課題を見出す。

（オムニバス方式／30回）（一部共同）

（臼井キミカ／4回）

高齢者看護における実践能力、リーダー能力、教育・指導力の理解（文献調査と討論、レポート作成）
（安藤純子／14回）

介護老人保健施設におけるリーダーの役割（ケアのマネジメント、アドボケイト、コンサルテーション能力を含む）の向上、介護老人保健施設におけるスタッフと看護学生（高齢者看護学実習）への教育支援力の向上

（臼井キミカ、安藤純子／12回）

介護老人保健施設における管理者としての役割・機能を果たす能力の向上、介護老人保健施設における実践能力、リーダー能力、教育・指導力の強化に関するレポートの作成と発表・討論・まとめ

留意事項

1. 学内と臨地での学習において主体的・積極的に参加し、臨地の指導者やスタッフの協力が得られるようにする。
2. 学生は授業の課題について事前に情報収集し、レポートを期日ごとに作成し発表や報告を行う。
3. 自己の実践力強化・向上について具体的に評価する。

教材

各教員により研究論文を中心に適宜使用

授業計画（30回）

- 1-4 高齢者看護における実践能力、リーダー能力、教育・指導力の理解（文献調査と討論、レポート作成）
（臼井キミカ）
- 5-12 介護老人保健施設におけるリーダーの役割（ケアのマネジメント、アドボケイト、コンサルテーション能力を含む）の向上
- 1) 施設利用者のケアの質保証のためにスタッフへのケア支援
 - 2) チームケア、他職種との連携・調整方法
 - 3) 倫理的調整の方法
 - 4) 中間管理者としてのリーダーの役割・機能
（安藤純子）
- 13-22 介護老人保健施設における管理者としての役割・機能を果たす能力の向上

1) 個人情報保護の方法 2) 個別事例と経過別（慢性期・終末期、急変時の対応など）のケアの質管理方法 3) 個別ケアの質保証（QOL、生活環境など）のためのケアの組織化とケア体制づくり 4) 人事管理と組織力強化（スタッフの職種・人数、組織内・外との連携など） 5) 施設における危機管理（自然災害・人的災害、感染症対策など） 6) ケアの質管理と経営 物品管理（オムツの種類と費用、腰痛予防対策の労働基準規則による重量制限と福祉機器の活用など） （臼井キミカ、安藤純子）				
23-28 介護老人保健施設におけるスタッフと看護学生（高齢者看護学実習）への教育支援力の向上 1) スタッフへの教育的支援 （1）各スタッフのケア実践力を評価し、高齢者看護の知識と技術力向上（事例検討・実践場面の共同実施・アセスメント・ケア方法・技術などの個人およびグループへの指導・訓練） （2）実践例について連携調整方法・社会資源利用・チームケア展開方法 2) 看護学生の高齢者看護学実習での教育支援 学生の実習計画に基づく教育支援を実践する 3) 自分の教育的課題（エビデンスに基づいた課題、利用者の問題解決への対応など）を実施 （安藤純子）				
29-30 介護老人保健施設における実践能力、リーダー能力、教育・指導力の強化に関するレポートの作成と発表・討論・まとめ （臼井キミカ・安藤純子）				
評価基準				
到達目標の到達度により行う。 A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 看護実践リーダーの役割・機能の理解と効果的な実施方法について理解し、自己能力を判断して臨地に有効な範囲で実施できる。				
2. 看護管理者の役割・機能の理解と効果的な実施方法について理解と、自己能力を判断し計画的に臨地で実施できる。				
3. 高齢者看護における教育的機能についての理解と、自己能力を判断して臨地に有効な範囲で実施できる。				
4. 介護老人保健施設で学修した実践能力、リーダー能力、教育・指導力を適切に評価し、自己の課題が提示できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MD9101	成人・高齢者看護学特別研究M I	1年/通年	4
担当教員		課程	
柴山健三 小笠原知枝 島内節 臼井キミカ 安藤純子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

成人・高齢者看護学分野はクリティカル看護学領域、エンド・オブ・ライフケア看護学領域、高齢者看護学領域を統合した分野であり、この科目の目的は、各領域における看護の実践リーダー・管理者・教育者など高度専門職業人として貢献するために必要な科学的思考力と研究能力を習得することである。そのために、看護学特論M、演習M、演習MⅡ及び共通科目で学んだ理論的・実践的な内容を活用して研究に取り組む。

特別研究MⅠでは、各領域のケアの現場の実践的なケア内容に関する研究を中心に進めるが、国内外の研究論文を基に研究テーマに関連した概念分析等をした上で、適切な研究計画書を完成する。さらに研究倫理審査委員会への提出を目指す。

授業内容

成人・高齢者分野における看護の質保証をめざす実践的研究に取り組む。研究計画書の作成までのプロセスにおいては、国内外の研究論文を熟読した上で、各自が独自の研究テーマを設定し、研究デザインと具体的な研究方法の選択、その適切性と妥当性を検討する。また適切な研究データ収集法、研究スケジュールを含めて研究の実施計画、研究プロセスにおける研究の質管理方法を検討し、ケアの改善・改革のための新しい知見が得られる具体的で実行可能な研究計画書を作成する。

各担当教員が指導可能な研究テーマは以下のとおりである。

(柴山健三)

成人急性・重篤期における主として実験・準実験研究・介入研究の指導を担当する。研究テーマは①神経系酵素の活性化機序と関連因子に関する研究、②集中治療室における各種ケア技術内容に関する研究、③集中治療室入室患者及び勤務看護師のストレスに関する研究、④急性期患者のQOLの測定とその変化に関する研究などである。

(小笠原知枝)

エンド・オブ・ライフケア領域における患者および家族、看護師（中堅看護師、エキスパートナース）への介入研究等を担当する。指導可能な研究テーマは ①がん患者の痛みの測定尺度を用いた分析、②ターミナル期における疼痛管理妨害因子の分析とスタッフ教育、③エンド・オブ・ライフ・ケアの国際比較研究、④がん患者とその家族の不安・苦痛の分析と防御規制・スピリチュアルケア、⑤がん患者の自己決定支援プロセスに関する研究、⑥看護師の感情労働測定尺度を用いた研究などである。

(島内節)

ターミナル期における質の評価研究やシステム開発研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅要介護高齢者の終末期ケアにおける緊急的ニーズの分析、②遺族による在宅ターミナルケアの質評価、③地域在住の軽度要介護高齢者の自立促進プログラムとその評価、④終末期高齢者の入所・死亡に関連する要因分析などである。

(臼井キミカ)

主として量的研究による要因分析や準実験（介入）研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①重度認知症高齢者の日常生活支援技術に関する研究、②セルフネグレクト予防のための地域見守り基準の有効性、③軽度認知症高齢者のその人らしさを支える各種活動と効果判定、④養護者による高齢者虐待の要因分析、⑤施設職員による高齢者虐待の防止に関する実態調査研究などである。

(安藤純子)

地域高齢者や施設入所高齢者に対する転倒要因分析研究において相関研究と、質的研究では内容分析を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅高齢者の転倒要因分析、②介護老人保健施設における

高齢者の転倒実態と要因分析、③高齢者のソフト食に関する研究、④サクセスエイジングに関連する各種アクティビティケアの有効性研究などを担当する。				
留意事項				
1. 研究論文のクリティークができる。 2. 科学文献などから情報収集と分析をする。 3. 論理的な文章化が求められる。 4. レポートなどの提出物は期日ごとに提出する。 5. 授業への積極的な参加と研究への積極的な取り組み、行動力が求められる。				
教材				
1. 学生は自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。 2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。				
授業計画 (60回)				
授業目的と授業内容に基づいて、研究指導教員の研究テーマの例を参考に、各自が独自のテーマを設定して、ケアの質保証や看護の改善・改革をめざす研究を行う。科学的な知見が得られる研究計画書を完成させる。 1-5 各担当教員の研究概要を紹介し、学生の関心ある研究テーマについて討議する 6-15 研究テーマと目的を決定：自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・社会的価値・研究倫理を検討 16-26 研究デザインの選択と研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討し決定 27-35 研究目的を達成するために実行可能なデータ収集法とデータ分析法を検討し決定 36-39 研究プロセスにおいて研究の精度を保つ質管理方法を検討 40-47 研究計画書を作成 48-52 看護学研究科委員会が開催する学生と教員の参加による「研究計画発表会」において適切な準備の上で発表・討論 53-60 発表した研究計画の評価に基づいて修正し、研究計画書を完成				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 各領域の看護の質保証をめざした研究計画が検討できる。				
2. 社会的ニーズの分析・研究の新規性・独創性・社会的価値・研究倫理を検討し、研究テーマと目的を決定できる。				
3. 適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる。				
4. 研究データ収集方法の具体化とデータ分析法を決定できる。				
5. 各領域の看護の改善・改革のために新しい知見が得られる研究計画書を完成できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
MD9201	成人・高齢者看護学特別研究Ⅱ	2年/通年	4
担当教員		課程	
柴山健三 小笠原知枝 島内節 臼井キミカ 安藤純子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

特別研究Ⅰ、Ⅱの科目の目的は、科学的思考力と研究能力を有する看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につけることである。そのために、看護学特論Ⅱと演習Ⅱ、演習Ⅲ及び共通科目で学んだ理論的・実践的な内容を活用して研究に取り組む。その研究は、各領域のケア現場の実践的な内容を中心に取り組むが、特別研究Ⅱでは、特別研究Ⅰで作成した研究計画に沿って研究目的を達成するために適切に研究を進め、論文を作成することを目的とする。

作成した研究計画に沿って、研究データを収集し、妥当なデータ分析を行い、精度の高い結果を導き、その解釈の妥当性を検討し、十分な文献検討により考察と結論を導く。研究論文を完成することが本科目の目的である。

授業内容

特別研究Ⅱは、特別研究Ⅰで作成した研究計画書について研究倫理委員会の承認を得た後に、研究計画に沿って以下のような研究プロセスを踏み、論文を作成する。まず、国内外の学会等で得た最新の知見を研究計画に加味して、研究実施の準備をする。次に研究の精度を保つ方法でデータを収集し、データ分析の結果に基づいて、適切な考察と結論を導き論理的に論文としてまとめる。その上で、「論文発表会」において評価を受けて、さらに論文を修正し完成させる。そのために、授業計画では

- ①講義と討論では学生が看護学研究を遂行する上で、有効と考える看護研究の主要な課題と研究手法について研究例を用いて展開する。
- ② 個別研究では、研究プロセスに沿って期日ごとに研究レポートを作成し、発表・討論・評価を行い必要に応じて講義を加える。

なお、看護の研究においては、研究看護の対象である患者と家族の意思決定や倫理的調整が特に重要である。いずれの研究テーマにおいても、ケアの利用者と家族へのケアの質保証を重視し、実践的に何らかの新しい知見を含む成果を出すことを考えて必要なケアの評価を加えて、論文を作成する。

(柴山健三)

成人急性・重篤期における主として実験・準実験研究・介入研究の指導を担当する。研究テーマは①神経系酵素の活性化機序と関連因子に関する研究、②集中治療室における各種ケア技術内容に関する研究、③集中治療室入室患者及び勤務看護師のストレスに関する研究、④急性期患者の QOL の測定とその変化に関する研究。

(小笠原知枝)

エンド・オブ・ライフケア領域における患者および家族、看護師（中堅看護師、エキスパートナース）への介入研究等を担当する。指導可能な研究テーマは ①がん患者の痛みの測定尺度を用いた分析、②ターミナル期における疼痛管理妨害因子の分析とスタッフ教育、③エンド・オブ・ライフ・ケアの国際比較研究、④がん患者とその家族の不安・苦痛の分析と防御規制・スピリチュアルケア、⑤がん患者の自己決定支援プロセスに関する研究、⑥看護師の感情労働測定尺度を用いた研究などである。

(島内節)

ターミナル期における質の評価研究やシステム開発研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅要介護高齢者の終末期ケアにおける緊急的ニーズの分析、②遺族による在宅ターミナルケアの質評価、③地域在住の軽度要介護高齢者の自立促進プログラムとその評価、④終末期高齢者の入所・死亡に関連する要因分析などである。

(臼井キミカ)

主として量的研究による要因分析や準実験（介入）研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①重度

認知症高齢者の日常生活支援技術に関する研究、②セルフネグレクト予防のための地域見守り基準の有効性、③軽度認知症高齢者のその人らしさを支える各種活動と効果判定、④養護者による高齢者虐待の要因分析、⑤施設職員による高齢者虐待の防止に関する実態調査研究などである。 (安藤純子) 地域高齢者や施設入所高齢者に対する転倒要因分析研究において量的相関研究と、質的研究では内容分析を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅高齢者の転倒要因分析、②介護老人保健施設における高齢者の転倒実態と要因分析、③高齢者のソフト食に関する研究、④サクセスエイジングに関連する各種アクティビティケアの有効性研究などを担当する。				
留意事項				
1. 科学文献などから情報収集と分析をする。 2. 論理的な文章化が求められる。 3. レポートなどの提出物は期日ごとに行う。 4. 授業への積極的な参加と研究への積極的な取り組み、行動力が求められる。				
教材				
1. 学生は自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。 2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。				
授業計画 (60 回)				
授業内容において前記した研究テーマ(例)との関連で、各自が独自の研究テーマを設置して研究を行うが、看護のケアの質保証と、看護の改善・改革をめざすように留意する。科学的で実践的な知見が得られることを目標に、特別研究M I で作成した研究計画書に沿って研究を実施し、得られたデータを分析し、その結果に基づいて適切な考察と結論を導き、論理的な論文としてまとめる。その上で、「論文発表会」において評価を受けて、修士論文を修正し完成させる。 1-6 研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備 7-16 研究の精度を保つ方法でデータを収集 17-26 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果の信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化 27-34 研究結果に基づいて、適切な考察と結論を導き論理的にまとめる 35-38 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討 39-42 学生と教員参加による「論文発表会」において適切な準備の上で発表・討論 43-48 発表した修士論文の評価に基づいて修正し論文を完成 49-60 論文審査委員による審査に基づき、必要時に論文を修正し、最終完成				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究計画に沿って研究を進め、研究の精度を保ちデータ収集ができる。				
2. 適切なデータ分析方法によって結果の信頼性を高め妥当な解釈ができる。				
3. 適切な図表を加えて結果をまとめることができる。				
4. 研究結果に基づいて適切な考察と結論を導くことができる。				
5. 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性が確認できる				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME0101	在宅看護学特論M	1 年/前期	2
担当教員		課程	
島内節 石井英子 福田由紀子 山本純子		博士前期課程	

授業計画詳細			
授業目的			
在宅ケアの高度な専門家として自立した実践リーダー・管理者・教育者になるために国内外の制度・サービスシステムを理解し、わが国の課題を明らかにする。ケアの質保証に向けて看護実践力を高めるために①ニーズとケアの判断力・社会資源の適切な社会資源活用を含むケア計画とケアマネジメント・チームケア展開方法・アウトカムの評価方法、訪問看護ステーションの効果的な運営管理方法について理論的・実践的に探求する。			
授業内容			
在宅看護の質保証を意図して、諸外国の制度・サービスシステム・看護の機能からわが国の特徴と課題を分析する。研究的視点で看護の実践力を高める在宅ケアにおけるリスク要因を含めたアセスメント・実施計画・社会資源利用・チームケア・ケアマネジメント・アウトカム測定（利用者心身の変化と満足度）方法を論理的に説明でき、活用できる。また訪問看護ステーションにおけるケアの質向上のための効果的な運営管理方法について提案できるようにする。 （オムニバス方式／全 15 回） （島内節／6 回） 諸外国の在宅ケアの制度・サービスシステム・看護の機能からわが国の在宅ケア看護の特徴と課題分析、在宅ケア利用者の心身アウトカムと本人・家族の満足度および改善方法の検討、病院から在宅ケアへの移行の支援、在宅ケアの質管理のためのアウトカム評価方法 （福田由紀子／5 回） 在宅ケアにおける国難度が高い事例への社会資源利用含むケアマネジメント・チームケア展開方法、在宅ケアにおけるリスク要因（転倒・感染・病状急変・医療的ケア等）と管理を含めたケア （山本純子／2 回） 在宅ケア利用者と家族の QOL 支援 （石井英子／1 回） 訪問看護ステーションにおいて質の高いサービス提供のための運営・管理体制 （島内節、福田由紀子、山本純子、石井英子／1 回）共同 到達目標について学生の学修度をまとめたレポート発表と討論			
留意事項			
1. 授業に積極的参加を期待する。 2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。 3. 授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させる。			
教材			
島内節、内田陽子他編著「在宅ケアにおけるアウトカム評価と質改善方法」医学書院（2002） 2,800 円			
島内節、亀井智子編著 「これからの在宅看護論」ミネルヴァ書房（2014） 2,800 円			
授業計画 （15 回）			
1-2 諸外国の在宅ケアの制度・サービスシステム・看護の機能からわが国の在宅ケア看護の特徴と課題分析 （島内節／2 回） 3-5 在宅ケアにおける国難度が高い事例への社会資源利用含むケアマネジメント・チームケア展開方法 （福田由紀子／3 回） 6-7 在宅ケア利用者の心身アウトカムと本人・家族の満足度および改善方法の検討 （島内節／2 回）			

8-9 在宅ケアにおけるリスク要因（転倒・感染・病状急変・医療的ケア等）と管理を含めたケア （福田由紀子／2回） 10-11 在宅ケア利用者と家族のQOL支援 （山本純子／2回） 12 病院から在宅ケアへの移行の支援 （島内節／1回） 13 在宅ケアの質管理のためのアウトカム評価方法 （島内節／1回） 14 訪問看護ステーションにおいて質の高いサービス提供のための運営・管理体制 （石井英子／1回） 15 まとめ 到達目標について学生の学修度をまとめたレポート発表と討論 （島内節、福田由紀子、山本純子、石井英子／各1回）				
評価基準				
1. 授業中の質疑・討論 40% 2. 情報収集と分析 30% 3. まとめのレポートと発表討論 30% A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 諸外国の在宅ケアの制度、サービス提供システムおよび看護の機能を理解し、わが国の特徴と課題分析ができる。				
2. 困難度が高い在宅ケア事例・家族の適切なアセスメント・ケア実施計画・チームケアの展開方法を説明できる。				
3. 在宅ケアにおけるアウトカム評価方法を理解し活用できる。				
4. 訪問看護ステーションにおける効果的で質の高いサービス提供のための運営管理体制について理解できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME0201	在宅看護学演習M	1 年/後期	2
担当教員		課程	
島内節 石井英子 福田由紀子 山本純子 内田陽子		博士前期課程	
授業計画詳細			
授業目的			
在宅ケアの対象や条件に合わせてエビデンスに基づくケア内容と方法の検討から実践力を強化する。事例の在宅ケアの「質管理方法をエビデンス・アウトカムから検討する。在宅ケアの費用対効果分析、ケアスタッフの組織化、サービス体制による効果分析法（利用者・家族およびケアスタッフの評価を含む）およびサービス提供機関としてのケアシステム管理・他機関との連携方法とその評価方法について探求する。			
授業内容			
在宅ケアの対象特性に合わせてエビデンスに基づくケア内容と方法を検討し、活用できる。 研究視点でケアの質管理方法をエビデンス・アウトカム・サービス組織化・運営管理・費用対効果の観点から検討し、自己の研究課題に反映できるようにする。 最後に「学生の内容修得度と課題」についてレポート発表と討論によりまとめる。 （オムニバス方式／全 30 回） （島内節／6 回） 軽度要介護者のエビデンスに基づく自立支援。ケアプログラム開発とその活用を含めて、在宅終末期事例の経過時期によるケアパス実施方法とアウトカム評価方法 （石井英子／2 回） 訪問看護ステーションの効果的な運営管理のためのスタッフとサービスの組織化および他機関との連絡システム （福田由紀子／2 回） 在宅における医療的判断と医療看護、各種症状への医療看護 （山本純子／4 回） 在宅終末期ケア事例の利用者と家族への満足度評価方法 （福田由紀子、島内節／4 回）共同 在宅ケア事例と家族の年齢層によるケアの特徴とケアポイントおよびアウトカムポイント（小児事例・育壮年事例・高齢事例・独居事例） （島内節、石井英子、福田由紀子、山本純子／2 回）共同 学生の内容修得度と課題についてのレポート発表と討論 （内田陽子／10 回） 在宅における医療的判断と医療看護、各種症状への医療看護、在宅ケアにおける認知症事例の改善とケア方法およびアウトカム評価方法、尿失禁予防と失禁者へのケア方法、在宅ケアの質管理のための費用対効果分析と改善方法の検討			
留意事項			
1. 授業に積極的参加を期待する 2. 授業の課題について事前に情報収集をする 3. 授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させる			
教材			
各教員により研究論文を中心に適宜使用			
授業計画 （30 回）			
1-4 在宅ケア事例と家族の年齢層によるケアの特徴とケアポイントおよびアウトカムポイント （小児事例・育壮年事例・高齢事例・独居事例） （福田由紀子、島内節／4 回）			

5-6 軽度要介護者のエビデンスに基づく自立支援。ケアプログラム開発とその活用を含めて (島内節／2回) 7-10 在宅における医療的判断と医療看護、各種症状への医療看護 (福田由紀子／2回) (内田陽子／2回) 11-12 在宅ケアにおける認知症事例の改善とケア方法およびアウトカム評価方法 (内田陽子／2回) 13-14 尿失禁予防と失禁者へのケア方法 (内田陽子／2回) 15-18 在宅終末期事例の経過時期によるケアパス実施方法とアウトカム評価方法 (島内節／4回) 19-22 在宅終末期ケア事例の利用者と家族への満足度評価方法 (山本純子／4回) 23-24 訪問看護ステーションの効果的な運営管理のためのスタッフとサービスの組織化および他機関との連絡システム (石井英子／2回) 25-28 在宅ケアの質管理のための費用対効果分析と改善方法の検討 (内田陽子／4回) 29-30 まとめ 学生の内容修得度と課題についてのレポート発表と討論 (島内節、石井英子、福田由紀子、山本純子／2回)				
評価基準				
1. 授業中の質疑・討論 40% 2. 情報収集と分析 30% 3. まとめのレポートと発表討論 30% A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 在宅ケアの対象特性に応じたケアポイントとアウトカムのポイントを理解し事例に活用できる。				
2. 在宅ケアの質管理の方法をエビデンス・アウトカムから検討できる。				
3. サービス展開体制の効果的な運営・管理方法のためのサービスの組織化を検討できる。				
4. 在宅ケアの質管理のための費用対効果分析と改善方法が検討できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME0301	在宅看護学演習Ⅱ	1 年/後期	2
担当教員		課程	
福田由紀子 山本純子		博士前期課程	

授業計画詳細			
授業目的			
在宅看護における ①リーダー能力 ②管理者能力 ③現場指導者としての教育能力の強化をめざしている。それらの能力内容を理解し、実践で知識・技能・コミュニケーション力を含めて計画的効果的な実践の展開方法を学ぶ。そのために在宅看護の（１）リーダー （２）管理者 （３）教育支援者の役割・機能の実践力の強化・向上の三つの課題について、訪問看護ステーションでのフィールドワークを中心に体験しその前後に学内演習を加えて展開する。			
授業内容			
在宅看護の（１）実践リーダー （２）管理者 （３）教育者の役割・機能を果たす能力を理解し、それらの実施展開能力の強化・向上を目指す。上記の三つの課題について、訪問看護ステーションのフィールドワークを中心として、その前（準備）と後（まとめ）は学内演習を設定する。理論的な考え方を学び実践力の強化・向上をめざして進める。教員の指導のもとに （１）学内でフィールドワークの準備のための文献検討と討議によるレポート作成 （２）フィールドワークは現場のリーダーと管理者の指導のもとに実践の見学・共同実施および現場にとって効果的である範囲で①リーダー ②管理者 ③教育支援者の役割の３つの課題を実践する。ここでいう教育支援者の役割・機能は現場のスタッフや看護学生（在宅看護実習）への支援を指す。（３）学習内容を深めるためのまとめは学内で学生主体で教員とともに学生のレポートに基づいて発表・討論により行う。			
（オムニバス方式／30 回）（一部共同） （福田由紀子／14 回） 三課題のフィールドワークの準備（文献調査、討論、レポート作成）、（実習場）訪問看護ステーションにおける管理者としての役割・機能を果たす実践力の向上 （山本純子／8 回） （実習場）訪問看護ステーションのリーダーの役割能力・コンサルテーション能力の向上 （福田由紀子、山本純子／8 回） （実習場）訪問看護ステーションにおけるスタッフと看護学生（在宅看護実習）への教育的支援の実践力の向上、（学内）上記の三課題のレポートに基づく発表・討論・まとめ			
留意事項			
1. 学内と現場の学習において積極的に参加し、現場の指導者やスタッフの協力が得られるようにする。 2. 授業の課題について事前に情報収集し、レポートを期日毎に作成、発表・報告を行う。 3. 自己の実践力強化・向上について具体的に評価する。			
教材			
各教員により研究論文を中心に適宜使用。			
授業計画 （30 回）			
1-4 : 三課題のフィールドワークの準備（文献調査、討論、レポート作成）（福田由紀子） 5-12 : （実習場）訪問看護ステーションのリーダーの役割能力・コンサルテーション能力の向上（山本純子） 1) 訪問看護の受持事例ケアの質保証のためにスタッフへのケア支援			

2) チームケア、多機関との連携調整方法 3) 倫理的調整の方法 4) 中間管理者としてのリーダーの役割・機能 13-22: (実習場) 訪問看護ステーションにおける管理者としての役割・機能を果たす実践力の向上 (福田由紀子) 1) 個人情報の保護の方法 2) 個別事例と家族のケアの質管理方法 3) 事例ケアの質保証のためのケアの組織化とケア体制づくり 4) 人事管理と組織力強化 5) 訪問看護ステーションの危機管理 6) ケアの質管理と経営管理を両立させる方法 23-28: (実習場) 訪問看護ステーションにおけるスタッフと看護学生(在宅看護実習)への教育的支援 の実践力の向上 (福田由紀子、山本純子) 1) スタッフへの教育支援 (1) 各スタッフのケア実践力を評価し、各スタッフの受け持ち事例を用いて在宅看護の知識と技術 力向上(事例検討・実践場面での共同実施・アセスメント・ケア方法・技術などの個人およびグ ループへの指導・訓練) (2) 実践例について連携調整方法・社会資源利用・チームケア展開方法 2) 看護学生の在宅看護実習での教育支援 実習計画に基づく実習展開における教育支援方法 29-30: (学内) 上記の三課題のレポートに基づく発表・討論・まとめ (福田由紀子、山本純子)				
評価基準				
到達目標の到達度により行う。 A (100～80 点): 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点): 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点): 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満): 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 看護実践リーダーの役割・機能の理解と効果的な実施方法について理解し、自己能力を判断して現場に有効な範囲で実施できる。				
2. 看護管理者の役割・機能の理解と効果的な実施方法について理解し、自己能力を判断して現場に有効な範囲で実施できる。				
3. 訪問看護における教育的機能について理解し、自己能力を判断して現場に有効な範囲で実施できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME2101	地域看護学特論M	1 年/前期	2
担当教員		課程	
三徳和子 西川まり子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

主に行政保健師活動のコアとなる理論と実践技術を、理論的な柱に添って学習する。また、個と集団、行政等、国内・外の先駆的な活動実践例より地域看護に必要な能力を獲得する。

学習目標は①主に行政保健師活動のコアとなる実践技術を理論・学術的根拠をもって理解すること、②多様な個と集団及び行政の健康支援と諸施策、情報システムと倫理的課題などを国内・外のモデル的先駆的な活動実践例を通し理解し、それぞれの違い、課題を抽出すること、③グループ・集団への支援理論、地域ケアシステムを実践例にあてはめることである。

授業内容

地域保健師活動のコアとなる理論と実践技術を、保健師活動の理論的な柱に添って学ぶ。併せて保健・看護行政関連情報ネットワークと倫理的課題、一連の地域看護過程を理解する。

また、一定の行政単位(都道府県、政令市、市町村)、産業保健、学校保健等の地域ケアシステムを学ぶ。併せて多様な個と集団及び行政の健康支援と諸施策、情報システムなどを国内・外のモデル的先駆的な活動実践例を通し理解する。さらに、事例を通して小グループ及び地域集団への支援理論、地域ケアシステムの構築、資源開発、コンサルテーションについて理解し、併せて課題等を抽出できる。

(オムニバス全 15 回)

(三徳和子/6 回) 地域看護学の基盤となる理論、地域看護システムで用いる基盤となる概念、地域看護活動システムと用いる理論と概念、実際の展開、保健・看護行政関連情報ネットワークと倫理的課題、個人・家族への専門的実践の探求、家族支援、地域ケアの構築・発展
先進国の保健医療体制と地域看護支援、情報処理と課題

(西川まり子/1 回) アジア近隣諸国の保健医療体制と地域看護支援、情報処理と課題

(三徳和子/8 回) 学校保健における対象への健康支援と専門的実践の探求、産業保健における対象への健康支援と専門的実践の探求、グループ・集団への専門的実践の探求、グループ支援の理論、セルフヘルプグループ支援の方法論を実践的に追究、地域ケアシステムづくり、組織間・他組織連携、ネットワーク構築過程の分析検討・実践課題抽出、地域ケアシステムづくり、社会資源開発とその活用、コンサルテーションの在り方・評価の検討、地域ニーズとソーシャルキャピタル、地域づくりとリーダー育成・評価、地域ニーズ支援と施策化・健康政策と課題、評価の視点・方法の追求、地域看護の研究課題と方法論の検討

留意事項

授業に①積極的に参加すること、②授業の課題について事前に情報収集・分析しておくこと、③授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させること。

教材

資料(書名、必要な文献など)は、その都度紹介する。

授業計画 (15 回)

1. 地域看護学の基盤となる考え方

地域看護システムで用いる理論と基盤となる概念 (三徳和子/1 回)

2. 地域看護活動システムと用いる理論と概念、実際の展開 (三徳和子/1 回)

3. 保健・看護行政関連情報ネットワークと倫理的課題 (三徳和子/1 回)

4. 個人・家族への専門的実践の探求	(三徳和子/1 回)
5. 家族支援、地域ケアの構築・発展	(三徳和子/1 回)
6. 先進国の保健医療体制と地域看護支援、情報処理と課題	(三徳和子/1 回)
7. アジア近隣諸国の保健医療体制と地域看護支援、情報処理と課題	(西川まり子/1 回)
8. 学校保健における対象への健康支援と専門的実践の探求	(三徳和子/1 回)
9. 産業保健における対象への健康支援と専門的実践の探求	(三徳和子/1 回)
10. グループ・集団への専門的実践の探求	
グループ支援の理論、セルフヘルプグループ支援の方法論を実践的に追究 (三徳和子/1 回)	
11. 地域ケアシステムづくり (1)	
組織・他組織連携、ネットワーク構築過程の分析検討・実践課題抽出	(三徳和子/1 回)
12. 地域ケアシステムづくり (2)	
社会資源開発とその活用、コンサルテーションの在り方・評価の検討	(三徳和子/1 回)
13. 地域ケアシステムづくり (3)	
地域ニーズとソーシャルキャピタル、地域づくりとリーダー育成・評価	(三徳和子/1 回)
14. 地域ケアシステムづくり (4)	
地域ニーズ支援と施策化・健康政策と課題、評価の視点・方法の追求	(三徳和子/1 回)
15. 地域看護の研究課題と方法論の検討	(三徳和子/1 回)

評価基準				
1. 授業中の発表・質疑・討論 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. レポート 30%				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				

到達目標	A	B	C	D
1. 地域看護活動で用いる理論と概念が理解し、具体例等にあてはめ説明できる。				
2. 地域、学校、産業の場における医療保健看護活動の違いと課題抽出ができる。				
3. 諸外国の地域保健看護行政並びに地域医療看護システム、サービス提供方法等、を我が国と比較して課題抽出ができる。				
4. グループ・集団への支援理論、地域ケアシステムを実践例に当てはめ、活用方法と課題・改善策を提案できる。				
5. 実践例を通して資源開発、コンサルテーションについて、評価の在り方と方法、課題等を抽出できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME2201	地域看護学演習M	1 年/後期	2
担当教員		課程	
三徳和子 西川まり子 山田裕子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

目的：地域看護の一端を担う国、都道府県・市町村や民間企業などに所属する看護専門職による地域看護診断、看護計画、実践・評価の一連の展開過程と、その方法を理解できる。

学習目標：①行政事例を通して既存の統計・報告・調査資料の分析方法を理解できる。

②GIS(Geographic Information System)地図を用いて健康と関連課題の明確化手法を学ぶ。

③community as partner の考え方を基盤に人々と協働して、資源開発や施策形成への発展を踏まえた問題解決過程を学び、具体例にあてはめ評価できる。

授業内容

実際の地域を対象に、取り寄せた保健統計・報告・調査資料を GIS(Geographic Information System)地図などを用いて分析を行い、図表で示し、よりわかりやすく健康問題と関連課題を表示し明確化を図る。また、地区踏査と机上演習によって一連の活動過程の展開を通して看護の立場で援助可能な問題を明らかにできる。併せて、机上演習により資源開発や施・政策への発展に向けた一連の政策形成の過程と評価の在り方について学び、具体例にあてはめ、分析、評価ができる。

(オムニバス方式/全 30 回)

(三徳和子/12 回) コミュニティ・アセスメントの理論とそのプロセス、地域看護実践のモデルと地域診断：地区踏査資料、各種保健統計、各種報告書、調査。資料チェックと分析、地域ニーズに応じた事業企画策定、地域ニーズに応じた事業企画・予算化、事業企画プレゼンテーション実施と評価、一連の事業過程評価と分析の手法

(三徳和子・西川まり子/12 回) (共同) 地域看護診断分析作業、GIS ソフトを用いて分析、地域ニーズの把握と課題抽出

(三徳和子・山田裕子/2 回) (共同) 地域ニーズに応じた施策・事業計画・プログラム開発

(三徳和子/4 回) 地域看護活動における質管理・評価、地域看護研究計画書の検討

留意事項

授業に①積極的に参加すること、②授業の課題について事前に情報収集・分析しておくこと、③授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させること。

教材

資料（書名、必要な文献など）は、その都度紹介する。

授業計画 (30 回)

1-2 コミュニティ・アセスメントの理論とそのプロセス (三徳和子/2 回)

3-4 地域看護実践のモデルと地域診断：地区踏査資料、各種保健統計、各種報告書、調査資料チェックと分析 (三徳和子/2 回)

5-12 地域看護診断分析 (GIS ソフトを用いる) (西川まり子・三徳和子/8 回) (共同)

13-16 地域ニーズの分析と課題抽出 (三徳和子・西川まり子/4 回) (共同)

17-18 地域ニーズに応じた施策・事業計画・プログラム開発
(三徳和子 山田裕子/2 回) (共同)

19-20 地域ニーズに応じた事業企画策定	(三徳和子/2回)				
21-22 地域ニーズに応じた事業企画・予算化	(三徳和子/2回)				
23-24 事業企画プレゼンテーション実施と評価	(三徳和子/2回)				
25-26 一連の事業過程評価と分析の手法	(三徳和子/2回)				
25-28 地域看護活動における質管理・評価	(三徳和子/2回)				
29-30 地域看護研究計画書の検討	(三徳和子/2回)				
評価基準					
1. 授業中の発表・質疑・討論 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. レポート 30% A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)					
到達目標	A	B	C	D	
1. 行政事例を通して既存の統計・報告・調査資料を適切に分析できる。また、GIS(Geographic Information System)地図を有効活用して地域の健康と関連課題の明確化ができる。					
2. 地域看護診断、看護計画、実践・評価の一連の過程について、地域保健行政事例を用い説明できる。あわせて課題と対策等を提言できる。					
3. 地域ニーズに応じた実用可能な事業企画が立案でき、予算化を考え、プレゼンテーションを行える。					
4. 一連の事業過程を分析した上で、新たな施策提案ができる。					

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME2301	地域看護学演習MⅡ	1年/後期	2
担当教員		課程	
三徳和子 石井英子 山田裕子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

地域看護学の対象領域において、個人・家族・集団を対象とし、地域看護学演習Mで抽出した健康課題をベースとして、地域住民に対するケア方法、ケアシステム、地区組織の育成、健康危機管理、保健医療福祉計画の策定と評価、実習学生の教育とスタッフの育成ができる能力を養う。併せて健康支援に関連する専門職のコンサルテーション・コーディネーションが実践できる能力を実習体験から養う。

授業内容

地域看護領域における実践リーダーとして、管理者として、教育者としての役割・機能を果たす能力を理解し、その実施展開能力の強化・向上を目指す。そのため実習前に、リーダー能力、管理能力、教育力強化について学修する。その後、大府市保健センター等でフィールドワークを行う。実習終了後には学内学修を行う。理論的な考え方を学び、その後、実践力の強化・向上を目指す。教育力については、臨地の保健師や、関係スタッフや保健師学生（公衆衛生看護学実習）への支援を見学、一部指導体験をする。学修内容を深めるため最終日のまとめは、学生の授業目標に沿ったレポートに基づいて発表・討論により行う。

（⑧三徳和子、③石井英子、㊸山田裕子／全30回）（共同）

実習に向けて、地域の人々の健康課題の解決に向けたケア方法、ケアシステム、地区組織の育成、健康危機管理、保健医療福祉計画の策定と評価、実習学生の教育とスタッフの育成について学ぶ。さらに、地域住民の健康課題から、優先すべき課題を抽出し、地域の実情に応じた対応の在り方を予測する。／大府市保健センター実習を行う／把握した健康課題とその対応の実態から、健康課題解決に向けて、地域看護が今後取り組むべき具体的な内容は何かを、実際の事例やデータを基に議論する。そのうえで、今後の地域看護管理において優先的に取り組むべき内容を具体的に提示しまとめ、発表する。／大府市保健センターに出向き、学内でのまとめを修正し、発表する。

留意事項

①積極的に参加すること、②授業の課題について事前に情報収集・分析しておくこと、③授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させること。

教材

資料（書名、必要な文献など）は、その都度紹介する。

授業計画（30回）

授業計画（30回）

1～8回 実習に向けて、地域の人々の健康課題の解決に向けたケア方法、ケアシステム、地区組織の育成、健康危機管理、保健医療福祉計画の策定と評価、実習学生の教育とスタッフの育成について、学ぶ。さらに、地域住民の健康課題から、優先すべき課題を抽出し、地域の実情に応じた対応の在り方を予測する。

（三徳和子、石井英子、山田裕子）共同

9～24回 大府市保健センター実習を行う。

- 1) 実習は学生自身が選んだ課題に中心的に取り組み、地域の健康課題とその対応の実態を把握する。
- 2) 教育力については、臨地の保健師や、関係スタッフや保健師学生（公衆衛生看護学実習等）への支援を見学、一部実践指導を体験する。

(三徳和子、石井英子、山田裕子) 共同

25～28 回 把握した健康課題とその対応の実態から、健康課題解決に向けて、地域看護が今後取り組むべき具体的な内容は何かを、実際の事例やデータを基に議論する。そのうえで、今後の地域看護管理において優先的に取り組むべき内容を具体的に提示しまとめ、発表する。

(三徳和子、石井英子、山田裕子) 共同

29～30 回 大府市保健センターに出向き、学内でのまとめを修正し、発表する

(三徳和子、石井英子、山田裕子) 共同

評価基準

授業への参加状況、プレゼンテーション等 70%、レポート 30%で評価する。

A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)

B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 地域看護学における看護の個人・家族・集団についての的確なアセスメントと支援計画ができる。				
2. 地域看護学における看護の個人・家族・集団についての的確なアセスメントと支援計画ができる。				
3. 地域看護学における看護の個人・家族・集団についての的確なアセスメントと支援計画ができる。				
4. 地域看護学における看護の個人・家族・集団についての的確なアセスメントと支援計画ができる。				
5. 地域看護学における看護の個人・家族・集団についての的確なアセスメントと支援計画ができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME2401	地域看護管理特論M	1 年/後期	1
担当教員		課程	
三徳和子 石井英子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

目的：個人・家族・集団を対象とする健康管理活動に際し必要な人体の生理・病理・薬剤の作用機序などに関する知識・技術を駆使し、効果的な働きかけを学習する。併せて個人・家族・集団のあらゆる健康レベルに貢献する保健指導能力を養う。また、地域看護のリスクマネジメント、個別及び集団のケアの質、看護管理について理解し課題を抽出できる。

学習目標：①個人・家族・集団への保健師活動実践者として身に付けるべき知識・技術を学ぶ。②多様な健康レベルの個と家族・集団に対し、適切な健康維持行動支援及び健康管理の方策を探索できる。③地域看護のリスクマネジメント、個別及び集団のケアの質管理等を修得する。

授業内容

個人・家族・集団を対象とした保健師活動実践者として人体の生理・病理・薬剤の作用機序などに関する知識・技術を修得し、適切に用いることができる。併せて知識・技術を駆使して生活習慣病、難病、精神疾患、妊娠出産、発達・発育異常など多様な健康レベルの対象者に、適切な健康維持行動支援及び健康管理支援について学ぶ。また、看護職として健康管理活動を遂行し、地域看護のリスクマネジメント、個別及び集団のケアの質、看護管理について検討した上で課題を抽出、具体策を考えることができる。

留意事項

- ・ 授業出席日数は全体の 2 / 3 以上必要。
- ・ 共通科目 B(フィジカルアセスメント特論、臨床薬理学特論、病態生理学特論)の履修が望ましい。

教材

書名：津村智恵子上野昌江編著，公衆衛生看護学，中央法規。

必要な文献は、その都度紹介。

授業計画 (15 回)

1-2. 健康管理活動に際し必要な人体の生理・病理・薬剤の作用機序などに関する基礎知識・技術と活用について。

自治体その他の組織における健康管理活動と、対象の健康課題について
生活習慣病予防・改善のための健康管理活動について（1）

（三徳和子/2 回）

3-5. 集団を対象とした保健指導のあり方

集団を対象とした保健指導と評価・管理体制のあり方

生活習慣病予防・改善のための健康管理活動について（2）

個人・家族を対象とした保健指導のあり方

生活習慣病予防・改善のための健康管理活動について（3）

（石井英子/3 回）

6. 個人・家族及び集団への保健指導と人間理解・行動について

（三徳和子/1 回）

7-9. 難病患者・家族に対する健康管理活動に必要な知識・技術、人間理解

難病患者・家族に対する保健医療福祉支援体制と課題

感染症（結核）保健指導と管理体制と課題

（石井英子/3 回）

10-15. 感染症（HIV）保健指導と管理体制と課題 精神疾患患者・家族に対する保健指導と健康管理活動 妊娠出産や児の発達・発育異常に関する保健指導と健康管理活動 地域看護管理（１） リーダーシップと地域看護管理・データマネジメント、人材育成と管理 地域看護管理（２） 地域看護におけるリスクマネジメント 健康危機管理における保健師の役割 地域看護研究計画書の検討 （三徳和子/6回）				
評価基準				
教員別の配点は、授業の時間比率で算出する。 平常点（授業への参加状況、プレゼンテーション等）50%、レポート 50%で評価する。				
到達目標	A	B	C	D
1. 個人・家族・集団を対象とした保健師活動実践者として身に付けるべき知識・技術を用い、生活習慣病予防・改善のための個別・集団への保健指導と評価ができる。				
2. 生活習慣病予防・改善の健康管理活動を具体的に検討、分析を踏まえ課題を抽出する。また、他の健康障害や疾病にも当てはめて考えることができる。				
3. 生活習慣病予防・改善に向けた事業を考え、具体案を作成、実施に向け、リーダーシップ、データマネジメント、リスクマネジメントの課題と改善策を立案できる。				
4. 具体的事例等を踏まえ、地域健康危機管理の展開と評価ができ、併せて保健師の役割を具体的に提案できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME4101	国際保健看護学特論M	1 年/前期	2
担当教員		課程	
西川まり子 市川誠一		博士前期課程	

授業計画詳細			
授業目的			
国際看護を学ぶことによって近隣者もしくは世界の人々に平等なヘルスケアを提供することをめざす。そのために、国際社会においてヘルスの分野で活躍できる基礎を学び、将来その実践リーダーや教育者へとつなげる事ができる。 このクラスでは、(1) 国境を越えて移動している人々（日本からの渡航者と来日外国人両方）の国家間のギャップと問題点を理解する。(2) 看護と他職種連携による、平等なヘルスを提供するための最新の状況と問題点を理解し、その対策を検討できる。(3) 世界の看護、看護師の移動に対して、より深くポイントを絞って学ぶ。(4) 海外のフィールドから、現場の実践、挑戦、価値を学び、わが国の活動を活用する。(5) 国内において国際保健看護学のイニシアチブをとることが出来る。			
授業内容			
(オムニバス方式 4 回と共同 11 回) 西川まり子 4 回 市川誠一 3 回 西川まり子・市川誠一 11 回 自立した実践リーダー・管理者・教育者の育成のために国際社会においてヘルスの分野で活躍する視野を深める。授業は、国際保健看護学の専門的な知識をより深める。内容は、国際保健看護特論を学ぶ意義、グローバル化による人々の移動として、日本から海外へ移動（共同）。日本における医療の国際化と国境を越えて流入している人々へのヘルスプロモーションを含めた現状と問題点として外国人旅行者の対策、中国残留日本人孤児帰国者（主に広島と京都）、短期就労者、中国人留学生を学ぶ。世界の看護の動向としてアメリカの特徴、オーストラリアの特徴を深める。世界の看護師の移動として、看護師の国境を越えた移動状況、利点、問題点をアメリカ、日本、イスラム圏（ほとんどの看護師が外国人）を中心に深めて学ぶ（西川まり子）。海外のヘルス事情では特に、発展国であるアメリカ東海岸への移民としてチベット人、カンボジア人、ラオス人の生活。途上国では、ケニアのスラムにおけるヘルス事情、ベトナムのヘルス事情、難民キャンプ場における現状と対策。海外のフィールドから授業①～⑤のシリーズで深める。最後にまとめとして、レポート作成とプレゼンテーション・討論をおこなうことにより、具体的に習得できるようにする（共同）。			
留意事項			
学生には積極的に質疑・討論、発表に積極的に参加することを期待する			
教材			
日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2013) ISBN978-4-7644 ¥3200 UNICEF『世界子供白書』最新版 ¥240、UNICEF『基礎リーフレット』最新版, ¥10 <資料> Christina Harlan (2014). Global Health Nursing: Narratives from the Field, Springer Pub Co, New York. ISBN-13: 978-0826121172 ¥6650 <u>デイヴィッド ワーナー</u>, 若井 晋 (翻訳)『いのち・開発・NGO』1998, 新評論 ISBN13:978-4794804228 ¥3990 イシメール・ベア, <u>忠平美幸</u> (翻訳)『戦場から生きのびて ぼくは少年兵士だった』河出書房新社 (2008). ISBN-13: 978-4309204864 ¥1728 西川まり子『目で見える国際看護』DVD I II III, 医学映像教育センター(2012) ¥29400 X3 その他、クラスに合わせて、本や論文を適宜配布			
授業計画 (15 回)			
(オムニバス方式 4 回と共同 11 回) 西川まり子 4 回 市川誠一 3 回 西川まり子・市川誠一 11 回 国際保健看護学の総論：国際保健看護学特論を学ぶ意義 (西川・市川)			

1. グローバル化による人々の移動：日本における医療の国際化と国境を越えて流入している人々へのヘルスプロモーションを含めた現状と問題点：外国人旅行者の対策（西川・市川） 2. グローバル化の中での人々の移動：日本における医療の国際化と国境を越えて流入している人々へのヘルスプロモーションを含めた現状と問題点：中国残留日本人孤児帰国者（主に広島と京都）、短期就労者、増加する中国人留学生の特徴（西川） 3. 世界の看護の動向：アメリカの特徴、オーストラリアの特徴を深めて学ぶ（西川） 4. 世界の看護師の移動：看護師の国境を越えた移動状況、利点、問題点を深めて学ぶ：アメリカ、日本、イスラム圏（ほとんどの看護師が外国人）（西川） 5. 海外のヘルス事情：アメリカ東海岸への移民：チベット人、カンボジアン人、ラオス人の生活（西川・市川） 6. 海外のヘルス：途上国の環境とヘルスの問題：ケニアのスラムにあるキベラにおけるヘルス事情、ベトナムのヘルス事情（西川・市川） 7. 海外のヘルス事情：紛争による問題：難民保健（シリア、スーダン等の難民キャンプでのヘルスやICNによる看護師の移動図書等。少年兵士の問題）（西川・市川） 8. ヘルスと教育、孤児、ジェンダーの問題、世界の人口と家族計画、FGMの概要（西川・市川） 9. 海外のフィールドから①（西川・市川） 10. 海外のフィールドから②（市川・西川） 11. 海外のフィールドから③（市川・西川） 12. 海外のフィールドから④（市川・西川） 13. 海外のフィールドから⑤（西川・市川） 14. まとめとプレゼンテーション・討論（西川・市川）				
評価基準				
①クラスへの参加度 20% ②テーマごとのレポート（1～5）25%、③一つの国もしくはテーマでのレポートと発表 45%、④地図のクイズ 10% A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
国境を越えて移動している人々の国家間のギャップと問題点を理解				
看護と他職種連携による、平等なヘルスを提供するための最新の状況とその問題点を理解し、その対策を検討できる				
世界のヘルスの問題、看護に対して、ポイントを絞ってその内容を深めることができる				
最新版の Global Health Nursing の情報と配布する論文により、海外のフィールドを学生のそれぞれのレベルに合わせて教員と共に解説				
世界のヘルスについて知識を深めることができる				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME4201	国際保健看護学演習M	1 年/後期	2
担当教員		課程	
西川まり子 市川誠一		博士前期課程	

授業計画詳細			
授業目的			
国際保健看護の演習を通し、ヘルスや看護分野の論文をクリティークやディスカッションしながら国際的な問題を捉え、その改善のための提言ができる基礎的能力を持てる。 2) 世界の論文を交えた広い視野から問題解決能力を持って、国際保健看護学の領域における具体的な課題に、積極的、効果的に取り組む方策と方法を説明できる。 3) 国際保健看護の学びを通し、ヘルスにおける国際的な問題を捉え、その改善のための提言ができる基礎的能力を持てる。 4) 広い視野から問題解決能力を持って、国際保健看護学の領域における具体的な課題に、積極的、効果的に取り組む方策と方法を説明できる。			
授業内容			
(オムニバス方式 4 回と共同 11 回) 西川まり子 5 回 西川まり子・市川誠一 11 回 国際保健看護学演習により国際社会においてヘルスの分野で活躍する視野を深める(西川・市川)。演習は、学生の英論文理解度に合わせ、日本も含めた世界の論文を厳選して国際保健看護の専門的な知識を学ぶ。無理なく解説しクリティークできるような達成感を重要視する。内容は、世界の看護の動向、グローバル化の中での人々の移動や原住民のヘルスと多文化共生看護、グローバルヘルスとその問題点とする(西川)。 そのうえで、国際社会における問題を捉え、その改善への自分の意見を持つことができる。レポート作成と討論により、具体的に習得できるようにする(西川・市川)。			
留意事項			
学生には積極的に論文解説、質疑・討論に参加することを期待する。			
教材			
教材・資料は受講者のニーズに応じて適宜選択する。 The Lancet 日本国際保健医療学会編『国際保健医療学 第3版』杏林書院(2013) ISBN978-4-7644 ¥3200 UNICEF『世界子供白書』最新版¥240、UNICEF『基礎リーフレット』最新版, ¥10 <資料> デイヴィッド ワーナー, 若井 晋(翻訳)『いのち・開発・NGO』1998, 新評論 ISBN13:978-4794804228 ¥3990 西川まり子『目で見える国際看護』DVD I, II, III, 医学映像教育センター ¥29400 X3			
授業計画 (30回)			
(オムニバス方式単独9回と共同 6回) 西川まり子 9回 西川まり子・市川誠一 6回 1-2. 国際保健看護学演習により国際社会においてヘルスの分野で活躍する視野を深める (西川・市川 /2回) 共同 3-11. 学生のニーズと英論文理解度に合わせ、日本も含めた世界の論文を厳選して国際保健看護の専門的な知識を学ぶ。無理なく解説しクリティークできるような達成感を重要視する。内容は、世界の看護の動向、グローバル化の中での人々の移動や原住民のヘルスと多文化共生看護、グローバルヘルスとその問題点とする(西川/9回) 具体的にはこの分野で著名な関連資料を提示し、その中から学生が論文を選ぶ。 国際保健看護学に関連した下記の①、②、③の資料3編は解説を奨励する。 ① Ratcliffe, J. (1978). Social Justice and the Demographic Transition: Lessons from India' s Kerala State: <i>Int. J. Health Serv.</i>, (1), 123-44.			

② Srivastava, R., (2006). Cross-cultural Communication. *The Healthcare Professional's Guide to Clinical Cultural Competence, 1st Edition (pp101-123)*: Canada, Mosby.

③ Guttman, N. (2004) Guilt, Fear, Stigma and Knowledge Gaps: Ethical Issues in Public Health Communication Intervention: *Journal of Evaluation in Clinical Practice*, 21 (3):496-502.

12-13. そのうえで、国際社会における問題を捉え、その改善への自分の意見を持つことができる。レポート作成と討論により、具体的に習得できるようにする

(西川・市川/2回) 共同

14-15. まとめ

(西川・市川/2回) 共同

評価基準

- 1) テーマごとのレポート作成 30%
- 2) テーマごとの発表・質疑・討論 30%
- 3) チャレンジする根気強さ 20%
- 4) 情報分析力、他の人々や組織力を活用し協力・連帯する能力 20%
 - A (100~80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
 - B (79~70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
 - C (69~60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 - D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
国際的な視野から問題解決能力を持って、具体的な課題に、積極的、効果的に取り組むことができる。				
世界のヘルスにおいて、学生自身ニーズと英語論文解読レベルに合わせた世界的な論文を読み終えることができる。				
国際保健看護学の学びを介し、ヘルスにおける国際的な問題を捉えて、その改善への検討ができる。				
多文化共生社会の中での看護に対する具体的な内容を学ぶことができる。				
自己の研究と融合した国際看護に関連した国際的な文献を解読し理解を深めることができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME4301	国際保健看護学演習MⅡ	1 年/後期	2
担当教員		課程	
西川まり子 市川誠一		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

国際保健看護学における多文化看護に配慮した①管理者能力 ②現場指導者としての教育能力の強化をめざしている。それらの能力内容を理解し、実践で文化的な背景をふまえた知識・技能・可能な範囲でのコミュニケーション力を含めて計画的効果的な実践の展開方法を学ぶ。そのために国際保健看護学の(1) 管理者(2) 教育支援者の役割・機能の実践力の強化・向上の二つの課題について、外国人対応の準備が整っている施設でのフィールドワークを中心に体験しその前後に学内演習を加えて展開する。

授業内容

国際保健看護学の多文化看護に配慮した(1) 管理者 (2) 教育者の役割・機能を果たす能力を理解し、それらの実施展開能力の強化・向上を目指す。上記の二つの課題について、外国人対応の整っている施設でのフィールドワークを中心として、その前(準備)と後(まとめ)は学内演習を設定する。理論的な考え方を基に、現場での学びから実践力の強化・向上をめざす。国際看護の国内実習の経験の豊かな教員を中心とした指導のもとに (1)学内でフィールドワークの準備のための多言語に対する対応、文献検討、DVD 視聴と討議によるレポート作成 (2) フィールドワークは現場の外国人や日本からの渡航準備の対応を中心に行っているリーダーと管理者の指導のもとに実践の見学・共同実施および現場にとって効果的である範囲で①管理者 ②教育支援者の役割の2つの課題をもつことによってリーダー的役割も含めて実践する。教育支援者の役割・機能は現場のスタッフや看護学生(国際看護学実習)への支援を指す。(3) 学習内容を深めるためのまとめはまず、実習施設内において、実習の最終日に発表し、(4) 現場とのディベートをもとに、学内において、教員の助言も含めて学生が、発表・討論を行い、(5) 現在の状況から今後の課題を見出す。

留意事項

1. 外国人へ積極的に関わることができるように、教員指導のもと次のことを習得や準備する。①挨拶、自己紹介は実習施設に合わせた数カ国語で、可能であるようにしておく。さらに、②身体の一部や主要な症状は対象者にあわせられるように、英語の日常語に近い簡単な単語(医療英語は母国語でも難しいため)でコミュニケーションが可能ないようにできる範囲で努力し、その資料をポケットに入れて、持ち歩くことができるように準備しておく。
2. 授業の課題について事前に情報収集し、レポートを期日ごとに作成し、現状と今後の課題を含めて発表や報告を行う。
3. 学内と実習現場における外国人ケアやその対策に積極的に参加し、現場の指導者やスタッフ、対象者の協力が得られるようにする。
4. 自己の実践力強化・向上について具体的に評価する。

教材

担当教員執筆の論文や著書

1. Mariko Nishikawa, Kiyoka Niiya & Masako Okayasu (2014). Addressing Practical Issues Related to Nursing Care For International Visitors To Hiroshima, Revista da Escola de Enfermagem da USP, Vol. 48 (2), 299-307. (Medline からダウンロード可能)
日本語訳: 広島を訪日外国人に関する看護ケアの実践的な問題.
2. 西川まり子, 村田直己, 小櫻愛美(2014). 国際看護への挑戦をテキストマイニングする, 看護研究 46(6), 577-586, 医学書院.
3. 西川まり子(2012). 目で見える国際看護 I, II, III, 株式会社医学映像教育センター, 東京, DVD.
4. 多文化共生センター(2012). 医療従事者が知っておきたい外国人患者への接し方 外国人医療カン

ファレンス編，京都. <u>現場の資料の一例</u> 外国人対応施設で使用されている、多言語の説明書 <u>その他、</u> 実習施設と学生の状況に合わせて、研究論文を中心に適宜使用				
授業計画（30回）				
実習事前学習 現地実習 実習後のまとめ				
評価基準				
A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
管理者として現場での役割：外国人への対応として施設全体の外国人受け入れが理解できる				
管理者として現場での役割：外国人への対応として言葉、食事や文化等への配慮が理解できる				
管理者として現場での役割：外国人への対応として地域のボランティア等との連携が理解できる				
教育的機能として現場での役割：現場で外国人への対応全体の中から現場への提言ができる				
教育的機能として現場での役割：看護教育上で、国際保健看護学についての提言をカリキュラムや学生実習等に対してできる				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME6101	精神看護学特論M	1 年/前期	2
担当教員		課程	
郷良淳子 松浦利江子		博士前期課程	

授業計画詳細				
授業目的				
1. 精神保健医療福祉に関する制度や体制を、歴史的変遷を踏まえて理解できる 2. 小児・思春期分野の精神保健の課題が理解できる。 3. 精神看護の領域における多職種連携の課題が理解でき分析できる 4. 精神看護におけるアセスメントと介入方法が理解できる。				
授業内容				
自立した実践リーダー・管理者・教育者の育成のために精神看護学の基盤となる諸理論および精神医療の歴史的変遷を学び、現代社会における精神看護の課題を理解する。さらに、現代社会におけるストレスとの関連や発達障害や自傷行為といった小児・思春期における精神保健の課題や看護職ができる対策を多職種との連携を踏まえ課題の提供と改善方法の検討。これらにより、精神看護における理論を基盤としたアセスメントや介入方法を学ぶ。 (オムニバス方式／15回) (郷良淳子／11回) 精神看護学の基盤となる諸理論および精神医療の歴史的変遷を学び探求する 現代社会におけるストレスとの関連、発達障害など小児思春期領域の精神看護に関連する課題と分析、思春期における精神保健の課題や看護職ができる対策における多職種との連携の課題と分析 (松浦利江子／4回) 精神看護における理論を基盤としたアセスメントや介入方法				
留意事項				
授業への積極的な取り組みが求められる。 自身の考えをあらかじめ検討し、ある程度の整理をして授業に臨むこと。				
教材				
随時紹介する。				
授業計画 (15回)				
1-4 精神看護学の基盤となる諸理論および精神医療の歴史的変遷を学び探求する 5-7 現代社会におけるストレスとの関連、発達障害など小児思春期領域の精神看護に関連する課題と分析 8-11 思春期における精神保健の課題や看護職ができる対策における多職種との連携の課題と分析 (郷良淳子／11回) 12-15 精神看護における理論を基盤としたアセスメントや介入方法 (松浦利江子／4回)				
評価基準				
1. レポート 50%、2. 授業へのディスカッションや主体的な取り組み：50% A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 精神保健医療福祉に関する制度や体制を、歴史的変遷を踏まえて理解できる。				
2. 1により現在における精神保健医療福祉の課題とその対処について考え表現ができる。				
3.小児・思春期分野の精神保健の課題を分析でき、課題とその対応について表現ができる。				
4. 精神看護の領域における多職種連携の課題が理解でき分析でき、説明できる。				
5. 精神看護におけるアセスメントと介入方法が理解できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME6201	精神看護学演習M	1 年/後期	2
担当教員		課 程	
郷良淳子		博士前期課程	
授業計画詳細			
授業目的			
1. 精神看護学の看護の役割を考察する。 2. 援助方法としてのカウンセリングやグループアプローチを理解し、実践の基礎的能力を培う。 3. 自身の関心あるテーマについて文献レビューができ、発表できる。 4. 課題について検討、ディスカッションし、研究方法についての考えを表現することができる。			
授業内容			
精神看護学に関する諸理論や先行研究の文献検討を通して、精神看護を専門とする看護職の役割について検討する。さらに現代社会のこころの健康に関連する幅広い対象への介入方法として、カウンセリングやグループへの対応方法についても学ぶ。さらに学生の関心のあるテーマについて文献検討を行い、その結果をまとめプレゼンテーション・討議する。精神看護の質を向上させる研究方法を探究する。 具体的には、①精神看護学の看護の役割について、さまざまな場における看護の役割、精神看護学の現状、実践リーダーとなるうえでの役割の拡大の課題 ②精神看護学領域における援助方法の理論と実際（看護面接技術、認知行動療法的アプローチ、集団療法的アプローチ、参加観察と面接の理論的背景と実際③自身の関心ある研究の課題となるテーマを見出す。文献レビューを行い、教員とディスカッションを行う。まとめと得た知見をプレゼンテーションし、課題を提出する。			
留意事項			
自身の考えをあらかじめ検討し、ある程度の整理をして授業に臨むこと。			
教材			
随時紹介する。			
授業計画（30回）			
1-8 精神看護学の看護の役割について さまざまな場における看護の役割、精神看護学の現状 実践リーダーとなるうえでの役割の拡大の課題 上記について、文献レビューとディスカッションを交えて検討 9-22 精神看護学領域における援助方法の理論と実際 看護面接技術（7回） 認知行動療法的アプローチ（4回） 集団療法的アプローチ（3回） ロールプレイやディスカッションの演習を行う。これらの援助技術の効果を発揮できる対象や場、およびこれらの介入方法の効果検証方法について検討する。 23-25 参加観察と面接の理論的背景と実際 26-29 上記での学びを踏まえ、自身の関心ある研究の課題となる テーマを見出す。文献レビューを行い、教員とディスカッションしながら検討する。 30 まとめと得た知見をプレゼンテーションし、課題を提出する。			
評価基準			
1. レポート 50%、2. 授業へのディスカッションや主体的な取り組み：50% A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)			

到達目標	A	B	C	D
1. 精神看護学の看護の役割の考えを説明できる。				
2. 援助方法としてのカウンセリングやグループアプローチの基礎的実践力が習得できる。				
3. 自身の関心あるテーマについて文献レビューができ考えを表現できる。				
4. 自らの関心のあるテーマの研究方法についての考えをまとめ、表現することができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME6301	精神看護学演習Ⅱ	1 年/後期	2
担当教員		課 程	
郷良淳子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

精神看護の看護実践能力の向上を目指す。その内容は、困難事例の直接的ケアにおけるアセスメントと看護介入、倫理的課題への対応を含めたコンサルテーション、スタッフへの教育支援であり、これらの臨床指導力が強化できる。

これらを通して、ケア対象者の支援システムの充実・発展ができるリーダーシップ能力が向上できる。

授業内容

精神看護の臨床能力の向上および臨床指導力、リーダーシップについて強化・向上を目指す。精神科病院あるいは地域精神科リハビリテーション施設でのフィールドワークを行い、そのフィールドの場の特徴や看護の特徴の理解を踏まえたうえで、そのフィールドで対応が難しい看護の対象者へのケアのあり方を諸理論や演習Ⅰで学んだ看護の手法を駆使しながら探求し、直接的なケアやコンサルテーションを実践する。

さらに、フィールドの看護職等への倫理的課題の対応や必要としている教育を提供していくことで、臨床指導力の強化を図る。これらを通して、精神看護領域のケア対象者の支援システムの充実・発展させることのできるリーダーシップ能力の向上を目指す。

留意事項

1. フィールドワーク毎にフィールドノーツを作成すること
2. フィールドワークの演習計画をフィールドノーツの分析の際、教員の指導のもとに立案する。

教材

随時紹介する

授業計画（30回）

1-2 フィールドワークの導入と準備

フィールドワークの入り方、進め方、フィールドノーツの書き方

3-28 フィールドワークとその分析

フィールドノーツの分析ではディスカッションを通して行うため、2名の教員が協働して指導する場合がある。筆頭教員がその実習におけるフィールドワークと分析の責任をもつ。

（フィールドワーク[精神科病院の病棟または外来、あるいは地域の精神科リハビリテーション施設]は基本的に日勤帯（例9-17時）の始まりから終わりまで行う。頻度は週1回程度とし、6-7回程度行う）

フィールドワークは、「対応が困難な患者とその看護」「フィールドでの倫理的課題」「フィールドの文化的特徴とケアの質向上のヒント」を視点に行うように指導する。

参加観察の内容をまとめるフィールドノーツを書き、教員とその分析を行う。フィールドワーク1回毎に分析を行い次のフィールドワーク（実習）に活かす。

フィールドワークでは以下の内容を行い、フィールドノーツの分析を通して、実践内容を分析し、次のフィールドワークに活かす。

3-16（実習場）①フィールドの看護職が対応困難なケア対象者のアセスメントや介入方法を検討し、実践する。また事例検討会やカンファレンスでの対応困難者の精神現症や自我機能を含めたアセスメントから対象者理解をふまえた看護実践ができるようスタッフの教育的支援を行う

17-20（実習場）②フィールドの倫理的課題について、スタッフのコンサルテーションを行う

21-28（実習場）③フィールドでのケア支援システムの現状の分析とより発展するための方策を立案する

29-30 まとめ フィールドワークでの学びも踏まえ研究テーマのディスカッションをし、研究の方向性を明らかにする

評価基準				
1. 課題レポート 25% 2. 実習のレポート 25% 3. 授業へのディスカッションや実習への主体的な取り組み：50% A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 精神看護学演習 M I で学んだケア技術や面接技術を駆使して実践ができる。				
2. 困難事例の直接的ケアにおけるアセスメントと看護介入ができる。				
3. 倫理的課題への対応を含めたコンサルテーション、スタッフへの教育支援ができる。				
4. 自身のリーダーシップの能力を評価し、さらなる向上のための今後の対策がわかる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME9101	広域看護学特別研究M I	1 年/通年	4
担当教員		課 程	
島内節 石井英子 三徳和子 西川まり子 郷良淳子 福田由紀子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

本研究の目的は、在宅看護・地域看護・国際保健看護・精神看護の質保証をめざして、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む。在宅看護学、地域看護学、国際保健看護学、精神看護学の領域を広域看護学分野としている。その分野で広い視点が持てるように4つの領域でのいずれかにおいて個別専門的視点から科学的思考力と研究能力を有する看護の実践リーダー・管理者・教育者として社会貢献できる高度専門職業人となるために必要な研究能力を身につけるために、適切で実行可能な研究計画書を作成し、研究倫理審査委員会に提出できるようにすることである。

授業内容

本授業科目は看護の質保証を重視して、専門性の高い看護を行うための科学的な知見を明らかにしていくために、看護の現象をよりとらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるのかについての枠組みを明確化し、看護の実践に有用な研究を行う。研究は分野の広い視野を基盤として4つの領域のいずれかに焦点を当てて個別研究を行う。看護の改善・改革のために、看護サービスの提供方法、看護システム、看護教育などについて取り組む。研究の過程を理解し、研究計画書を作成する。研究のプロセスは、① 研究テーマと目的の決定、② 研究倫理を含めた研究デザインの選定、データ収集法 ③ データ分析法 ④ 研究の精度を保つ質管理方法 ⑤ 修士論文計画書を完成する。

授業は、学生が広い視野をもつために分野の全教員が行う。分野内の主指導教員と副指導教員の指導体制で、学生主体で自己学修をプロセスに沿って行い、教員が上記①～⑤において指導する。

(島内節)

在宅看護の研究はいずれのテーマであっても在宅ケアの利用者と家族のケアの質保証を重視する。そのために看護の評価研究を含め、必要に応じて介入研究を行う。研究手法には、主に看護の実践例の調査研究を主体としてRCTやコホート研究を含む。事例分析・介入によるアウトカム分析などである。

① 終末期ケア ② 要介護高齢者の自立支援 ③ アセスメントとアウトカム評価 ④ 在宅ケアのリスク要因の予防とケア方法 ⑤ 心身症状の発生予防とケア ⑥ ケアマネジメント ⑦ サービスの組織化 ⑧ 病院から在宅ケアの移行支援 ⑨ ケアシステム評価 ⑩ 在宅ケアの質管理 ⑪ 費用対効果

(石井英子)

「療養者と家族のQOLの向上に寄与するために、退院支援の体系化、訪問看護ステーションと多機関との連携促進ツールの開発を目指した質的・量的研究指導を行う。

(三徳和子)

地域住民の喫煙、乳幼児虐待、神経難病、認知症、要介護高齢者の重度化予防をテーマに記述統計、多変量解析などを用いて研究指導を行う。

(西川まり子)

通訳を含めた言葉を中心にした支援評価、②ヘルスケアシステムを中心とした評価、③多様な文化的な背景を考慮したケアへの支援、④施設の受け入れ準備体制評価、⑤費用対効果、⑥多職種連携プレーの評価、⑦スタッフの教育体制や管理体制等。(2)外国人への調査の例は、①病気になりヘルス施設を受診するにあたり、その不安や心配要因の評価、②外国人の中でも比較的渡航医療が進んでいる国(ヨーロッパ諸国)と他国の比較からの訪日者の特徴やその対策、③外国人留学生のヘルス行動の評価(例としては、留学性のうち多くの比重を占めている中国系留学生)。

(郷良淳子)

「児童思春期看護に関する研究」「精神科における慢性期患者のリハビリテーションや退院促進」に関する研究を指導する。看護の質の向上や臨床における教育的課題QOLの向上、課題が明らかになる実践的研究を

質的研究のアプローチを用いて探求し、実現可能な精神科看護実践に寄与できる研究を指導する。 (福田由紀子) 1. 6歳児健診における母親のニーズ、疾患を持ちながら生活をする人のQOLの向上のための支援について、健康に関する課題抽出と課題に対する支援に関する研究指導を行う。				
留意事項				
1. 国内外の文献などから情報収集を行い、レビューを作成する。 2. 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。 3. レポートなどの提出物と発表資料は期日ごとに提出する。				
教材				
・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。				
授業計画 (60回)				
1-20 共通性が高く有用な研究課題と手法の代表的な研究例などを用いて、担当教員並びに広域看護学関連教員が紹介し、併せて教授する。 21-23 研究テーマと目的を決定：(自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・研究の新規性、独創性・社会的価値・研究倫理を明確にする。 24-27 研究デザインの選定、論文レポートと研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討 28-30 研究目的を達成するために実行可能なデータ収集法を選択 31-35 データ分析法の選択 36-41 研究プロセスにおいて研究の精度を保つ質管理方法 42-48 研究計画書を作成 49-52 看護学研究科委員会による学生とテーマ関連教員参加の下、「研究計画発表会」において準備・発表・討論(10月)(担当教員全員) 53-60 発表した研究計画の評価に基づいて修正し、また広域看護学分野のテーマ関連教員が参加し、助言の下、研究計画書を完成。				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究論文のクリティークができる。				
2. 研究テーマと目的について社会的ニーズの分析・研究の社会的価値・研究倫理を検討し、研究テーマと目的を決定できる				
3. 適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる。				
4. 研究データ収集方法の具体化とデータ分析法を決定できる				
5. 広域看護学分野の看護活動の改善・改革のために新しい知見が予測される研究計画を完成できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
ME9201	広域看護学特別研究MⅡ	2年/通年	4
担当教員		課程	
島内節 石井英子 三徳和子 西川まり子 郷良淳子 福田由紀子		博士前期課程	

授業計画詳細

授業目的

広域看護学特別研究MⅡの目的はMⅠ研究計画に沿って、研究倫理委員会の承認を得た後に、研究データを収集し、得られたデータの分析を行い、結果の解釈を検討し、論文にまとめる。

授業内容

特別研究MⅠで作成した研究計画書に沿って研究を進める。データの収集は倫理的配慮のもとに適切に行う。データの分析は量的データでは記述統計を行い、適切な統計手法を用いて分析する。結果から、仮説の検証を行い、解釈・考察を行う。

質的データは主にコード化、カテゴリー化して中核概念を抽出し、研究課題に応じた解釈法で結果と考察を行う。これら論文作成の一連のプロセスを教授する。

(島内節)

在宅看護の研究はいずれのテーマであっても在宅ケアの利用者と家族のケアの質保証を重視する。そのために看護の評価研究を含め、必要に応じて介入研究を行う。研究手法には、主に看護の実践例の調査研究を主体としてRCTやコホート研究を含む。事例分析・介入によるアウトカム分析などである。在宅看護は多様な条件をもつ在宅ケア利用者と家族の生活の場で、チームケアを基盤として医療と生活支援を行う特徴がある。そこでデータ収集において精度を保つ工夫・分析・考察について注意する。

① 終末期ケア ② 要介護高齢者の自立支援 ③ アセスメントとアウトカム評価 ④ 在宅ケアのリスク要因の予防とケア方法 ⑤ 心身症状の発生予防とケア ⑥ ケアマネジメント ⑦ サービスの組織化 ⑧ 病院から在宅ケアの移行支援 ⑨ ケアシステム評価 ⑩ 在宅ケアの質管理 ⑪ 費用対効果

(石井英子)

「療養者と家族のQOLの向上に寄与するために、退院支援の体系化、訪問看護ステーションと多機関との連携促進ツールの開発を目指した質的・量的研究指導を行う。

(三徳和子)

地域住民の喫煙、乳幼児虐待、神経難病、認知症、要介護高齢者の重度化予防をテーマに記述統計、多変量解析などを用いて結果を解析し、論文作成指導を行う。

(西川まり子)

通訳を含めた言葉を中心にした支援評価、②ヘルスケアシステムを中心とした評価、③多様な文化的な背景を考慮したケアへの支援、④施設の受け入れ準備体制評価、⑤費用対効果、⑥多職種連携プレーの評価、⑦スタッフの教育体制や管理体制等。(2)外国人への調査の例は、①病気になりヘルス施設を受診するにあたり、その不安や心配要因の評価、②外国人の中でも比較的渡航医療が進んでいる国(ヨーロッパ諸国)と他国の比較からの訪日者の特徴やその対策、③外国人留学生のヘルス行動の評価(例としては、留学性のうち多くの比重を占めている中国系留学生)。

(郷良淳子)

「児童思春期看護に関する研究」「精神科における慢性期患者のリハビリテーションや退院促進」に関する研究を指導する。看護の質の向上や臨床における教育的課題QOLの向上、課題が明らかになる実践的研究を質的研究のアプローチを用いて探求し、実現可能な精神科看護実践に寄与できる研究を指導する。

(福田由紀子)

1.6歳児健診における母親のニーズ、疾患を持ちながら生活をする人のQOLの向上のための支援について、健康に関する課題抽出と課題に対する支援に関する研究指導を行う。

した研究計画書に基づいてデータ収集、データ分析、論文作成の一連のプロセスを指導する。

留意事項				
根拠に基づいた結果から導きだした論文を作成する。 レポートなどの提出物は期日ごとに行う。 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。				
教材				
適宜示す。				
授業計画（60回）				
1-5 妥当性のある調査方法によって、データの収集を行う。 6-9 得られたデータの入力を行う。 10-19 得られたデータについては、量的データは記述統計を行い、その後目的を明らかにできる統計手法を用いて分析し、結果を導く。出された結果から仮説検証と、解釈・考察を行う。質的データは主にコード化、カテゴリー化し中核概念を抽出する。研究課題に応じた解釈法で結果と考察を行う。 20 研究テーマに沿って結果および考察をまとめ、発表する。 （広域看護学分野の学生と教員による意見、助言） 21-30 論文の作成を行う。				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究計画に沿って研究を進め、研究の精度を保ちながらデータ収集ができる。				
2. 適切なデータ分析によって結果の信頼性を高め妥当な解釈ができる。				
3. 適切な図表を加えて結果をまとめることができる。				
4. 研究結果に基づいて適切な考察と結論を導くことができる。				
5. 研究目的から結論までの論旨一貫性がある論文の作成ができる。				

2016年度(平成28年度)入学生用

2. 博士後期課程

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DA0101	看護学研究特論D	1 年/前期	2
担当教員		課程	
島内節 西川まり子 北川真理子 藤原奈佳子		博士後期課程	
授業計画詳細			
授業目的			
博士後期課程の目的は、自立した研究者としてグローバルな視点で看護研究と実践活動（現場と教育）の相互関係的発展を促進させる実践科学として看護学の学問的発展に貢献できる研究者と教育者になることである。そこで本科目では、このような研究者となるために研究領域や研究手法が異なる教員によって研究計画の立て方に焦点を当て、計画から研究結果の導き方にも触れて、自己研究に活用できることをめざす。本科目は、各学生の専門領域の特別研究前の基盤となる共通必修科目として位置づけている。			
授業内容			
本科目の特徴は、①看護の専門領域を超えた4名の教員による共同教育 ②多様な研究手法による研究の進め方 ③学際的研究の進め方 ④国際的研究の進め方などが含まれる。 独創性・新規性のある研究計画を立てることに焦点を当てるが、その計画からどのようにして結果が導かれるかを確認し、自己研究に活用できる示唆を得られるようにする。本学の4領域の教員が共同で幅広く授業を展開する。教材は事前に配布し、学生は質問事項を用意して参加する。講義を中心に展開するが、演習的内容を含めて討論が行えるようにする。 最後に学生は研究と実践の相互関係的発展を意図した研究計画を立てる試みをして、発表と討議によって理解を深め、研究計画の立て方への示唆を得て自己研究に反映できるようにする。			
1. 看護研究と実践活動の相互関係的発展を促進する研究の概論		（島内節／1回）	
2. 質的研究法（リプロダクティブヘルス看護学領域）		（北川真理子／2回）	
3. 実験的研究法（リプロダクティブヘルス看護学領域）		（北川真理子／2回）	
4. 国際疫学的調査研究法（国際保健看護学領域）		（西川まり子／2回）	
5. 学際的調査研究による医療組織構造プロセス分析法 （看護保健管理学領域）		（藤原奈佳子／3回）	
6. RCT. コホート研究によるケアプログラムとケアシステムの 開発研究法（在宅看護学領域）		（島内節／2回）	
7. 特許申請の着想と国際共同研究（在宅看護学領域）		（島内節、西川まり子／1回）共同	
8. まとめ		学生による看護研究と実践活動の相互関係的発展を意図した看護研究計画のレポート発表と討論 （島内節、北川真理子、西川まり子、藤原奈佳子／2回）共同	
留意事項			
1. 授業に積極的参加を期待する 2. 授業の課題について事前に情報収集と必要に応じて分析を試みる 3. 自己の研究計画に反映させる			
教材			
1. 各教員により研究論文を中心に適宜使用 2. 参考図書 福田吉治、山縣然太郎編（2007）：保健医療福祉の研究ナビ 金原出版			
授業計画（15回）			
1. 看護研究と実践活動の相互関係的発展を促進する研究の概論		（島内節／1回）	
2. 質的研究法（リプロダクティブヘルス看護学領域）		（北川真理子／2回）	
3. 実験的研究法（リプロダクティブヘルス看護学領域）		（北川真理子／2回）	

4. 国際疫学的調査研究法（国際保健看護学領域）	（西川まり子／2回）			
5. 学際的調査研究による医療組織構造プロセス分析法 （看護保健管理学領域）	（藤原奈佳子／3回）			
6. RCT. コホート研究によるケアプログラムとケアシステムの 開発研究法（在宅看護学領域）	（島内節／2回）			
7. 特許申請の着想と国際共同研究（在宅看護学領域）	（島内節、西川まり子／1回）共同			
8. まとめ 学生による看護研究と実践活動の相互関係的発展を意図した看護研究計画のレポート発表と討論 （島内節、北川真理子、西川まり子、藤原奈佳子／2回）共同				
評価基準				
1. 授業中の質疑・討論 40% 2. 情報収集と分析 30% 3. まとめのレポートと発表討論 30%				
A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 自己研究計画において研究の新規性・独創性・社会的有用性を記述することができる。				
2. 看護研究と実践の相互関係的発展を促進する研究計画の立て方が理解できる。				
3. 質的研究法は自己研究計画へのヒントを得た。				
4. 実験的研究法は自己研究計画へのヒントを得た。				
5. 国際疫学的調査研究法は自己研究計画へのヒントを得た。				
6. 医療組織構造プロセス分析法は自己研究計画へのヒントを得た。				
7. ケアプログラムとケアシステムの開発研究法は自己研究計画へのヒントを得た。				
8. 特許申請の着想と国際共同研究の基礎的なことが理解できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DA0201	疫学応用統計学D	1 年/前期	2
担当教員		課程	
市川誠一 西川まり子		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

根拠 (evidence) に基いた看護研究を行うにあたって疫学の考え方や方法・分析は有用である。講義では、疫学研究における指標、要因・暴露、因果関係、交絡因子、疫学研究方法、健康関連調査実施のプロセス（質問紙作成から調査実施まで）、疫学研究に用いられる統計学的分析を学習する。

加えて、数理地図システム (GIS: Geographic Information System) およびテキストマイニングについてなど、国際的な情報理論的解析を学習する。

データの解析においては探索的 (exploratory) な姿勢の重要性を学ぶ。

授業内容

疫学研究で用いられる指標、研究対象者の抽出、疫学研究における原因究明（要因、曝露、因果関係の判定、交絡など）、分析疫学（患者-対照研究とオッズ比、コホート研究と相対危険度・寄与危険度）、横断研究と介入研究、スクリーニング、研究と倫理について、次いで、健康関連情報処理のプロセス（データの種類、データ収集・分析・調査実施のプロセス）、質問紙調査（質問紙作成の基礎と留意点）を講義する。

健康関連情報の統計処理として、母集団・標本集団・基本統計量、統計学的推定と統計学的検定の理解、統計学的分析方法を講義する。

また、Hard to reach 層へのアプローチ、リスポンデントドリブンサンプリング法など近年用いられている新しい対象者のサンプリング手法、行動ステージモデルなど健康行動理論にもとづく行動分析手法について先行研究を例に講義する。

看護研究におけるテキストマイニングについて、また数理地図システム (GIS) によるグローバルヘルスデータの解析事例、国際的な情報理論的解析を学習する。

留意事項

1. 授業に積極的に参加する
2. 授業内容について事前に情報を収集し、必要に応じて分析を試みる
3. 授業内容を自己の研究の計画立案や実践に反映させる

教材

福富和夫・橋本修二：保健統計・疫学、南山堂、2400 円＋税

大村平：統計のはなしー基礎・応用・娯楽、日科技連、1836 円 (税込)

中村好一：基礎から学ぶ楽しい疫学、医学書院、3150 円＋税

古谷野亘・永田久雄：実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方、ワールドプランニング、2718 円＋税

Leon Gordis 著、木原正博・木原雅子訳：疫学ー臨床・公衆衛生・法律的判断のための基礎科学、三煌社、2400 円＋税

服部兼敏・西川まり子・木村義成：地域支援のためのコンパクトGISー「地図太郎」入門、古今書院、3,024 円 (税込)

服部兼敏：テキストマイニングで広がる看護の世界ーText Mining Studio を使いこなすー、ナカニシヤ出版、3500 円＋税

授業計画（15回）				
	（市川12回・西川3回）			
1 疫学とは：疫学の歴史から	市川			
2 統計学の基礎1：母集団と標本、数量データの分布、基本統計量	市川			
3 統計学の基礎2：推定と仮説検定、統計分析の流れ	市川			
4 疫学の基礎1：曝露と疾病、疫学的指標	市川			
5 疫学の基礎2：相対危険、寄与危険、オッズ比	市川			
6 疫学研究方法1：記述疫学、横断研究、対象者の選択 他	市川			
7 疫学研究方法2：症例対照研究、コホート研究、介入研究、他	市川			
8 疫学研究方法3：スクリーニングについて	市川			
9 疫学研究の進め方-質問紙調査を例に、調査計画と質問紙作成	市川			
10 データコーディングから SPSS まで				
11				
12 疫学研究例をもとに：対象者サンプリング手法	市川			
13 テキストマイニングによる看護研究-1	西川			
14 テキストマイニングによる看護研究-2	西川			
15 看護研究における数理地図システム(GIS)	西川			
評価基準				
課題レポート 70% 講義中の討議への参加 15% 授業への参加 15%				
A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
保健医療データを統計分析する上で基本となる分布や基本統計量についての理解				
健康関連情報処理プロセス（質問紙作成と留意点、データ収集～分析等）の理解				
疫学研究手法の看護研究への適用への理解				
疫学研究における遵守すべき倫理的事項の理解				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DB0101	看護教育学特論D	1 年/前期	2
担当教員		課程	
小笠原知枝 篠崎恵美子 伊藤千晴		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

本課程の目的は、グローバルな視点に立ちながら、研究と実践の相互関係を促す実践科学として看護学の発展に貢献できる自立した研究者、教育者の育成にある。そのため、特論Dでは、看護教育学の教育者・研究者になることを目指して、教育学、教育心理学、学習心理学、社会学、医学、保健学などの看護学周辺諸科学の知見を踏まえつつ、わが国内外の看護教育制度と社会動向を反映させながら実施する。

具体的には、わが国の社会的・教育的現状を反映した看護教育カリキュラムの開発、看護学教育への教育介入プログラムの作成と評価、看護学実習における教育環境の分析に基づく教育システムの構築、現場の実践活動を効果的にするためのエキスパート看護師に対する教育方策とその評価などの課題の修得による教育方略力や教育評価力を高めること、などを内容とする。こうした課題に関する諸研究を熟読し、クリティークすることにより、自己の独創的な研究計画や博士論文作成に寄与させる。

授業内容

以下の内容を行う。

1. わが国の看護教育学における教育と研究上の課題を、国内外の看護教育制度と社会動向を反映した教育現状との関連で分析する
 2. 看護学教育への教育介入プログラムの作成と評価
 3. わが国の社会的・教育的現状を反映した看護教育カリキュラムの開発—日米比較
 4. 体験学習理論を背景にした看護学教育授業展開における教育介入プログラムとの作成と評価法
 5. 看護学実習における教育環境の分析に基づく教育システムの構築
 6. 現場の実践活動を効果的にするためのエキスパート看護師に対する教育方策とその評価とまとめ
- 看護学教育プログラムの開発による教育介入研究や評価研究などについての修得によって、自己の研究計画にどのように活用するのかについての討議とレポート提出

(オムニバス方式／全 15 回)

(小笠原知枝／2 回)

わが国の看護教育学における教育と研究上の課題を、国内外の看護教育制度と社会動向を反映した教育現状との関連で分析する

(小笠原知枝、篠崎（植松）恵美子 伊藤千晴／13 回) 共同

看護学教育への教育介入プログラムの作成と評価、わが国の社会的・教育的現状を反映した看護教育カリキュラムの開発—日米比較、体験学習理論を背景にした看護学教育授業展開における教育介入プログラムとの作成と評価法、看護学実習における教育環境の分析に基づく教育システムの構築、現場の実践活動を効果的にするためのエキスパート看護師に対する教育方策とその評価、まとめ

留意事項

1. 授業に積極的参加を期待する。
2. 授業の課題について事前に情報収集と必要に応じて分析を試みる。
3. 授業の中で自己の研究計画と実践力強化に反映させる。

教材

必要に応じて適宜使用。

授業計画 (15 回)

授業はオムニバス方式、一部共同形式をとり、下記の内容で、講義・討議で進める。

- 1-2 わが国の看護教育学における教育と研究上の課題を、国内外の看護教育制度と社会動向を反映した教育現状との関連で分析する (小笠原知枝／2 回)

3-4 看護学教育への教育介入プログラムの作成と評価 (小笠原知枝、篠崎(植松)恵美子 伊藤千晴／2回) 共同				
5-6 わが国の社会的・教育的現状を反映した看護教育カリキュラムの開発―日米比較 (小笠原知枝、篠崎(植松)恵美子 伊藤千晴／2回) 共同				
7-9 体験学習理論を背景にした看護学教育授業展開における教育介入プログラムとの作成と評価法 (小笠原知枝、篠崎(植松)恵美子 伊藤千晴／3回) 共同				
10-12 看護学実習における教育環境の分析に基づく教育システムの構築 (小笠原知枝、篠崎(植松)恵美子 伊藤千晴／3回) 共同				
13-14 現場の実践活動を効果的にするためのエキスパート看護師に対する教育方策とその評価 (小笠原知枝、篠崎(植松)恵美子 伊藤千晴／2回) 共同				
15 まとめ 看護学教育プログラムの開発による教育介入研究や評価研究などについての修得によって、自己の研究計画にどのように活用するのかについての討議とレポート提出 (小笠原知枝、篠崎(植松)恵美子 伊藤千晴／1回) 共同				
評価基準				
1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30%				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 看護学教育における研究上の課題を、教育現状との関連で分析できる。				
2. アセスメント能力を高める教育介入研究のプロセスを理解し、分析できる。				
3. 看護学生の実習環境システム研究を分析して、教育指導の在り方を検討することができる。				
4. 体験学習理論に基づき、教育介入プロセスを理解し分析できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DB0201	看護教育学演習D	1年/通年	2
担当教員		課程	
小笠原知枝 篠崎恵美子 伊藤千晴		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

看護教育学や看護の基盤となる基礎看護領域の構成概念・理論・モデルを創造することに貢献する教育力・研究力を高めることを目的とする。そのために、概念分析、システマティック・レビューを修得し、具体的な研究例を用いて、教育介入研究、教育評価研究、ケアアウトカム測定尺度の開発、教育プログラム及び教育システムの開発とその検証などについて論理的に理解し、自己の研究計画や論文作成に活用させる。

授業内容

本演習では、以下の内容を扱うものである。

システマティック・レビューと概念分析に関する基礎理解をする。

国内外の諸看護教育学研究の理論生成過程の分析や教育介入研究について、システマティック・レビューをして、クリティークと研究テーマの概念分析をするために、以下を理解するものとする

(オムニバス方式／30回)

(小笠原知枝)

システマティック・レビューと概念分析に関する基礎理解をする。

国内外の諸看護教育学研究の理論生成過程の分析や教育介入研究について、システマティック・レビューをして、クリティークと研究テーマの概念分析をするために、以下を理解するものとする。

正確な臨床判断力を高めるための思考過程の分析と教育プログラムの開発

看護学教育の教育評価研究（測定尺度の開発を含む）に関するシステマティック・レビューと概念分析および教育システムの開発とその検証などにおけるシステマティック・レビューと概念分析

(小笠原知枝、篠崎（植松）恵美子、伊藤千晴／9回）共同

看護学教育への教育介入研究（教育プログラムの開発を含む）に関するシステマティック・レビューと概念分析：具体的には、①看護アセスメント領域、②対人関係看護介入領域、③倫理的態度領域など、における教育プログラムの開発とその検証

実習指導と実習環境間の教育システムの開発に関するシステマティック・レビューと概念分析とまとめとして研究と実践の相互関係的な発展をめざした研究内容例を通して、どのように自己の研究計画に活用するのかについての討議とレポート提出を行う。

留意事項

1. 授業に積極的参加を期待する。
2. 授業の課題について事前に情報収集と必要に応じて分析を試みる。
3. 授業の中で自己の研究計画と実践力強化に反映させる。

教材

1. 各教員により研究論文を中心に適宜使用。
2. 参考図書：
 - 1) 杉森みど理・舟島なをみ（2012）．看護教育学 第5版，医学書院．
 - 2) Kolb, D. A. (1984)．Experiential Learning: Experience as the Source of Learning and Development, Prentice-hall, New Jersey.
 - 3) 小笠原知枝・松木光子編（2012）．これからの看護研究－基礎と応用 第3版

授業計画（30回）

1-3 システマティック・レビューと概念分析に関する基礎理解 (小笠原知枝／3回)

4-12 看護学教育への教育介入研究（教育プログラムの開発を含む）に関するシステマティック・レビューと概念分析：①看護アセスメント領域、②対人関係看護介入領域、③倫理的態度領域における教育プログラム

の開発とその検証 (小笠原知枝、篠崎恵美子、伊藤千晴／9回) 共同 13-15 正確な臨床判断力を高めるための思考過程の分析と教育プログラムの開発 (小笠原知枝／3回) 16-20 看護学教育の教育評価研究(測定尺度の開発を含む)に関するシステムティック・レビューと概念分析 (小笠原知枝／5回) 21-24 教育システムの開発とその検証などにおけるシステムティック・レビューと概念分析 (篠崎恵美子／4回) 25-29 実習指導と実習環境間の教育システムの開発に関するシステムティック・レビューと概念分析 (篠崎恵美子、伊藤千晴／5回) 共同 30 まとめ: 研究と実践の相互関係的な発展をめざした研究例を通して、どのように自己の研究計画に活用するのかについての討議とレポート提出 (小笠原知枝、篠崎恵美子、伊藤千晴／1回) 共同				
評価基準				
1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30% A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. システムティック・レビューと概念分析について理解し、その意義を説明できる。				
2. アセスメント能力育成を目的とした教育介入研究のためのシステムティック・レビューに基づく概念分析ができる。				
3. 倫理的態度育成のための教育介入研究に関するシステムティック・レビューに基づく概念分析ができる。				
4. 臨床実習環境、実習指導と実習評価のシステムティックレビューに基づく概念分析ができる。				
5. 教育評価尺度の開発に関するシステムティックレビューに基づく概念分析ができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DB2101	看護保健管理学特論D	1 年/前期	2
担当教員		課程	
藤原奈佳子		博士後期課程	
授業計画詳細			
授業目的			
看護管理学は、経済学、経営学、組織論、心理学、社会学、政治学、政策学、社会保障学、医学など幅広い範囲を扱っている。看護周辺領域の学問体系の考え方にもふれながら、看護の質とは何かを探究し、看護の質向上のための方策をみいだす。看護管理の構築の視点から、組織の特性を踏まえた看護管理プログラムの開発に向けて、保健医療・看護政策や医療施設の管理に関連する国内外の文献を批判的に吟味し、看護管理のあるべき姿について探究する。			
授業内容			
自立した実践リーダー・管理者・教育者の育成のために看護管理学は、経済学、経営学、組織論、心理学、社会学、政治学、政策学、社会保障学、医学など幅広い範囲を扱っており、看護周辺領域の学問体系の考え方にもふれながら看護の質とは何かを探究し、看護の質向上をめざす。看護および保健医療政策に関する課題や実践的な看護マネジメントにおける資源の効果的、効率的配分における課題などについての国内外の文献購読をとおして、看護管理学の諸理論を学び、研究動向をとおして研究のプロセスを理解し、自らの研究課題へと発展させる能力を養う。			
留意事項			
各回のテーマに関する国内外論文を検索し、論文内容、研究方法について学習しておくこと。プレゼンテーションは、テーマの理論概説、先行研究や既存資料の観察などを通じた現状分析、自身の体験事例などを統合させて、改善策の提言、看護実践への応用などを含む。討議内容をふまえて課題レポートを作成する。			
教材			
必要文献は都度提示する。 (参考書) ・ スティーブン P. ロビンス著、高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、2009 年 ・ 中西睦子編集：看護サービス管理、第 3 巻、医学書院、2007 年 ・ 井部俊子他監修：看護管理学習テキスト、第 2 版、看護管理学研究、日本看護協会出版会			
授業計画 (15 回)			
1-5 「組織行動のマネジメント」を中心に輪読し、心理学・社会学・人類学・政治学などが包含された行動科学について理解する。組織で働く人々を体系的に概観することができる。 6-8 医療政策と看護の質、医療の質に関する課題 看護の質、医療の質に関する研究方法を学び、政策が質にもたらす影響を探究する。 9-11 組織における質の高い看護サービスの提供 組織、組織変革に関する理論を学び、看護サービスの質向上のための方策を探究する。 12-13 財務管理や人材育成などのシステム構築 組織の特性をふまえた看護管理プログラムを提言できる。 14-15 政策研究法と政策評価研究法 看護政策研究に関する文献を吟味し政策研究の手法や評価法を理解する。臨床現場での問題点から政策課題をみいだし政策代替案を提言することができる。			
(藤原奈佳子／15 回)			
評価基準			
1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35%			

A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 心理学・社会学・人類学・政治学などが包含された行動科学について理解し、組織で働く人々を体系的に概観することができる。				
2. 組織、組織変革に関する理論を学び、看護サービスの質向上のための方策を探究することができる。				
3. 組織の特性をふまえた看護管理プログラムを提言できる。				
4. 政策研究の手法や評価法を理解し、臨床現場での問題点から政策課題をみだし政策代替案を提言することができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数		
DB2201	看護保健管理学演習 D	1 年/通年	2		
担当教員		課程			
藤原奈佳子		博士後期課程			
授業計画詳細					
授業目的					
看護管理学領域に関連する課題を中心に、国内外の論文や図書などから情報を収集し、自己の研究課題を導く。					
授業内容					
自立した実践リーダー・管理者・教育者の育成のために、看護保健管理学での論文講読は、研究デザインや研究方法の妥当性と信頼性、得られた結果の検討など批判的に精読する。文献検索法、文献整理など研究の基礎的な技術や情報収集能力を修得する。必要な研究方法については、専門書を輪読する。また、既存資料の利用に際して、分析方法、結果の解釈、課題の明確化へと発展させる能力を修得する。学生の関心に応じて先進的取り組みを行っている組織においてフィールドワークを行い、その結果を報告・討議し看護管理上の課題を検討する。					
留意事項					
自己の研究課題を明確にするために、事前に自ら演習計画を立案するなど積極的な準備が必要である。					
教材					
必要文献は都度提示する。 書名：バーンズ&グローブ看護研究入門 著者名：Nancy Burns／Suzan K. Grove／監訳＝黒田裕子他、 出版社・出版年：エルゼビア・ジャパン；原著第5版・2007 年 価格：8,640 円 著者名：スティーブン P. ロビンス著、高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、 出版社・出版年：ダイヤモンド社・2009 年					
授業計画 (30 回)					
1-6 研究について「バーンズ&グローブ看護研究入門」を中心に購読し、研究計画作成に必要な知識について学習するとともに自己の課題について探究する 7-22 自己の課題について国内外の文献を吟味し、管理に関する理論を含めて課題へのとり組みを論理的にプレゼンテーションすることができる 23-30 ヘルスケアシステムにおける課題について組織変革プログラムや政策提言立案ができ、既存資料の利用に際して、分析方法、結果の解釈、課題の明確化へと発展させることができる (藤原奈佳子／30 回)					
評価基準					
1. 授業への参加状況 30% 2. プレゼンテーション 35% 3. 課題レポート 35% A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)					
到達目標		A	B	C	D
1. 研究計画作成に必要な知識について学習するとともに自己の課題について探究することができる。					
2. 自己の課題について国内外の文献を吟味し、管理に関する理論を含めて課題へのとり組みを論理的にプレゼンテーションすることができる。					
3. ヘルスケアシステムにおける課題について組織変革プログラムや政策提言立案ができる。					

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DB9101	看護教育管理学特別研究D I	1年/通年	2
担当教員		課程	
小笠原知枝 篠崎恵美子 藤原奈佳子 伊藤千晴		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

本研究では、看護教育と看護管理の質保証をめざし、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む看護教育学と看護管理学の領域を看護教育管理学看護学分野としている。その2つの領域での分野は国内外で研究を広げ革新的なケアプログラムの開発やケアシステムの開発を行う。

またグローバルな研究によって専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や看護教育者になるために特別研究D Iでは適切で実行可能な研究計画書を作成し、研究倫理審査委員会への提出を目指す。

授業内容

本授業内容は、看護の質保証を重視して専門性の高い看護を行うための科学的な知見を明らかにしていく。看護の現象をより、とらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるのかについての枠組みの明確化し、看護の実践に有用な研究を国内外の文献を通して幅広く行う。研究は分野の広い視点を基盤として2つの領域のいずれかについて深める看護教育学では看護の改善・改革のために、教育プログラムの開発、これに基づく教育介入研究、教育システムの構築を行う。看護管理は臨床現場での看護管理実践やヘルスケアシステムの改善などについて取り組む。研究の過程を理解し、研究計画書を作成する。研究計画書には研究タイトル、研究動機、研究背景、研究対象、研究枠組みなど、研究の意義（研究の新規性・独創性・看護における意義、社会的価値）、研究デザイン、データ収集法、分析方法、研究の精度を保つ質管理方法、倫理的配慮などを加え、研究計画書を完成する。看護教育学領域では看護教育者として、国際的視点の視野に入れた看護教育学の教育プログラムの開発、看護教育介入方法、教育システムの構築、教育評価、実習評価、看護介入アウトカムのための測定尺度の開発と看護理論モデルについて広く研究に取り組む。

（小笠原千枝）

主な研究テーマは看護教育学のプログラム開発とこれに基づく教育介入研究、教育評価、実習評価、看護介入アウトカムのための測定尺度の開発と看護理論である。

（篠崎恵美子）

研究テーマはさらに国際的に見地を深め、アセスメント能力と対人関係能力の育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究を探索する。

（小笠原知枝 伊藤千晴）共同

研究テーマはさらに国際的に見地を深め、倫理的態度育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究である。

（藤原奈佳子）

看護管理学領域では、看護保健管理学特論D、看護保健管理学演習Dで得た知識と技術を基に臨床現場での看護管理実践やヘルスケアシステムの改善に結びつく研究テーマを発見し研究に取り組む。主な研究テーマ例は、①看護記録を活用した生活支援システム、②多職種連携と協働、③医療専門職の人的資源活用、④看護実践におけるアウトカム評価、⑤院内の療養環境、⑥病院の機能分化を踏まえたヘルスケアシステム、⑦難病・慢性疾患の継続看護の研究に取り組む。

留意事項

1. 国内外の文献などから情報収集を行い、レビューを作成する。
2. 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。
3. レポートなどの提出物と発表資料は期日ごとに提出する。

教材

- ・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。
- ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。

授業計画 (30 回)				
1-6 看護教育管理学分野の個人に対して講義・演習・討論形式で授業展開：共通成が高く有用な研究課題と手法の代表的な研究例などを用いて下記のプロセスに沿って授業展開を行う。 7-8 原著水準の副論文 1 件以上（学術誌の原著論文として採用される）と博士（看護学）学位論文の完成を目指す条件の確認 9-11 研究テーマと目的を決定：自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・研究の新規性、独創性・社会的価値・研究倫理を明確にする。 12-14 研究デザインの選定、論文レポートと研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討 15-16 研究目的を達成するために実行可能なデータ収集法を選択 17-19 データ分析法の選択 20-21 研究プロセスにおいて研究の精度を保つ質管理方法 22-26 研究計画書を作成 27-28 看護学研究科委員会による学生と教員参加の「発表会」において準備発表・討論 29-30 発表した研究計画の評価に基づいて修正し、研究計画書を完成				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 学術誌での原著論文の水準を確認できる				
2. 研究テーマと目的について社会的ニーズの分析・研究の新規性・独創性・社会的価値・研究倫理を明確にし、研究テーマと目的を決定させる				
3. 適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる				
4. 研究データ収集方法の具体化とデータ分析方法を決定できる				
5. 研究プロセスにおける質管理方法を理解し活用できる				
6. 「発表会」に適切な準備の上で発表し、評価が受けられる				
7. 看護実践の改善、変革または政策への提言のために新しい知見が得られる研究計画書を完成させる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DB9201	看護教育管理学特別研究Ⅱ	2年/通年	2
担当教員		課程	
小笠原知枝 篠崎恵美子 藤原奈佳子 伊藤千晴		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

本科目では、看護教育と看護管理の質保証をめざし、看護活動の改善・改革のために独創性と新規性の高い実践的研究に取り組む。看護教育管理学分野において実践科学として学問的発展に貢献できるようになるために研究を行う。看護教育管理学分野の教員が指導をする。専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や看護教育者になるために、本科目の目的は特別研究Ⅰで行った研究計画に沿って研究を進め、論文を作成し、学術誌に投稿する。

授業内容

本授業内容は、分析において国際的視点で教育プログラム開発やシステム開発、または、看護保健管理学の研究テーマに沿って、現場の看護マネジメントの視点から看護実践の改善・変革のための提案ができる研究を行う。看護教育管理学に関する研究計画に沿って研究を進める。

- ①研究データの収集
- ②データの分析
- ③精度の高い結果を導き、その解釈、妥当性を検討
- ④十分な文献による考察、結論を導く。
- ⑤「発表会」で評価を得て論文を修正、博士論文の全体的な計画を実行しながら論文を完成する。
- ⑥学術誌に投稿する。

看護教育学領域では看護教育者として、国際的視点の視野に入れた看護教育学の教育プログラムの開発、看護教育介入方法、教育システムの構築、教育評価、実習評価、看護介入アウトカムのための測定尺度の開発と看護理論モデルについて広く研究に取り組む。

(小笠原千枝)

主な研究テーマは看護教育学のプログラム開発とこれに基づく教育介入研究、教育評価、実習評価、看護介入アウトカムのための測定尺度の開発と看護理論である。

(篠崎恵美子)

研究テーマはアセスメント能力と対人関係能力の育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究。

(伊藤千晴)

倫理的態度育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究

(藤原奈佳子)

看護管理学領域では、看護保健管理学特論Ⅰ、看護保健管理学演習Ⅰで得た知識と技術を基に臨床現場での看護管理実践やヘルスケアシステムの改善に結びつく研究テーマを発見し研究に取り組む。主な研究テーマ例は、①看護記録を活用した生活支援システム、②多職種連携と協働、③医療専門職の人的資源活用、④看護実践におけるアウトカム評価、⑤院内の療養環境、⑥病院の機能分化を踏まえたヘルスケアシステム、⑦難病・慢性疾患の継続看護の研究に取り組む。

留意事項

研究の推進、データの収集・分析、データ分析内容に即した副論文の作成、学会発表、学内中間発表の発表内容の精度、内容、評価

教材

- ・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。
- ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。

授業計画 (30回)

1-2 特別研究Ⅰの研究計画について、研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備

3-6 研究の精度を保つ方法でデータを収集				
7-11 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果について信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化				
12-16 研究結果に基づいて、副論文について適切な考察と結論を導き論理的にまとめ				
17-23 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討				
24-25 「発表会」において適切な準備の上で発表・討論				
26-30 論文の中間発表会の評価に基づいて論文の修正、学術誌に投稿				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 本研究を国際的な研究動向に位置づけて研究を進めることができる				
2. 研究計画に基づいて適切なデータ分析方法によって分析ができる。				
3. 分析結果に基づいて考察と結論を適切に導くことができる。				
4. 研究目的から結論まで論旨一貫性を検討確認できる。				
5. 論文の中間発表会で発表し、質疑に適切に対応できる。				
6. 博士（看護学）学位論文に関連する副論文を学術誌に投稿できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DB9301	看護教育管理学特別研究ⅡⅢ	3年/通年	2
担当教員		課程	
小笠原知枝 篠崎恵美子 藤原奈佳子 伊藤千晴		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

本研究では、看護教育・看護保健管理の質保証をめざして、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む看護教育学と看護保健管理学の領域を看護教育管理学分野としている。その2つの領域での広い分野でいずれかについても深め、革新的なケアプログラムの開発やケアシステムの開発などを行う。グローバルな研究によって専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や看護教育者になることをめざす。特別研究ⅡⅢの目的は、独創性があり先駆的な論文を作成することである。

授業内容

特別研究ⅡⅢでは、以下のプロセスに沿って授業展開を行う。

特別研究Ⅰ・Ⅱの内容水準と研究プロセスを経て博士学位論文の予備審査に合格した後、本論文の博士（看護学）学位論文を完成させ、その最終審査に合格することである。

特別研究ⅡⅢの研究経過に基づいて、研究結果を見直し、適切な考察と結論を導きまとめる。研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討、「博士（看護学）学位論文中間発表会（2回目）、研究科委員会において論文審査委員（3名）の口答諮問による予備審査に合格し、論文の最終審査に合格できるようにする。

看護教育学領域では看護教育者として、国際的視点の視野に入れた看護教育学の教育プログラムの開発、看護教育介入方法、教育システムの構築、教育評価、実習評価、看護介入アウトカムのための測定尺度の開発と看護理論モデルについて広く研究に取り組む。

（小笠原千枝）

主な研究テーマは看護教育学のプログラム開発とこれに基づく教育介入研究、教育評価、実習評価、看護介入アウトカムのための測定尺度の開発と看護理論である。

（篠崎恵美子）

研究テーマはアセスメント能力と対人関係能力の育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究。

（小笠原知枝、伊藤千晴）共同

倫理的態度育成のための教育プログラムの開発と教育介入研究

（藤原奈佳子）

看護管理学領域では、看護保健管理学特論Ⅱ、看護保健管理学演習Ⅱで得た知識と技術を基に臨床現場での看護管理実践やヘルスケアシステムの改善に結びつく研究テーマを発見し研究に取り組む。

主な研究テーマ例は、①看護記録を活用した生活支援システム、②多職種連携と協働、③医療専門職の人的資源活用、④看護実践におけるアウトカム評価、⑤院内の療養環境、⑥病院の機能分化を踏まえたヘルスケアシステム、⑦難病・慢性疾患の継続看護の研究に取り組む。

（小笠原千枝・篠崎（植松）恵美子 伊藤千晴）

学生の研究テーマに沿って研究の集大成として特別研究Ⅲでは、独創性があり、先駆的な例えば、（教育研究では患者や家族をサポートする看護学生に対人関係能力育成の達成の教育プログラムの開発など）、を作成する。

（藤原奈佳子）

研究結果から例えば、（現場の看護実践の改善・変革のための提言、保健医療制度をマネジメントする視点から政策への提言など）の論文を作成し、以下の内容水準と研究プロセスを経て博士学位論文の予備審査に合格した後、本論文の博士（看護学）学位論文を完成させ、その最終審査に合格することである。特別研究ⅡⅢの研究経過に基づいて、研究結果を見直し、適切な考察と結論を導きまとめる。研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討し、原著論文を完成させる。

留意事項				
1) 現場志向型研究の過程と方法を修得する。 2) 論理的・分析的思考に基づいた論文作成 3) 期日までに論文を仕上げる				
教材				
・ 学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・ 教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。				
授業計画 (30 回)				
1-5 グループと個人に対して講義・演習・討論形式で授業展開 1-6 特別研究Ⅱの研究経過に基づいてさらに研究結果を見直し、適切な考察と結論を記述 7-14 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討 15-20 研究科委員会が開催する学生と教員参加による「論文発表」において適切な準備の上で発表・討論 21-30 発表した論文の評価に基づいて修正 独創性・新規性のある論文を作成し、原著論文として投稿				
評価基準				
独創性があり先駆的な原著論文を作成する。 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 博士論文の目的から結論までの概要をまとめることができる。				
2. 論文の中間発表会で発表し質疑に適切に対応できる。				
3. 論文の発表会で発表し、質疑に適切に対応できる。				
4. 独創性・新規性のある論文を作成し、原著論文として投稿する。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DC0101	小児看護学特論D	1 年/前期	2
担当教員		課 程	
森美智子 倉田節子 深谷久子		博士後期課程	
授業計画詳細			
授業目的			
子どもとその家族の健康と援助に関する諸理論の変遷を概観し、重要と考えられる理論の分析、関連領域の研究のクリティークを行い、小児看護学領域における研究の動向と課題、および変化する社会への役割を追究し、新たな子どもと家族の看護の方向性を探究する。			
授業内容			
子どもの健康に関わる諸要因、ケアの課題、ケアシステムのあり方など、小児看護学領域の課題を明らかにし、小児看護学、家族看護学の側面からヘルスケアシステムの構築、技術開発、健康問題解決等に向けた研究方法が理解できる。また、グローバルで学際的な視点を持ち国内外の小児保健・医療・福祉分野の諸問題や、世界の動きに注目し、国際小児看護関係学会の知見を通して関連領域の研究成果を深め、研究の進め方の概要を理解できるようにする。 (オムニバス方式／全15回)			
1. (森美智子／9回)			
・小児保健・医療における課題、小児がん患児・家族のケアおよびフォローアップ体制と国際小児腫瘍学会関連の動向			
・小児看護学・家族看護学領域研究のクリティーク、関心ある現象に対する量的／質的研究の選択			
・概念／理論の探究・分析・展開・理論のフィールド探究			
2. (倉田節子／4回)			
・国際小児看護関係学会の知見や関連領域の研究成果の検討			
3. (森美智子、倉田節子、深谷久子／2回)			
・小児看護学・家族看護学領域における研究課題の明確化			
留意事項			
各課題のレポート作成、発表、討論への参加、自己の研究課題解決に向けた関連図書及び学術研究報告書などの文献的考察などを行う。			
教材			
必要に応じて文献、論文などは、その都度提示する。			
授業計画 (15回)			
1-4 国際社会における小児保健政策と医療・看護の現状、および小児がんの長期フォローアップ体制と看護の専門性の検討を行う。 (森美智子)			
5-8 国際的な視野を踏まえた小児看護関係学会の知見や関連領域の研究成果の検討を行う。その際、WHOなどの国際機関や日本の医療・保健・福祉・心理・教育分野の関連学会内容を含む。 (倉田節子)			
9-11 小児看護学・家族看護学領域研究のクリティーク。関心ある現象に対する量的／質的研究の選択(質量いずれも)、検討を行う。 (森美智子) 12-13			
概念／理論の探究・分析・展開・理論および開発プロセスのフィールド探究を行い、小児看護学、家族看護学の側面からヘルスケアシステムの構築、技術開発、健康問題解決等に向けた研究方法が理解できる。 (森美智子)			
14-15 小児看護学・家族看護学領域における研究課題の明確化、特に子どもの健康に関わる諸要因、ケアの課題、ケアシステムのあり方などの課題が明らかにできる。 (森美智子、倉田節子、深谷久子)			
評価基準			
問題・課題の発見、専門書および論文の選択と内容の理解、討論・プレゼンテーション内容、レポート内			

容等から総合的に評価する。

A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)

B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 国際社会における小児保健・医療政策と現状について、日本と対比し論じることができる。				
2. 今日的な小児看護の諸問題、特に小児がんの長期フォローアップ体制と看護の専門性の検討ができる。				
3. 小児看護学、家族看護学の側面からヘルスケアシステムの構築、技術開発、健康問題解決等に向けた研究の方法が理解でき、実証的に探究することができる。				
4. 小児の健康に関わる諸要因、ケアの課題、ケアシステムのあり方など、小児看護学領域の課題を明らかにし、検討できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DC0201	小児看護学演習D	1年/通年	2
担当教員		課程	
森 美智子 倉田節子 深谷久子		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

子どもと家族看護の新たな介入の創造と開発を目標に、他学問分野の方法論をも加味して関連領域研究のクリティークを行う。子どもや家族のQOLの向上やセルフケアの向上、家族機能の向上を目指し、顕在的・潜在的な健康課題や問題解決のために必要な看護学理論や方法論・技法の開発に繋げることをねらいとする。

授業内容

理論の構築、看護方法論の開発ができる能力を培うように、小児看護領域の学問的・社会的・国際的な研究に関してさらに演習で深める。子どもと家族看護の新たな介入の創造と開発を目標に、他学問分野の方法論をも加味して関連領域研究のクリティークを行う。子どもや家族のQOLの向上やセルフケアの向上、家族機能の向上を目指し、顕在的・潜在的な健康課題や問題解決のために必要な看護学理論や方法論・技法の開発に繋げることをねらいとする。世界の小児健康問題と対策などの広い視野をもち、小児看護学における研究課題について、文献レビュー、課題の明確化、研究方法に関する演習を行い、研究課題の探求・進め方の基盤となるようにする。

(オムニバス方式／全30回)

(森美智子、倉田節子／16回)

小児看護研究の国際的動向の文献検討（国際的な小児健康問題に関する英文ジャーナルからの文献検討含む）後、問題と将来展望を考察。小児看護学・家族看護学領域の今日的課題に関連する文献の検索とクリティーク、および新規性のある研究課題の検討、方法論の選択。

(森美智子／7回)

研究課題と方法論の整理・決定、妥当性の理論的説明、研究計画書の作成、フィールドワーク。

(森美智子、倉田節子、深谷久子／7回)

研究課題の方法論とその実現可能性の検討、小児看護学・家族看護学領域における研究課題の重要性・新規性の明確化。

留意事項

各課題のレポート作成、発表、討論への参加、研究課題の関連図書及び学術研究報告書などの文献的考察などを行う。

教材

必要に応じて文献、論文などは、その都度提示する。

授業計画 (30回)

- 1-16 小児看護研究の国際的動向の文献検討（国際的な小児健康問題に関する英文ジャーナルからの文献検討含む）後、小児保健の諸問題や国際活動の将来展望を考察する。
- 次に、小児看護学・家族看護学領域における今日的問題を踏まえ、必要な看護学理論や方法論・技法の追求・構築のための研究課題、および学生の志向する課題に関連する文献の検索とクリティークを行う中から、新規性のある研究課題を検討し、方法論の選択を行う。特に、健康に関わる諸要因、ケアの課題、ヘルスケアシステムの構築、知識・技術開発、健康問題解決等に向けた研究は実証的に探究、クリティークを行う。
(森美智子、倉田節子)
- 17-23 既存文献の検討から新規性のある研究課題と方法を決定する。研究課題と方法論を整理し、妥当性を理論的に説明する。研究計画書の草案を作成する。本研究課題の概念／理論の探究・分析・展開等についてフィールド演習を行う。
(森美智子)
- 24-30 研究課題を決定し、方法論とその実現可能性を検討し、倫理的な妥当性を踏まえて研究計画書の作成を行う。小児看護学・家族看護学領域における本研究課題の重要性・新規性を明確にする。
(森美智子、倉田節子、深谷久子)

評価基準				
文献レビュー、課題の明確化、研究方法の内容、討論・プレゼンテーション内容、レポート内容等から総合的に評価する。 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 関心のあるテーマについての文献検討から、課題を明確にできる。				
2. 文献検討の発表・討議を通して、小児と家族への支援のための方法論を追究できる。				
3. 文献検討で得られた示唆を基に、小児と家族に寄与することのできる知見や技術を探究し、看護実践モデルや小児看護の質を向上させる研究への適用について考究できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DC2101	リプロダクティブヘルス看護学特論D	1 年/前期	2
担当教員		課程	
内藤直子 北川真理子		博士後期課程	
授業計画詳細			
授業目的			
リプロダクティブヘルス／ライツに関する影響要因と、その健康維持・予防・健康問題に関する解決とケアの質的向上をめざして、理論的背景の理解を深め、健康指標・ニーズの分析方法、アウトカム測定法・ケアプログラムの開発やシステム構築の概要を理解できる。			
授業内容			
リプロダクティブヘルスとその権利を含め人々の性と生殖の健康に影響する要因と、その健康の維持増進・予防・健康問題に関する解決とケアの質的向上をめざして、理論的背景の理解を深め、健康指標・ニーズの分析方法、アウトカム測定法・ケアプログラムの開発やシステム構築の方法を概観し、問題解決型研究方法、実践に繋ぐ研究方法を講述する。 (オムニバス方式／全 15 回) (内藤直子／6 回) リプロダクティブヘルス／ライツに影響をもたらす理論的背景について講述し、問題解決型研究方法を修得する (北川真理子／5 回) 健康指標・ニーズの分析方法、ケアプログラムの開発方法 ケアの評価方法、ケアシステムの開発への研究方法 (内藤直子／4 回) 看護の臨床現場の体験に基づいた、アウトカム測定法・システム構築の方法			
留意事項			
課題のプレゼンテーション・レポート・討論により研究力の向上を図るために必要な自己学習力を習得する。			
教材			
研究課題に必要な国内外の文献資料を必要に応じて紹介する。			
授業計画 (15 回)			
1-6. リプロダクティブヘルス／ライツに影響をもたらす理論的背景について講述し、問題解決型研究方法を修得する (内藤直子／6 回)			
7-9. 健康指標・ニーズの分析方法、ケアプログラムの開発方法 (北川真理子／3 回)			
10-11. 看護の臨床現場の体験に基づいた、アウトカム測定法・システム構築の方法 (北川真理子／2 回)			
12-15. ケアの評価方法、ケアシステムの開発への研究方法 (内藤直子／4 回)			

評価基準				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. リプロダクティブヘルスに関する健康問題のエビデンス・アウトカムから多面的な課題分析が理解できる。				
2. リプロダクティブヘルスケア提供と評価過程を説明できる。				
3. リプロダクティブヘルスに関する質のよいケア提供のための方法論を説明できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DC2201	リプロダクティブヘルス看護学演習D	1年/通年	2
担当教員		課程	
内藤直子 北川真理子		博士後期課程	

授業計画詳細
授業目的
研究課題に必要とする研究手法について演習をとおして修得するとともに、研究デザインと進め方を明確化するワークを行う。
授業内容
特論を受けて、リプロダクティブヘルス看護における研究を進めるために、学生が自己の研究課題に必要なとする研究手法を演習する。フィールドワークまたは実験による適切なデータ収集方法、データ分析に必要なテクニカル・スキルの演習に取り組む。この演習を通して、研究デザインと進め方を明確化するための基盤とする。 (オムニバス方式／30回) (北川真理子／6回) リプロダクティブヘルスケア研究課題と、その研究デザインおよび研究の進め方について、概説する。リプロダクティブヘルスの現状を分析するために必要な適切なデータ収集方法の演習を行う。フィールドワークおよび実験に必要なテクニカル・スキルを習得するためのトレーニングを行う。質的研究手法。リプロダクティブヘルスの現状を分析するために必要な適切なデータ収集方法の演習を行う。フィールドワークおよび実験に必要なテクニカル・スキルを習得するためのトレーニングを行う。実験研究手法。リプロダクティブヘルスの現状を分析する方法、ケアプログラム開発の方法、ケア評価、システム構築の方法のシミュレーションや適切なデータ分析方法の演習を行う。健康指標・ニーズの分析方法・ケアプログラムの開発の方法、ケアの評価方法・ケアシステムの開発への研究方法 (内藤直子／24回) リプロダクティブヘルスの現状を分析するために必要な適切なデータ収集方法の演習を行う。フィールドワークおよび実験に必要なテクニカル・スキルを習得するためのトレーニングを行う。量的・質的なミックス法の研究手法。アウトカム測定法・システム構築のトランアンギュレーションによる研究方法
留意事項
1. 学生と教員間の双方向学修到達度チェックにより、リファレンス箇所を確認し、不十分な点を強化する。
教材
研究課題に必要な研究手法の資料を配付する。その他、参考文献等は別途演習時に紹介する。
授業計画 (30回)
1-2. リプロダクティブヘルスケア研究課題と、その研究デザインおよび研究の進め方について、概説する。 (内藤直子／2回)
3-6. リプロダクティブヘルスの現状を分析するために必要な適切なデータ収集方法の質的研究の手法について演習を行う。 (内藤直子／4回)
7-8. リプロダクティブヘルスの現状を分析するために必要な適切なデータ収集方法の演習を行い、フィールドワークおよび実験に必要なテクニカル・スキルを習得するためのトレーニングを行う。質的研究手法。 (北川真理子／2回)
9-14. リプロダクティブヘルスの現状を分析するために必要な適切なデータ収集方法の演習を行

う。フィールドワークおよび実験に必要なテクニカル・スキルを習得するためのトレーニングを行う。量的・質的なミックス法の研究手法。
(内藤直子／6回)

15-16. リプロダクティブヘルスの現状を分析するために必要な適切なデータ収集方法の演習を行う。フィールドワークおよび実験に必要なテクニカル・スキルを習得するためのトレーニングを行う。実験研究手法。
(北川眞理子／2回)

17-22. リプロダクティブヘルスの現状を分析する方法、ケアプログラム開発の方法、ケア評価、システム構築の方法のシミュレーションや適切なデータ分析方法の演習を行う。
(内藤直子／6回)

23-24. リプロダクティブヘルスの現状を分析する方法、ケアプログラム開発の方法、ケア評価、システム構築の方法のシミュレーションや適切なデータ分析方法の演習を行う。健康指標・ニーズの分析方法・ケアプログラムの開発の手法
(北川眞理子／2回)

25-28. アウトカム測定法・システム構築のトランアンギュレーションによる研究手法
(内藤直子／4回)

29-30. ケアの評価方法・ケアシステムの開発への研究手法
(内藤直子／2回)

評価基準

- A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. リプロダクティブヘルスに関する健康問題探究のエビデンス・アウトカムからの測定・分析について検討できる。				
2. リプロダクティブヘルスケアの評価手法を説明し、検討できる。				
3. リプロダクティブヘルスケアに関する概念研究・尺度開発・実証研究の手法を理解し、検討できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DC9101	発達看護学特別研究D I	1年/通年	2
担当教員		課程	
森美智子 倉田節子 内藤直子		博士課程後期	

授業計画詳細

授業目的

本科目の目的は、小児看護学とリプロダクティブヘルス看護学の領域を発達看護学分野として、小児看護・リプロダクティブヘルス看護の質保証をめざし、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む。発達看護学分野の研究において広い視野が持てるようにするために、分野単位で共同学修をしたあとに二つの領域のいずれかにおいて個別研究を行う。グローバルな視点の研究による専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や看護教育者になるために特別研究D Iでは適切で実行可能な研究計画書を作成する。さらに、研究倫理審査委員会への提出を目指す。

授業内容

本授業内容は、小児看護学とリプロダクティブヘルス看護学の看護の質保証を重視して専門性の高い看護を行うための科学的な知見を明らかにしていく。看護の現象をよりとらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるのかについての枠組みを明確化して看護の実践に有用な研究を行う。分野で共同学修をした後に2つの領域のいずれかにおいて個別研究を行う。そのため看護の改善・改革のために教育プログラムの開発、教育介入研究、教育システムの構築、臨床現場での看護管理実践やヘルスケアシステムの改善などについて展開し研究のプロセスを理解し、研究計画書を作成する。研究計画書には研究タイトル、研究動機、研究背景、研究対象、研究枠組みなど、研究の意義（研究の新規性・独創性・看護における意義、社会的価値）、研究デザイン、データ収集法、分析方法、研究の精度を保つ質管理方法、倫理的配慮などを加え、研究計画書を完成する。

【担当教員の指導目的・指導の焦点・指導方法・研究テーマ】

（森美智子）

小児看護学の専門性の必要から、国内外の小児に関する保健・医療・福祉分野からのニーズに対応できる研究であるか、検討しながら研究を行う。小児・家族看護の研究テーマとしては、発達心理・学習心理からみた発達看護領域、障害児・虐待児のケアや対策関係、小児がん等慢性疾患のケアや長期フォローアップ、予後に重大な影響を及ぼす小児急性期疾患のケアやフォローアップ、その他小児・家族看護の視点から新たな応用方法の探索や開発研究を行う。また、小児看護人材育成プログラム、小児看護ケアの質評価尺度開発、多職種連携・協働等の小児看護師の高度専門職への探求がある。

（倉田節子）

発達看護学における小児看護学領域の研究は、小児とその家族への看護の質の向上と対象者の最善の利益の保障を追究したテーマとする。小児病棟の縮小化の中で、小児看護を専門とする人材育成は重要課題であるため、小児看護に携わる看護師への教育支援方法の開発・高度専門職への探究も含む。そのために、院生の蓄積研究を基盤とした継続研究としての看護介入やプログラムの開発を目指した研究を行う。研究手法としては、発達看護学特別研究MIに加えて、小児と家族への支援プログラムの開発、小児看護に携わる看護師への教育支援プログラムの開発などである。小児看護への貢献や小児と家族を育む社会ニーズとの調和に留意して、現場に活用可能な支援方法を開発できるよう指導する。

（内藤直子）

研究テーマは母乳育児支援、周産期周辺の母子関係などに関する研究に取り組む研究領域では、リプロダクティブヘルスに関して、なかでも周産期周辺の母子関係、母乳育児支援、産褥期の母親役割、思春期の性行動と親性、性教育と親役割達成などの性と生殖の健康に関わる研究疑問に対する質のよい看護援助法を探究する。博士課程ではこれらの臨床疑問について、質的・量的に探究する研究手法を用い、看護援助法の開発や概念研究の研究過程の講義をする。

留意事項				
1. 国内外の文献などから情報収集を行い、レビューを作成する。 2. 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。 3. レポートなどの提出物と発表資料は期日ごとに提出する。				
教材				
・ 学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・ 教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。				
授業計画（30回）				
1-5 共通性が高く有用な研究課題と手法の代表的な研究例などを用いて講義演習を行う。 6-11 研究テーマと目的を決定：自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・研究の新規性、独創性・社会的価値・研究倫理を明確にする。 12-14 研究デザインの選定、論文レポートと研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討 15-16 研究目的を達成するために実行可能なデータ収集法を選択 17-19 データ分析法の選択 20-21 研究プロセスにおいて研究の精度を保つ質管理方法 22-26 研究計画書を作成 27-28 学生と教員参加の「論文発表会」の発表・討論の準備（10月） 29-30 発表した研究計画の評価に基づいて修正し、研究計画書を完成				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 学術誌での原著論文の水準を確認できる				
2. 研究テーマと目的について社会的ニーズの分析・研究の新規性・独創性・社会的価値・研究倫理を明確にし、研究テーマと目的を決定できる				
3. 適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる				
4. 研究データ収集方法の具体化とデータ分析方法を決定できる				
5. 研究プロセスにおける質管理方法を理解し活用できる				
6. 「研究計画発表会」に適切な準備の上で発表し、評価が受けられる				
7. 看護実践の改善、変革または政策への提言のために新しい知見が得られる研究計画書を完成させることができる				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DC9201	発達看護学特別研究Ⅱ	2年/通年	2
担当教員		課程	
森美智子 倉田節子 内藤直子		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

本研究では、小児看護学とリプロダクティブヘルス看護学の質保証をめざし、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む小児看護学とリプロダクティブヘルス看護学の領域を発達看護学分野としている。その2つの領域での分野は国内外で研究を広げ革新的なケアプログラムの開発やケアシステムの開発などを行う。またグローバルな研究によって専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や看護教育者になるために、特別研究Ⅱでは、特別研究Ⅰで示した研究領域の選択内での各自が設定した研究計画に沿って研究を実行しながら論文を完成し、学会発表と学会誌投稿を行う。

授業内容

本授業内容は、特別研究Ⅰで示した研究領域の選択内での各自が設定した研究計画に沿って研究を進める。研究データの収集、データの分析、精度の高い結果を導き、その解釈、妥当性を検討、十分な文献による考察、結論を導く。「論文発表会」で評価を得て論文を修正、論文の全体的な計画を実行しながら論文を完成する。

具体的には小児看護学では、国内外の小児に関する保健・医療・福祉分野からのニーズも視野に入れたテーマで行う。

リプロダクティブヘルス看護学では、リプロダクティブヘルスに関して、海外文献を抄読し、国内文献クリティークから文献レビューして知見をひろげ、倫理的問題や心理的ケア、ケアシステム研究に着目した授業展開である。

【担当教員の指導目的・指導の焦点・指導方法・研究テーマ】

(森美智子)

小児看護学の専門性の必要から、国内外の小児に関する保健・医療・福祉分野からのニーズに対応できる研究であるか、検討しながら研究を行う。小児・家族看護の研究テーマとしては、発達心理・学習心理からみた発達看護領域、障害児・虐待児のケアや対策関係、小児がん等慢性疾患のケアや長期フォローアップ、予後に重大な影響を及ぼす小児急性期疾患のケアやフォローアップ、その他小児・家族看護の視点から新たな応用方法の探索や開発研究を行う。また、小児看護人材育成プログラム、小児看護ケアの質評価尺度開発、多職種連携・協働等の小児看護師の高度専門職への探求がある。

(倉田節子)

発達看護学における小児看護学領域の研究は、小児とその家族への看護の質の向上と対象者の最善の利益の保障を追究したテーマとする。小児病棟の縮小化の中で、小児看護を専門とする人材育成は重要課題であるため、小児看護に携わる看護師への教育支援方法の開発・高度専門職への探究も含む。そのために、院生の蓄積研究を基盤とした継続研究としての看護介入やプログラムの開発を目指した研究を行う。研究手法としては、発達看護学特別研究Ⅰに加えて、小児と家族への支援プログラムの開発、小児看護に携わる看護師への教育支援プログラムの開発などである。小児看護への貢献や小児と家族を育む社会ニーズとの調和に留意して、現場に活用可能な支援方法を開発できるよう指導する。

(内藤直子)

研究テーマは母乳育児支援、周産期周辺の母子関係などに関する研究に取り組む研究領域では、リプロダクティブヘルスに関して、なかでも周産期周辺の母子関係、母乳育児支援、産褥期の母親役割、思春期の性行動と親性、性教育と親役割達成などの性と生殖の健康に関わる研究疑問に対する質のよい看護援助法を探究する。博士課程ではこれらの臨床疑問について、質的・量的に探究する研究手法を用い、看護援助法の開発や概念研究の研究過程の講義をする。

留意事項				
1. 国内外の文献などから情報収集を行い、文献レビューを作成する。 2. 授業への出席率と研究への積極的な取り組みが求められる。 3. レポートなどの提出物と発表資料は期日ごとに提出する。				
教材				
・ 学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・ 教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。				
授業計画（30回）				
学生の個別研究 研究プロセスにおけるレポート作成・発表・討論を継続し、研究を進める。 1-2 特別研究Ⅰの研究計画について、研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備 3-6 研究の精度を保つ方法でデータを収集 7-11 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果について信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化 12-16 研究結果に基づいて、副論文について適切な考察と結論を導き論理的にまとめ 17-23 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討 24-25 学生と教員参加による「看護学論文発表」において適切な準備の上で発表・討論 26-28 論文の発表会の評価に基づいて論文の修正 29-30 論文を学術誌に投稿				
評価基準				
研究の推進、データの収集・分析、データ分析内容に即した論文の作成、学会発表、学内中間発表の発表内容の精度、内容、評価 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究計画に沿って精度を保つ方法でデータが収集できる。				
2. 適切なデータ分析方法によって分析ができる。				
3. 分析結果に基づいて考察と結論を適切に導くことができる。				
4. 研究目的から結論まで論旨一貫性を検討確認できる。				
5. 論文の発表会で発表し、質疑に適切に対応できる。				
6. 論文を学術誌に投稿できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DC9301	発達看護学特別研究ⅡⅢ	3年/通年	2
担当教員		課程	
森美智子 倉田節子 北川眞理子 内藤直子		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

本研究では、小児看護とリプロダクティブヘルス看護の質保証をめざし、看護活動の改善・改革のための先進的な課題で実践的研究に取り組む小児看護学とリプロダクティブヘルス看護学の領域を発達看護学分野としている。その2つの領域での分野は国内外で研究を広げ革新的なケアプログラムの開発やケアシステムの開発などを行う。またグローバルな視点による研究によって専門的で高度な実践と研究の相互発展を促進させる研究者や看護教育者になるために特別研究ⅡⅢの目的は、独創性があり先駆的な論文を作成する。

授業内容

発達看護学分野における特別研究Ⅱの研究経過に基づいて、研究結果をまとめ、適切な考察と結論を導き論文をまとめる。研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討、博士（看護学）論文発表会後、論文の修正をし、学会誌に投稿する。具体的には、小児看護学は小児・家族看護領域の多種多様な課題に、理論の構築、看護方法論の開発・創造等により、学問的発展に貢献できる研究論文の作成を行う。

また、リプロダクティブヘルス看護学は、臨床研究のケア評価などから、科学的なエビデンスに基づき看護の問題や関連する施策の改善に寄与し、研究結果から、汎用可能で、かつ、教育的にも有用な研究成果を期待できる研究方法ができるようにする。そして、学生が周産期の研究結果から、理論を用いた検証方法を学ぶことで、さらに自己の研究を深められるようにする。

【担当教員の指導目的・指導の焦点・指導方法・研究テーマ】

（森美智子）

小児看護学の専門性の必要から、国内外の小児に関する保健・医療・福祉分野からのニーズに対応できる研究であるか、検討しながら研究を行う。小児・家族看護の研究テーマとしては、発達心理・学習心理からみた発達看護領域、障害児・虐待児のケアや対策関係、小児がん等慢性疾患のケアや長期フォローアップ、予後に重大な影響を及ぼす小児急性期疾患のケアやフォローアップ、その他小児・家族看護の視点から新たな応用方法の探索や開発研究を行う。また、小児看護人材育成プログラム、小児看護ケアの質評価尺度開発、多職種連携・協働等の小児看護師の高度専門職への探求がある。

（倉田節子）

発達看護学における小児看護学領域の研究は、小児とその家族への看護の質の向上と対象者の最善の利益の保障を追究したテーマとする。小児病棟の縮小化の中で、小児看護を専門とする人材育成は重要課題であるため、小児看護に携わる看護師への教育支援方法の開発・高度専門職への探究も含む。そのために、院生の蓄積研究を基盤とした継続研究としての看護介入やプログラムの開発を目指した研究を行う。研究手法としては、発達看護学特別研究ⅡⅢに加えて、小児と家族への支援プログラムの開発、小児看護に携わる看護師への教育支援プログラムの開発などである。小児看護への貢献や小児と家族を育む社会ニーズとの調和に留意して、現場に活用可能な支援方法を開発できるよう指導する。

（北川眞理子）

リプロダクティブヘルスに関して、なかでも周産期周辺の母子関係、母乳育児支援、産褥期の母親役割、思春期の性行動と親性、性教育と親役割達成、などの性と生殖の健康に関わる研究疑問に対する質のよい看護援助法を探究する。

（内藤直子）

研究テーマは母乳育児支援、周産期周辺の母子関係などに関する研究に取り組む研究領域では、リプロダクティブヘルスに関して、なかでも周産期周辺の母子関係、母乳育児支援、産褥期の母親役割、思春期の性行動と親性、性教育と親役割達成などの性と生殖の健康に関わる研究疑問に対する質のよい看護援助法を探究する。博士課程ではこれらの臨床疑問について、質的・量的に探究する研究手法を用い、看護援助法の開

発や概念研究の研究過程の講義をする。				
留意事項				
1. 現場志向型研究の過程と方法を修得する。 2. 論理的・分析的思考に基づいた論文作成 3. 期日までに論文を仕上げる				
教材				
・学生は自己の研究課題に関連した文献を教員の支援により、検索する。 ・教員は必要に応じて、研究テキスト、研究論文、資料を紹介する。				
授業計画（30回）				
1-6 特別研究Ⅱの研究経過に基づいてさらに研究結果を見直し、適切な考察と結論を記述 7-14 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討 15-16 学生と教員参加による「論文発表会」において適切な準備の上で発表・討論 17-20 発表した論文の評価に基づいて修正 21-30 原著論文を作成する。				
評価基準				
独創性があり先駆的な原著論文を作成する。 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 新規性・チャレンジ性を有する博士論文としてまとめることができる。				
2. 本研究は、当該分野の研究進展に貢献することができる。				
3. 本研究の成果は、関連分野等への波及効果を期待することができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DD0101	クリティカルケア看護学特論D	1 年/前期	2
担当教員		課程	
柴山健三		博士後期課程	

授業計画詳細				
授業目的				
「クリティカルケア看護学」領域における特に心血管系疾患看護の臨床志向型研究に取り組むために、ヘルスケアシステムの構築およびケアプログラムや技術を開発するなど看護の効果効率的なあり方について理解できる。				
授業内容				
「クリティカルケア看護学」領域における特に心血管系疾患看護の臨床志向型研究に取り組むために、ヘルスケアシステムの構築およびケアプログラムや技術を開発するなど看護の効果効率的なあり方について検討する。特に ICU・CCU・SCU などの最先端医療における救命救急場面における対象のフィジカル・アセスメント能力の向上及び倫理的課題を探究し、研究と実践の相互関係をめざして考察する。				
留意事項				
1. 授業に積極的参加を期待する。 2. 授業の課題について事前に情報収集・分析し授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させる。				
教材				
研究論文及び関連図書は都度提示する。				
授業計画 (15回)				
1-4. 最先端医療における脳卒中高齢者・虚血性心疾患患者の救命救急場面で看護専門職者が直面する問題解決の技術 5-6. ICU・CCU など救命救急場面における看護実践の国際的動向、看護理論および実践 7-10. シミュレーション教育を取り入れた救命救急場面における救命・外傷プロバイダーとしての看護実践能力を高めるための技術 11-14. 救急救命場面で引き起こされる人々の生命の問題を、科学的に検証し、生きることを意味を追究し人の尊厳に関する問題を看護の視点 15. 教授された内容から救命救急の看護実践及と教育に関する自己の課題解決に向けた方策を研究的に論述した最終レポートの提出				
評価基準				
学生の提出したレポート、課題発表の準備とその内容・発表態度、討論への参加度などで評価する。 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. クリティカルケア看護学領域における特に心血管系疾患看護の臨床志向型研究動向を認識できる。				
2. ヘルスケアシステムの構築およびケアプログラムや技術を開発するなど看護の効果効率的なあり方について理解できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数	
DD0201	クリティカルケア看護学演習D	1 年/通年	2	
担当教員		課程		
柴山健三		博士後期課程		
授業計画詳細				
授業目的				
この演習では、ICU・CCU・SCU などの最先端医療における救命救急場面での看護実践能力を高めるための知識・技術修得・技術開発・教育プログラム開発を目指した研究を実証的に行うことができる。加えて救急救命場面における健康問題解決のための援助法について探究し、研究と実践の相互関係的発展を促す臨床志向型研究について実践的に検討できるようにする。				
授業内容				
この演習では、ICU・CCU・SCU などの最先端医療における救命救急場面での看護実践能力を高めるための知識・技術修得のための教育プログラム開発を目指した探究を実証的に行う。加えて救急救命場面における健康問題解決のための援助法について探究し、研究と実践の循環的発展を促す臨床志向型の方向性について実践的に検討できるようにする。				
留意事項				
学習は主体的に臨み、議論等には積極的に参加することを期待する。				
教材				
研究論文及び関連図書は都度提示する。				
授業計画 (30回)				
1-4. ICU・CCU・SCU などの施設で勤務している看護師の責務についての討論 救命救急場面で看護専門職者が実際に直面する問題の明確化 1) 救急患者の健康問題アセスメント 2) フیزیカルアセスメントの妥当性についての検証 5-6. 救命救急場面で看護専門職者が実際に直面する問題の明確化 1) 心身の苦痛・緩和に向けた看護の探究 7-30. 明確化された問題の解決に向けた支援法・教授法・教育プログラムの立案 1) 生命危機状況から回復に向けた適切な援助 2) 援助に対する看護者の実践的・倫理的課題の探究 立案した援助法・教授法・教育プログラム再評価 関連する国内外のワークショップ・セミナー・学会への参加				
評価基準				
学生の提出したレポート、課題発表の準備とその内容・発表態度、討論への参加度などで評価する。 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. ICU・CCU・SCU などの最先端医療における救命救急場面での看護実践能力を高めるための知識・技術修得・技術修得のための教授法及び教育プログラム開発を目指した探究を実証的に行うことができる				
2. 救急救命場面における健康問題解決のための援助法について探究し、研究と実践の循環的発展を促す臨床志向型の方向性について実践的に検討できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DD2101	エンド・オブ・ライフ ケア看護学特論D	1 年/前期	2
担当教員		課程	
小笠原知枝 島内節 加藤亜妃子		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

本学の博士課程が目指す看護人材像（教育目的）は、グローバルな視点を持って学問的発展に貢献できる活動的創造的で自立した研究者と教育者の育成である。そのため、エンド・オブ・ライフケア看護学では、海外の終末期ケア学研究やがん看護学研究で生成された理論・概念・モデルを基盤に、わが国の社会文化を反映したエンド・オブ・ライフケア看護学を探究する。さらに終末期におけるがん・非がんのあらゆる対象者の心身ニーズの対応、家族支援を含めた終末期患者のQOL・QODを高めることに貢献できる研究力を育成する。

エンド・オブ・ライフケア看護学特論Dでは、エンド・オブ・ライフケアと研究において必要とされる国内外の制度、ケアシステム、研究動向を理解し、わが国の課題を分析する。アセスメントや評価を中心に、エンド・オブ・ライフケアの改善・改革のために、実践的研究からエビデンスを分析し、エンド・オブ・ライフ患者とその家族のニーズのアセスメントと測定、ケア評価、などを含める。そこで、本特論Dでは、看護学周辺の学問領域で得られた知見と海外のエンド・オブ・ライフケア質評価に関する研究文献を基盤に、エンド・オブ・ライフケアの専門的機能、ケアシステムやその評価方法、ケアの質管理方法を修得することによって、各自の研究課題に反映させる。

授業内容

授業はオムニバス方式で、狭義のがん看護領域のエンド・オブ・ライフケアだけでなく、在宅看護、老年看護、小児看護などにおけるエンド・オブ・ライフケアであり、また病棟・ホスピス・施設・在宅などのさまざまな生活環境からのエンド・オブ・ライフケアと広義にとらえて展開する。

授業内容には、1) 諸外国におけるエンド・オブ・ライフケア制度、ケアシステムの実態と研究の動向から分析したわが国の課題、2) エンド・オブ・ライフ患者と家族の生活環境のアセスメントとケア評価、3) エンド・オブ・ライフ患者と家族のDying Careと看取りケアにおける諸外国との比較、4) Total Painの測定尺度の開発と緩和ケアに対するエンド・オブ・ライフケア評価の日米比較、5) Death & Dying Care, Spiritual Care, Grief & Mourning careなどのケアリングに関与する諸要因、6) エンド・オブ・ライフ患者と家族のケア介入研究とケアシステムの開発、7) エンド・オブ・ライフ患者と家族のケアシステムとその評価方法などを含む。（オムニバス方式／全15回）

（島内節）

諸外国におけるエンド・オブ・ライフケア制度、ケアシステムの実態と研究の動向から分析したわが国の課題、エンド・オブ・ライフケア患者と家族の生活環境のアセスメントとケア評価

（小笠原知枝・加藤亜妃子）

エンド・オブ・ライフ患者と家族のケアシステムとその評価方法、エンド・オブ・ライフ患者と家族のDying Careと看取りケアにおける諸外国との比較、Total Painの測定尺度の開発と緩和ケアに対するエンド・オブ・ライフケア評価の日米比較、Death & Dying Care, Spiritual Care, Grief & Mourning careなどのケアリングに関与する諸要因

（小笠原知枝・島内節）

エンド・オブ・ライフ患者へのケア介入研究とケアシステム開発

（小笠原知枝・島内節・加藤亜妃子）

まとめ：エンド・オブ・ライフケア看護学特論Dで修得した内容と各自の研究課題に関連づけた討議とレポートの提出

留意事項

1. 授業に積極的参加を期待する。
2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。
3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。

教材

必要に応じてその都度、提示配布する。

参考図書				
1. 松木光子・小笠原知枝・久米弥寿子編（2006）「看護理論 理論と実践のリンケージ」ニューヴェルヒロカワ出版 2. 小笠原知枝・松木光子編（2012）これからの看護研究 基礎と応用 第3版、ニューヴェルヒロカワ出版 3. 小笠原知枝・久米弥寿子（2000）ターミナル期にあるがん患者の痛み管理とサポートケアを妨害する諸因子の抽出とその対策（日米比較研究を含む）平成9～11年度科学研究費補助金報告書 4. C. Ogasawara, Y. Kume and M. Andouh (2003) Family Satisfaction with Perception of and Barriers to Terminal Care in Japan, Oncology Nursing Forum 30(5) : E100-105. 5. 島内節、内田陽子（2014）「在宅におけるエンド・オブ・ライフケア実践書ー死を迎える人の人生の質・価値を高めるために」ミネルヴァ書房 6. 内田陽子、島内節編（2014）「施設におけるエンド・オブ・ライフケア実践書ー死を迎える人に人生の質・価値を高めるために」ミネルヴァ書房 7. 島内節、葉袋淳子（2008）「在宅エンド・オブ・ライフケア利用者アウトカムと専門職の実践力を高めるケアプログラムの応用」イニシア 8. 島内節、友安直子、内田陽子（2002）「在宅ケアアウトカム評価と質改善の方法」医学書院				
授業計画（15回）				
1 諸外国におけるエンド・オブ・ライフケア制度、ケアシステムの実態と研究の動向から分析したわが国の課題（島内節／1回） 2-3 エンド・オブ・ライフケア患者と家族の生活環境のアセスメントとケア評価（島内節・加藤亜妃子／2回） 4-5 エンド・オブ・ライフ患者と家族のDying Careと看取りケアにおける諸外国との比較（小笠原知枝／2回） 6-7 Total Painの測定尺度の開発と緩和ケアに対するエンド・オブ・ライフケア評価の日米比較（小笠原知枝・加藤亜妃子／2回） 8-9 Death & Dying Care, Spiritual Care, Grief & Mourning careなどのケアリングに関与する諸要因（小笠原知枝／2回） 10-11 エンド・オブ・ライフ患者へのケア介入研究とケアシステム開発（加藤亜妃子／2回） 12-14 エンド・オブ・ライフ患者と家族のケアシステムとその評価方法（島内節／3回） 15 まとめ エンド・オブ・ライフケア看護学特論Dで修得した内容と各自の研究課題に関連づけた討議とレポートの提出（小笠原知枝・島内節・加藤亜妃子／1回）				
評価基準				
1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30% A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. エンド・オブ・ライフケア看護学領域における主要な用語解を理解し、適切に定義することができる。				
2. エンド・オブ・ライフケアに関する看護理論の生成過程と、看護研究と実践との関連性について説明できる。				
3. アメリカにおけるエンド・オブ・ライフケアにおける緩和ケアの実践と評価方法を理解し、わが国での活用の可能性を検討できる。				
4. がん患者と家族のニーズと支援の実態および研究例を分析することができる				
5. 在宅エンド・オブ・ライフケアの評価指標の開発とケアシステムのモデル開発例を分析し、クリティークすることができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DD2201	エンド・オブ・ライフ ケア看護学演習D	1年/後期	2
担当教員		課程	
小笠原知枝 島内節 加藤亜妃子		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

本学の博士課程が目指す看護人材像（教育目的）は、グローバルな視点を持って学問的發展に貢献できる活動的創造的で自立した研究者と教育者の育成である。そのため、海外の終末期ケア学研究とがん看護学研究に基づく生成された理論・概念・モデルを探究する。さらに終末期におけるがん・非がんのあらゆる対象者の心身ニーズの対応、家族支援を含めた終末期患者のQOL・QODを高めるケアリングのための研究力、教育力に促す。

本演習Dでは、さまざま学問領域の研究成果を参考文献にして、ケアの質管理方法を明確にしながら、がん患者の緩和ケアのチームケアと効果評価方法、スピリチュアルケア、在宅エンド・オブ・ライフの経過時期別ニーズの変化とケアパス、介入研究とその評価方法、教育実践プログラムと有効性検証などについてシステムティック・レビューや概念分析を行う。また実践例でのケア展開と文献検討を行って、看護研究と実践との相互発展を促進する研究の進め方を理解し、自己の研究プロセス（テーマ設定・研究計画・研究実施・論文作成）に反映させる。

授業内容

本演習では、以下の内容を扱うものである。

1. システムティック・レビューと概念分析に関する基礎理解をする。

国内外のエンド・オブ・ライフケア研究の理論生成過程の分析や介入研究について、システムティック・レビューをして、クリティークと研究テーマの概念分析をするために、以下を理解するものとする。

2. がん患者の症状緩和ケア介入プログラムの開発と効果評価に関するシステムティック・レビューと概念分析
3. Total PainやQOD測定尺度開発に関するシステムティック・レビューと概念分析
4. エンド・オブ・ライフ患者とその家族のDying Careと看取ケアを効果的に行うためのエキスパートナースに対する教育介入プログラムの開発とその評価研究に関するシステムティック・レビューと概念分析
5. スピリチュアルケアの日米比較研究に関するシステムティック・レビューと概念分析
6. 在宅エンド・オブ・ライフの経過時期別ニーズの変化とケアパス開発とその有効性検証に関するシステムティック・レビューと概念分析（オムニバス方式／全30回）

（小笠原知枝／9回）

システムティック・レビューと概念分析に関する基礎的理解、Total Pain、QOL/QOD、EOLC、スピリチュアルケアなどの概念分析と測定尺度の開発、エンド・オブ・ライフケアの実践教育プログラムの開発とその有効性検証
（小笠原知枝・加藤亜妃子／11回）

がん患者の症状緩和ケア介入プログラムの開発とその効果評価方法、エンド・オブ・ライフケア看護における介入研究とその効果評価研究、エンド・オブ・ライフ患者とその家族のDying Careと看取ケアを効果的に行うためのエキスパートナースに対する教育介入プログラムの開発とその評価研究

（島内節・加藤亜妃子／8回）

がん患者の家族のグリーフケアと効果評価研究、在宅エンド・オブ・ライフの経過時期別ニーズの変化とケアパス開発によるケア評価方法

（小笠原知枝・島内節・加藤亜妃子／2回）共同

発表・討議・まとめ

留意事項

1. 授業に積極的参加を期待する。
2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。
3. 自己の実践力強化と研究計画に反映させる。

教材

必要に応じてその都度、提示配布する。

参考図書 1. 小笠原知枝・松木光子編（2012）「これからの看護研究 基礎と応用 第3版」ニューヴェルヒロカワ出版 2. 松木光子・小笠原知枝・久米弥寿子編（2006）「看護理論 理論と実践のリンケージ」ニューヴェルヒロカワ出版 3. 小笠原知枝・久米弥寿子編（2000）日本における末期乳がん患者の看護診断と看護介入：異なる入院目的による比較 Journal of Nursing Terminologies and Classification 16（3～4）：54～64 4. 島内節・内田陽子（2014）「在宅におけるエンド・オブ・ライフケア実践書ー死を迎える人の人生の質・価値を高めるために」ミネルヴァ書房 5. 内田陽子・島内節編（2014）「施設におけるエンド・オブ・ライフケア実践書ー死を迎える人生の質・価値を高めるために」ミネルヴァ書房 6. （参考図書）島内節・葉袋淳子（2008）「在宅エンド・オブ・ライフケア利用者アウトカムと専門職の実践力を高めるケアプログラムの応用」イニシア 7. （参考図書）島内節・友安直子・内田陽子（2002）「在宅ケアアウトカム評価と質改善の方法」医学書院				
授業計画（30回） 授業はオムニバス方式（一部共同）で講義・演習・討議形式によって展開する。 システマティック・レビューと概念分析について理解をした上で、下記のテーマに関連して、システマティック・レビューを行う。ケアシステムや効果評価研究を比較検討しながら進める。 1-2 システマティック・レビューと概念分析に関する基礎的理解（小笠原知枝／2回） 3-5 Total Pain・QOL・QODD、EOLC・スピリチュアルケアなどの概念分析と測定尺度の開発（小笠原知枝／3回） 6-9 がん患者の症状緩和ケア介入プログラムの開発とその効果評価方法（小笠原知枝・加藤亜妃子／4回） 10-13 エンド・オブ・ライフ患者とその家族のDying Careと看取ケアを効果的に行うためのエキスパートナースに対する教育介入プログラムの開発とその評価研究（小笠原知枝／4回） 14-16 がん患者の家族のグリーフケアと効果評価研究（加藤亜妃子／3回） 17-20 エンド・オブ・ライフケア看護における介入研究とその効果評価研究（小笠原知枝／4回） 21-24 在宅エンド・オブ・ライフの経過時期別ニーズの変化とケアパス開発によるケア評価方法（島内節／4回） 25-28 エンド・オブ・ライフケアの実践教育プログラムの開発とその有効性検証（小笠原知枝／4回） 29-30 まとめ：学生のレポート発表と討論「看護の開発的研究と実践の相互的發展を促す研究の進め方」（小笠原知枝・島内節・加藤亜妃子／2回）共同				
評価基準 1. 授業中の質疑・討議 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. 課題に関する資料作成と発表 30% A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. エンド・オブ・ライフケア看護学領域における主要な用語解を理解し、適切に定義することができる。				
2. がん患者の緩和ケアにおけるチームケアおよびその効果評価方法を理解し、具体的な活用を検討できる。				
3. グリーフケア研究事例について分析し、ケア効果を評価し課題について検討できる。				
4. 在宅エンド・オブ・ライフの経過時期別ニーズの変化とケアパス開発によるケア評価方法について、事例を分析し検討できる。				
5. エンド・オブ・ライフケアの実践教育プログラムの開発過程を理解し、とその有効性検証の方法について検討できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DD4101	高齢者看護学特論D	1 年/前期	2
担当教員		課 程	
安藤純子 臼井キミカ		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

高齢者の諸外国の制度、サービスシステムとサービスの実態の比較と研究動向の分析からわが国の課題の分析を行い、高齢者に発生しやすいニーズのうちで共通性が高く重要な課題を取りあげて、ケアの質管理をしながら、ケアの展開方法とケアの評価方法を学修する。これらの中で各自の研究課題の設定と進め方の工夫点に触れ、各自の実践力を高め、研究の進行に反映できるようにする。

授業内容

高齢者の国際研究動向を参考にしながら、高齢者の健康レベルと生活自立度を軸にして、実践力と研究力の両側面から高められることを目指して以下の内容について展開する。 高齢者の諸外国の制度、サービスシステムとサービスの実態の比較と研究動向の分析からわが国の課題の分析を行い、高齢者に発生しやすいニーズのうちで共通性が高く重要な課題を取りあげて、ケアの質管理をしながら、ケアの展開方法とケアの評価方法を学修する。これらの中で各自の研究課題の設定と進め方の工夫点に触れ、各自の実践力を高め、研究の進行に反映できるようにする。

留意事項

学生には積極的に質疑・討論に参加することを期待する。授業の課題について事前に情報収集をする。授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させる。

教材

各教員により適宜提示。

授業計画 (15 回)

- 1-3 高齢者の諸外国の制度、サービスシステムとサービスの実態と研究動向の分析からわが国の課題を分析 (安藤純子／3 回)
- 4 現場と研究における高齢者ケアのアドボカシーと看護を中心として国内外の文献検討 (臼井キミカ／1 回)
- 5-6 在宅高齢者の軽度要介護者の基本的日常生活行動低下予防の要因と既開発プログラムによる介入方法と評価方法 (安藤純子／2 回)
- 7-8 高齢者の日常生活行動と家事、セルフケア能力に対する家族によるサポート強化の支援と方法 (安藤純子／2 回)
- 9-11 高齢者の入院中のクリティカルパスと地域連携パスの使用方法和アウトカム評価方法(高齢者世帯の服薬管理支援方法、生活リスク予防の研究エビデンスに基づく支援方法のプログラム検討) (安藤純子／3 回)
- 12-13 認知症高齢者の身体症状発症の予徴と予防、予徴と予防、及び早期対応方法 (臼井キミカ／2 回)
- 14 高齢者の終末期における他年齢者との条件の相違によるニーズとケアの工夫点 (安藤純子／1 回)
- 15 高齢者夫婦世帯の死別と家族のグリーフケアニーズの特徴とケア計画、および評価方法 (安藤純子／1 回)

評価基準				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 高齢者の諸外国の制度、サービスシステムとサービスの実態の比較と研究動向の分析からわが国の課題が論理的に説明できる				
2. 高齢者ケアの自立支援の理念、日常生活行動低下予防、高齢者の家族サポートが論理的に説明できる				
3. 高齢者の入院中のクリティカルパスと地域との連携パスの使用方法和アウトカム評価方法が論理的に説明できる				
4. 高齢者の終末期におけるニーズとケアの特徴が論理的に説明できる				
5. 学生の自己研究課題の明確化ができる				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DD4201	高齢者看護学演習D	1年/通年	2
担当教員		課程	
安藤純子 臼井キミカ		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

高齢者看護では環境の変化への適応困難などに伴う心身・社会的ニーズの複雑多様化に対する看護の特徴と看護展開方法の工夫が必要である。看護職者は、高齢者に対して直接ケア、ケアの調整統合、ケアの組織化・チームケアなどを行いながら常にケアの質管理が求められる。これらに対応できるケアの内容方法、そこでの看護職者の機能を含めたケアの評価方法、リーダーシップ機能の取り方について学修する。

授業内容

グローバルな視点で、先進諸国がかかえる高齢者課題とわが国の特徴を考察して、現在と将来予測の時間軸を考慮しながら、フィールドワークを含めて展開する。高齢者に発生しやすい特徴的な高齢者のケアを受ける場の移動によるケアの注目点、環境の変化への適応困難などに伴う心身・社会的ニーズの複雑多様化に対する看護の特徴と看護展開方法の工夫が必要である。看護職者は、高齢者に対して直接ケア、ケアの調整統合、ケアの組織化・チームケアなどを行いながら常にケアの質管理が求められる。これらに対応できるケアの内容方法、そこでの看護職者の機能を含めたケアの評価方法、リーダーシップ機能の取り方について学修する。

(オムニバス方式／全30回)

留意事項

学生には積極的に質疑・討論に参加することを期待する授業の課題について事前に情報収集をする授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させる

教材

各教員により適宜提示

授業計画 (30回)

- 1-3 高齢者のケアシステムにおけるケアの場の移動（入院・退院、入所、在宅ケア開始）に伴うニーズの特徴と移動計画および連携方法（退院・在宅ケア開始支援）について、国内外の文献検討を行い、わが国の課題を明らかにする（フィールドワークを含む）
- 7-11 高齢者に発生しやすい症状についてエビデンスからの予防とケア計画・ケア実施とアウトカム評価方法（リーダーシップの取り方を含む）
 - 1) 身体症状（呼吸、循環、排泄、栄養、浮腫、疼痛など）
疾患別特徴（がん、血管系疾患、高血圧・糖尿病等の慢性疾患）
 - 12-13 2) 精神機能と精神症状
コミュニケーションと対人関係、記憶低下、不安、うつなど（臼井キミカ/10回）
- 4-6 高齢者において発生しやすい社会的条件・環境的条件による健康と関連する生活問題への看護（関係機関との調整による支援：経済問題、ソーシャルネットワーク、孤立と孤独、高齢者世帯と老老介護、独居世帯、災害時など）について、国内外の文献検討を行い、わが国の課題を明らかにする
- 14-16 高齢者のリスク要因（老化に伴う健康と生活の悪化の潜在的・顕在的問題：転倒、感染、家事関連、自殺念慮など）への予測と予防および発生時のケア：看護職者と他職種とのチームケアと連携、市民との協働方法
- 17-18 高齢者ケアにおける本人と家族の満足度に注目したケア
- 19-22 在宅高齢者に発生しやすい疾病の急性期状態の発生予測・予防・急性期症状への看護
- 23-25 高齢者の終末期におけるケアの場による看護の特徴と看護ケア

26-28	高齢者のケアの質管理のためのケア体制について看護職としての改善への提案（在宅・施設・病院・グループホーム）	（安藤純子/18回）
29-30	まとめ 学生のレポート発表と討論 「既存の研究と実践の相互関係の発展を目指した進め方」	（安藤純子、臼井キミカ/2回）

評価基準				
1) 授業中の質疑・討論 40% 2) 情報収集と分析 30% 3) まとめのレポートと発表討論 30%				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 国内外における高齢者のケアシステムの違いから、わが国の特徴と課題が理解できる				
2. 高齢者ケアの場の移動に伴うニーズの特徴と移動計画および連携方法の理解と活用ができる				
3. 高齢者において発生しやすい社会的条件・環境的条件による健康問題への看護について理解と活用ができる				
4. 高齢者に発生しやすい症状についてエビデンスからの予防と介入を含む評価方法と活用ができる				
5. 高齢者のリスク要因と老化に伴う健康と生活の悪化の潜在的・顕在的問題と看護および連携・チームケアについて理解と活用ができる				
6. 高齢者ケアにおける本人と家族の満足度とケア実施について理解と活用がわかる				
7. 既存の研究と実践の相互関係的発展を目指すことができる				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DD9101	成人・高齢者看護学特別研究D I	1年/通年	2
担当教員		課程	
柴山健三 小笠原知枝 島内節 臼井キミカ 安藤純子		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

特別研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの目的は自立した研究者として、実践科学である看護学の学問的発展に貢献できる創造的・活動的な研究ができる能力を身につけることである。そのために、特別研究DⅠでは、新規性と独創性のある新たな科学的知見を見出すことを目指した研究計画書を作成することを目的とする。

成人・高齢者看護学分野は、クリティカルケア看護学領域、エンド・オブ・ライフケア看護学領域、高齢者看護学領域を統合した分野であり、研究の対象は、重篤・侵襲的治療の場にいる人とその家族、多様な健康問題を持った高齢者とその家族、および家族を含む終末期患者に焦点を置いており、研究では、各領域の看護ケアの質保証とケアプログラム開発やケアシステムなどの改善・改革を効果的に進める研究に取り組む。研究デザインは、研究と実践の相互関係的発展を促進させる介入研究やアウトカム評価による効果検証を含めた研究である。そのためにこの科目では、必要な研究テーマ、目的、研究方法などを選択・検討する。その目的のために、各領域の看護学特論D・演習Dや他の科目の内容を十分に活用し、諸外国の制度・システムとの比較検討、ケアの質管理、介入研究や教育介入研究、ケアのシステムに関する文献等に注目して各自の研究計画書を作成する。さらに、研究倫理審査委員会への提出を目指す。

授業内容

本授業内容は、成人・高齢者看護学分野における看護ケアの質保証とケアプログラム開発に基づくケアシステムなどの改善・改革を効果的にすすめられるような研究であり、研究と実践の相互関係的発展を促進させる介入研究や、アウトカム評価による効果検証を含めた研究であることに焦点をおいている。そのために各担当教員が指導できる研究テーマとの関連から、研究プロセスについて確認を行ったうえで、さらなるシステムティック・レビューと概念分析等を最新の情報収集を行い、精度を高めたうえで、各自の研究テーマを設定し、研究目的、研究方法などを検討して研究計画書を作成する。

各担当教員が指導可能な研究テーマは以下のとおりである。

(柴山健三)

成人急性・重篤期における主として実験・介入研究の指導を担当する。研究テーマは①神経系酵素の活性化機序と関連因子に関する研究、②集中治療室における各種ケア技術の有効性に関する研究、③集中治療室入室患者及び勤務看護師のストレスに関する研究、④急性期患者のQOLの測定とその変化に関する縦断研究など。

(小笠原知枝)

エンド・オブ・ライフケア領域における患者および家族、看護師（中堅看護師、エキスパートナース）への介入研究やシステム開発研究を担当する。指導可能な研究テーマは ①がん患者の痛みの測定尺度開発、②ターミナル期における疼痛管理妨害因子の分析とスタッフ教育、③エンド・オブ・ライフ・ケアの国際比較研究、④がん患者とその家族の不安・苦痛の分析と防御規制・スピリチュアルケア、⑤がん患者の自己決定支援プロセスに関する研究、⑥看護師の感情労働測定尺度の開発などである。

(島内節)

ターミナル期における質の評価研究やシステム開発研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅要介護高齢者の終末期ケアにおける緊急的ニーズの分析、②遺族による在宅ターミナルケアの質評価、③地域在住の軽度要介護高齢者の自立促進プログラムとその評価、④終末期高齢者の入所・死亡に関連する要因分析などである。

(臼井キミカ)

主として量的研究による要因分析や準実験（介入）研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①重度認知症高齢者の日常生活支援技術の開発と研修プログラム、②セルフネグレクト予防のための地域見守り基

準の策定、③軽度認知症高齢者のその人らしさを支える各種活動と効果判定、④養護者による高齢者虐待の要因分析と各種サービスの課題分析、⑤施設職員による高齢者虐待の防止に関する介入研究などである。 (安藤純子) 地域高齢者や施設入所高齢者に対する転倒要因分析研究において量的相関研究と、質的研究では内容分析を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅高齢者の転倒要因分析（特に転倒意識との関連）、②介護老人保健施設における高齢者の転倒実態と要因分析、③高齢者のソフト食に関する研究、④サクセスエイジングに関連する各種アクティビティケアとその効果判定に関する研究などを担当する。				
留意事項				
1. 国内外の科学文献などから情報収集と分析、論理的な文章化が求められる。 2. レポートなどの提出物は決められた期日ごとに提出する。 3. 授業への出席率と研究への主体的・積極的な取り組み、行動力が求められる。				
教材				
1. 学生は自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。 2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。				
授業計画 (30 回)				
1-10 本科目の目的に関連する研究例や講義と討議 11-13 自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・研究の新規性・独創性・社会的価値・研究倫理を検討し、研究テーマと目的を決定 14-16 研究デザインの選択と研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討し決定 17-19 研究目的を達成するために実行可能なデータ収集法とデータ分析法を検討し決定 20-21 研究プロセスにおいて研究の精度を保つ質管理方法を検討。 22-25 研究科委員会が開催する学生と教員の参加による「論文の発表会」において適切な準備の上で発表・討議 26-30 発表した研究計画の評価に基づいて修正し、研究計画書を完成				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 学術誌での原著論文の水準を確認できる				
2. 研究テーマと目的について社会的ニーズの分析・研究の新規性・独創性・社会的価値・研究倫理を検討し、研究テーマと目的を決定できる				
3. 適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる				
4. 研究データ収集方法の具体化とデータ分析法を決定できる				
5. 研究プロセスにおける質管理方法を理解し活用できる				
6. 「研究計画発表会」に適切な準備の上で発表し、評価が受けられる				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DD9201	成人・高齢者看護学特別研究Ⅱ	2年/通年	2
担当教員		課程	
柴山健三 小笠原知枝 島内節 臼井キミカ 安藤純子		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

特別研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの目的は自立した研究者として実践科学としての看護学の学問的発展に貢献できる創造的・活動的な研究ができる能力を身につけることである。そのために、特別研究Ⅱでは、特別研究Ⅰで作成した研究計画に沿って適切に研究を進め、新規性・独創性のある論文を作成し、学術誌に投稿することを目指す。

授業内容

本特別研究Ⅱでは、特別研究Ⅰで挙げた研究テーマ例との関連で、各自の問題意識を加えて設定した研究計画に沿って研究目的を達成するために適切に研究を進め、新規性・独創性のある原著論文を作成し、学術誌に副論文として投稿するまでのプロセスを含む。成人・高齢者看護学分野の対象である患者と家族、看護を提供する専門職等に対しては、特に選択と意思決定および倫理的調整がケアの重要な要件となるため、データ収集においては承諾とデータの精度を確保する方法に留意して行う必要がある。次に、さらに適切なデータ分析を行い、精度の高い結果を導き、その解釈の妥当性を検討し、十分な文献検討により考察と結論を導く。論文の全体的な計画を実行しながら論文を完成させ学術誌に投稿する。なお、各担当教員が指導可能な研究テーマは、特別研究Ⅰに示したとおりであり、学生が選択したテーマにマッチした教員が指導を担当する。

各担当教員が指導可能な研究テーマは以下のとおりである。

(柴山健三)

成人急性・重篤期における主として実験・介入研究の指導を担当する。研究テーマは①神経系酵素の活性化機序と関連因子に関する研究、②集中治療室における各種ケア技術の有効性に関する研究、③集中治療室入室患者及び勤務看護師のストレスに関する研究、④急性期患者の QOL の測定とその変化に関する縦断研究など。

(小笠原知枝)

エンド・オブ・ライフケア領域における患者および家族、看護師（中堅看護師、エキスパートナース）への介入研究やシステム開発研究を担当する。指導可能な研究テーマは ①がん患者の痛みの測定尺度開発、②ターミナル期における疼痛管理妨害因子の分析とスタッフ教育、③エンド・オブ・ライフ・ケアの国際比較研究、④がん患者とその家族の不安・苦痛の分析と防御規制・スピリチュアルケア、⑤がん患者の自己決定支援プロセスに関する研究、⑥看護師の感情労働測定尺度の開発などである。

(島内節)

ターミナル期における質の評価研究やシステム開発研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅要介護高齢者の終末期ケアにおける緊急的ニーズの分析、②遺族による在宅ターミナルケアの質評価、③地域在住の軽度要介護高齢者の自立促進プログラムとその評価、④終末期高齢者の入所・死亡に関連する要因分析などである。

(臼井キミカ)

主として量的研究による要因分析や準実験（介入）研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①重度認知症高齢者の日常生活支援技術の開発と研修プログラム、②セルフネグレクト予防のための地域見守り基準の策定、③軽度認知症高齢者のその人らしさを支える各種活動と効果判定、④養護者による高齢者虐待の要因分析と各種サービスの課題分析、⑤施設職員による高齢者虐待の防止に関する介入研究などである。

(安藤純子)

地域高齢者や施設入所高齢者に対する転倒要因分析研究において量的相関研究と、質的研究では内容分析を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅高齢者の転倒要因分析（特に転倒意識との関連）、②介護老

人保健施設における高齢者の転倒実態と要因分析、③高齢者のソフト食に関する研究、④サクセスエイジングに関連する各種アクティビティケアとその効果判定に関する研究などを担当する。				
留意事項				
1. 科学文献などから情報収集と分析、論理的な文章化が求められる。 2. レポートなどの提出物は期日ごとに提出する。 3. 研究への主体的・積極的な取り組み、行動力が求められる。				
教材				
1. 学生は自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。 2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。				
授業計画 (30 回)				
特別研究 I で作成した研究計画書に添って研究を遂行する。				
1-3 特別研究 I の研究計画について、研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究の実施準備				
4-14 研究の精度を保つ方法でデータを収集				
15-18 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果について信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化				
19-22 研究結果に基づいて、副論文について適切な考察と結論を導き論理的にまとめる				
23-24 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討				
25-26 学生と教員参加による「論文発表会」において適切な準備の上で発表・討論				
27-28 「論文発表会」の評価に基づいて論文の修正				
29-30 論文に関連する内容で論文を学術誌に投稿				
評価基準				
科目の到達目標の到達度から評価する。				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 研究計画に沿って精度を保つ方法でデータが収集できる。				
2. 適切なデータ分析方法によって分析ができる。				
3. 分析結果に基づいて考察と結論を適切に導くことができる。				
4. 研究目的から結論まで論旨一貫性を検討確認できる。				
5. 「論文発表会」で発表し、質疑に適切に対応できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DD9301	成人・高齢者看護学特別研究ⅡⅢ	3年/通年	2
担当教員		課程	
柴山健三 小笠原知枝 島内節 臼井キミカ 安藤純子		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

特別研究ⅡⅠ、Ⅱ、Ⅲの目的は自立した研究者として実践科学としての看護学の学問的発展に貢献できる創造的・活動的な研究ができる能力を身につけることである。そのために、特別研究ⅡⅡでは、ⅡⅠで作成した研究計画に沿って、適切に研究を進め、新規性・独創性のある原著論文を作成し、学術誌に論文として投稿した。特別研究ⅡⅢの目的は、独創性があり新規的・先駆的な論文を完成させることである。

授業内容

特別研究ⅡⅢでは、ⅡⅠとⅡⅡに引き続き、博士論文としてまとめるプロセスを踏む。その過程において、成人・高齢者看護学領域におけるケアの質保証をめざしていること、その研究は、新規性・独創性があること、ケアの現場に利用価値があること、研究と実践との相互関係的な発展を促すものであることを確認しながら進める。研究成果は適切な時期に、国内および国際学会で発表できるようにする。具体的には、特別研究ⅡⅢでは、特別研究ⅡⅠとⅡⅡの研究経過に基づいて、研究結果を見直し、適切な考察と結論を導きまとめる。研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討、授業計画に示す研究プロセスを経て原著論文を完成させる。

各担当教員が指導可能な研究テーマは以下のとおりである。

(柴山健三)

成人急性・重篤期における主として実験・介入研究の指導を担当する。研究テーマは①神経系酵素の活性化機序と関連因子に関する研究、②集中治療室における各種ケア技術の有効性に関する研究、③集中治療室入室患者及び勤務看護師のストレスに関する研究、④急性期患者の QOL の測定とその変化に関する縦断研究など。

(小笠原知枝)

エンド・オブ・ライフケア領域における患者および家族、看護師（中堅看護師、エキスパートナース）への介入研究やシステム開発研究を担当する。指導可能な研究テーマは ①がん患者の痛みの測定尺度開発、②ターミナル期における疼痛管理妨害因子の分析とスタッフ教育、③エンド・オブ・ライフ・ケアの国際比較研究、④がん患者とその家族の不安・苦痛の分析と防御規制・スピリチュアルケア、⑤がん患者の自己決定支援プロセスに関する研究、⑥看護師の感情労働測定尺度の開発などである。

(島内節)

ターミナル期における質の評価研究やシステム開発研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅要介護高齢者の終末期ケアにおける緊急的ニーズの分析、②遺族による在宅ターミナルケアの質評価、③地域在住の軽度要介護高齢者の自立促進プログラムとその評価、④終末期高齢者の入所・死亡に関連する要因分析などである。

(臼井キミカ)

主として量的研究による要因分析や準実験（介入）研究を担当する。指導可能な研究テーマは、①重度認知症高齢者の日常生活支援技術の開発と研修プログラム、②セルフネグレクト予防のための地域見守り基準の策定、③軽度認知症高齢者のその人らしさを支える各種活動と効果判定、④養護者による高齢者虐待の要因分析と各種サービスの課題分析、⑤施設職員による高齢者虐待の防止に関する介入研究などである。

(安藤純子)

地域高齢者や施設入所高齢者に対する転倒要因分析研究において量的相関研究と、質的研究では内容分析を担当する。指導可能な研究テーマは、①在宅高齢者の転倒要因分析（特に転倒意識との関連）、②介護老人保健施設における高齢者の転倒実態と要因分析、③高齢者のソフト食に関する研究、④サクセスエイジングに関連する各種アクティビティケアとその効果判定に関する研究などを担当する。

留意事項				
1. 成人・高齢者看護学分野の各領域の国際研究動向に位置づけて研究する。 2. 論文作成では論旨の一貫性に特に留意する。 3. 期日までに論文を完成させる。				
教材				
1. 学生は自己の研究課題に関連した参考文献は自身で検索する。 2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。				
授業計画 (30 回)				
グループと個人に対して講義・演習・討論形式で授業展開する。 1-5 特別研究Ⅱの研究経過に基づいてさらに研究結果を見直し、適切な考察と結論を記述 6-10 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討 11-15 研究科委員会が開催する学生と教員参加による「博士（看護学）学位論文中間発表会 2 回」において適切な準備の上で発表・討論 16-20 発表した論文の評価に基づいて修正 21-24 「博士（看護学）学位論文最終発表会」において発表・討論 25-30 評価に基づいて論文の修正を行い、論文を提出				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価する。 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 成人・看護学分野・各領域の看護学の国際研究動向に位置づけて研究する。				
2. 研究計画に基づいて適切なデータ分析方法によって分析できる。				
3. 分析結果に基づいて、考察と結論を適切に導くことができる。				
4. 研究目的から結論まで論旨の一貫性を検討確認できる。				
5. 論文の最終発表会で発表し、質疑に適切に対応できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DE0101	在宅看護学特論D	1 年/前期	2
担当教員		課 程	
島内節 石井英子 内田陽子		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

在宅ケアにおける諸外国制度、サービスシステム。看護を中心とした在宅ケア活動、国際研究の動向を分析し、わが国の課題について検討する。在宅ケア看護における質向上と量的拡大をめざして研究と実践の相互関係の発展を促進させるための研究について論じる。実践に活用できるエビデンスの作り方、ケア実施方法の評価、実践からのアウトカム測定法、ケアマネジメント評価法、ケアシステム評価法を検討し、自己研究に反映できるようにする。

授業内容

在宅ケア看護活動と研究において必要とされる国内外の制度、サービスシステム、研究動向の概要を理解し、わが国の課題を分析する。評価方法を中心に、それらの改善・改革のために実践例から実践のエビデンスを分析し、ニーズ分析・ケア実施評価法・アウトカム測定法・ケアマネジメント評価法・ケアシステム評価法に関してバリエーション分析等を含める。また費用対効果分析法を実践例について探究する。最後に「在宅ケア評価研究について学生の内容学修度と課題」についてレポート発表と討論によってまとめる。

(オムニバス方式／全 15 回)

1. 在宅ケアにおける諸外国の制度、サービス提供システムの現状を理解し、サービス利用者ニーズとサービス提供に関する研究動向を分析し、わが国における研究と実践課題の明確化

複雑で困難度が高い 実践事例のニーズ分析とケア計画および方法

(島内節／6 回)

2. 在宅ケア看護実践が利用者にとってのケアの質に影響するケア提供側の要因

(石井英子／1 回)

3. 在宅ケア看護の実施度とそれに影響する要因と改善課題

(島内節／1 回)

4. 在宅ケアにおける利用者アウトカム測定法とアウトカムに影響する要因（バリエーション分析を含む）と改善課題

(島内節／3 回)

5. 在宅ケアマネジメントの評価と改善課題

(島内節／1 回)

6. 在宅ケアのシステムに関する評価方法と改善・改革の課題

(島内節・石井英子／1 回) 共同

7. 在宅ケアにおける費用対効果分析法と改善課題

(内田陽子／2 回)

8. まとめ。在宅ケア評価研究について学生の内容学修度と課題についてレポート発表と討論

(島内節／1 回)

留意事項

1. 授業に積極的参加を期待する。
2. 授業の課題について事前に情報収集をする。
3. 授業の中で自己の研究計画と実践力強化に反映させる。

教材

各教員により適宜使用

授業計画 (15 回)

1-5 在宅ケアにおける諸外国の制度、サービス提供システムの現状を理解し、サービス利用者ニ

ーズとサービス提供に関する研究動向を分析し、わが国における研究と実践課題の明確化 複雑で困難度が高い 実践事例のニーズ分析とケア計画および方法 (島内節／5回) 6 在宅ケア看護実践が利用者にとってのケアの質に影響するケア提供側の要因 (石井英子／1回) 7 在宅ケア看護の実施度とそれに影響する要因と改善課題 (島内節／1回) 8-10 在宅ケアにおける利用者アウトカム測定法とアウトカムに影響する要因(バリエーション分析を含む)と改善課題 (島内節／3回) 11 在宅ケアマネジメントの評価と改善課題 (島内節／1回) 12 在宅ケアのシステムに関する評価方法と改善・改革の課題 (島内節・石井英子／1回) 共同 13-14 在宅ケアにおける費用対効果分析法と改善課題 (内田陽子／2回) 15 まとめ。在宅ケア評価研究について学生の内容学修度と課題についてレポート発表と討論 (島内節／1回)				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 在宅ケアにおける諸外国の制度、サービスシステムの理解と自己研究に関連する文献により研究動向を整理し活用について説明できる。				
2. 在宅ケアの困難度が高い事例のニーズ分析とケア計画が立てられる。				
3. 在宅ケアのアウトカム測定法が活用できる。				
4. 在宅ケアのアウトカムに影響する要因分析方法を説明できる。				
5. ケアマネジメントの評価方法が活用できる。				
6. ケアシステムの評価方法が活用できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DE0201	在宅看護学演習D	1年/通年	2
担当教員		課程	
島内節 山本純子 内田陽子 葉袋淳子 成順月		博士後期課程	
授業計画詳細			
授業目的			
在宅ケアの対象者への健康問題と生活と障がいの対象特性に応じて予防・改善・解決のための国内外の研究動向と研究法を把握する。エビデンスの信頼性妥当性検証に基づくケアの質保証のためにケアプログラム・ケアシステムの開発計画と研究プロセスを理解し研究と看護現場の相互関係的發展を可能にする研究の進め方を修得する。			
授業内容			
看護研究と実践の相互関係的發展のために、在宅ケア対象群別に研究のさまざまな要素と方法を含む研究例を用いて展開する。その内容は、介入研究、アウトカム評価法、開発プログラムの実用化検証と普及方法である。具体的な在宅ケア対象者群別の数種の介入研究によるケアプログラム開発、(ソフト開発を含む)、システム開発について論理的に理解し、学生の自己研究計画へのヒントとして活用できるようにする。最後に「介入研究によるケアプログラム開発研究と実践の相互関係的發展をめざす数種の研究について自己研究への活用方法」についてレポート発表と討論によりまとめる。			
留意事項			
1. 授業に積極的参加を期待する。 2. 授業の課題について事前に情報収集・分析をする。 3. 授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させる。			
教材			
各教員により研究論文を中心に適宜使用。			
授業計画 (30回)			
1-4 諸外国の対象群別の国際研究の動向とわが国の課題(高齢自立低下、認知症、尿失禁、終末期事例など)に応じた在宅ケア制度、サービスシステムと展開方法の理解およびわが国の改善課題の検討 (島内節/4回)			
3 高齢者の日常行動機能低下予防へのRCTを用いた介入研究とケア実施によるケアプログラム(ソフト)開発研究と実用化検証及び普及方法			
4 同上(プログラム(ソフト)使用とその効果評価についての討論を含む)			
5 同上(同上) (島内節/2回・葉袋淳子/4回・成順月/2回)			
6 認知症者の転倒予防。心身悪化予防の介入研究とケア実施によるケアプログラム開発研究と実用化検証および普及方法			
7 同上(プログラム使用とその効果評価についての討論を含む)			
8 同上(同上) (島内節/3回・内田陽子/3回)			
9 尿失禁予防とケアの介入研究とケア実施プログラム開発研究と実用化検証および普及方法			
10 同上(プログラム使用とその効果評価についての討論を含む) (島内節/2回・内田陽子/2回)			
11 在宅終末期ケア実施事例のエビデンスに基づくケアプログラムとケアシステムの開発研究と実用化検証および普及方法 (島内節/2回)			
12 同上(プログラム使用とその効果評価についての討論を含む) (島内節/2回)			
13 在宅ケアの質保証のための費用対効果分析と活用法 (島内節/1回)			
14 在宅ケアにおける国際共同比較研究の進め方と結果の活用方法 (島内節/1回)			
15 まとめ			

学生のレポート発表と討論：「介入研究によるケアプログラム開発研究と実践の相互関係的發展をめざす数種の研究内容について自己研究への活用方法」

(島内節・福田由紀子・山本純子・薬袋淳子・内田陽子・成順月／2回)

評価基準

1. 授業中の質疑・討論 40% 2. 情報収集と分析 30% 3. まとめのレポートと発表討論 30%

A (100～80 点)：到達目標に達している (Very Good)

B (79～70 点)：到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60 点)：到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満)：到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標

A B C D

1. 在宅ケアの対象群別ケアの研究動向を分析しケアと研究に活用できる。

2. 高齢者の日常行動機能低下の予防・悪化防止・機能向上のプログラム開発過程を理解し活用ができる。

3. 認知症者の転倒予防、心身健康悪化予防のプログラムの開発方法を理解し活用ができる。

4. 尿失禁予防・悪化部分のプログラムの開発方法を理解し現物への活用ができる。

5. 在宅終末期の経過時期に合わせたケアプログラム開発方法を理解し活用できる。

6. 在宅ケアにおける費用支払効果分析法を理解し、結果をケアの質保証の方法と管理運営の方法に活用できる。

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DE2101	地域看護学特論 D	1 年/前期	2
担当教員		課程	
三徳和子 西川まり子		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

地域で生活する人々の健康水準の向上をめざして、地域看護の実践と研究の相互関係的な進め方を講義と討論を中心として展開する。そこでエビデンスに基づいて地域看護活動の方向性と地域看護活動課題を見出す。地域の人々が保健行動を改善し、定着化できる力量を身につけていくことをめざす。そのために、自立して地区踏査、行政データの分析、調査等を通じて、地域の健康課題と、健康に関連する諸要因を明らかにし、課題解決に向けて行政と住民と各種組織・団体がチームで取り組むために、具体的な行動に移せる計画を住民や関係者と立案し、実行し、評価し、次の活動に生かす行動がとれるようになることをねらいとする。

授業内容

地域の人々の健康を守るために、地区診断の理論や、健康支援の理論、健康行動変容のための理論を応用して、地域看護活動の対象である集団と個（母子、成人、高齢者、難病、感染症、災害弱者など）を対象に焦点化して、現在の看護活動の改善と改革的提案を行い住民や各種関係機関の人々との共同計画によって取り組みの方法と評価指標を用いて実施できるようにする。また、諸外国の活動と我が国の活動を比較することで、今後の日本における活動の課題や展望を考察する。

（オムニバス方式/15 回）

（三徳和子/7 回）地域看護活動における諸外国の制度、サービス提供システム、住民の健康課題別地域看護活動の動向を分析し、我が国における研究と実践課題の明確化する。地域看護活動の対象者別（高齢者・スラム生活者）に健康水準について先行研究をクリティークし、因果関係・健康阻害要因に関するデータ分析、健康課題をレビューする。地域看護活動の実践事例から住民の健康水準の変化を地域的、経年的、季節的、時間的変化について、データの偏りを排除した解析を用いて、信頼性と妥当性のある研究的評価を行い、実態を明らかにする。

実践例を用いて保健事業活動の展開を阻害する要因（課題）を明確にし、改善方法を見出す。健康課題に対する地域看護活動の方向性と地域の社会資源（関係機関、関係職種）を活用した個と集団のサービスプログラムと保健医療福祉サービス圏域におけるサービスシステムのあり方を検討し開発する。

（三徳和子/6 回）地域看護活動の対象者別（母子、成人、難病、感染症・災害弱者）に健康水準について先行研究をクリティークし、因果関係・健康阻害要因に関するデータ分析、健康課題をレビューする。住民の健康水準の経年的変化と地域看護活動の実践について人、物、金の側面から新たな改善方法を検討する。

健康課題の解決のための方向性を住民・地域組織、地域の専門職などの人々と共有する。

そのために住民や関係者に対して根拠のある健康情報を開示し、住民とともにあるべき方向を探るための計画の在り方を考察する。

（三徳和子・西川まり子/1 回）（共同）明らかになった健康実態把握に対し、健康問題解決のための方法論としてインタビューなどの質的研究及び社会的、易学的な量的研究を行い、健康に影響する要因、様因の因果関係や関連、健康阻害要因を明らかにする。

（三徳和子/1 回）地域の人々の健康水準評価と地域看護活動展開の評価研究について、学生の内容学修度と課題についてレポート発表と討論でまとめを行う。

留意事項

授業に①積極的に参加すること、②授業の課題について事前に情報収集・分析しておくこと、③授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させること。

教材

資料（書名、必要な文献など）は、その都度紹介する。

授業計画（15 回）

1-2. 地域看護活動における諸外国の制度、サービス提供システム、住民の健康課題別地域看護活動の動向を分析し、我が国における研究と実践課題の明確化する。（三徳和子/2 回）

- 3-4. 地域看護活動の対象者別（高齢者・スラム生活者）に健康水準について先行研究をクリティークし、因果関係・健康阻害要因に関するデータ分析、健康課題をレビューする。（三徳和子/2回）
- 5-6. 地域看護活動の実践事例から住民の健康水準の変化を地域的、経年的、季節的、時間的变化について、データの偏りを排除した解析を用いて、信頼性と妥当性のある研究的評価を行い、実態を明らかにする。（三徳和子/2回）
7. 実践例を用いて保健事業活動の展開を阻害する要因（課題）を明確にし、改善方法を見出す。
健康課題に対する地域看護活動の方向性と地域の社会資源（関係機関、関係職種）を活用した個と集団のサービスプログラムと保健医療福祉サービス圏域におけるサービスシステムのあり方を検討し開発する。（三徳和子/1回）
- 8-10. 地域看護活動の対象者別（母子、成人、難病、感染症・災害弱者）に健康水準について先行研究をクリティークし、因果関係・健康阻害要因に関するデータ分析、健康課題をレビューする。（三徳和子/2回）
- 11-12. 住民の健康水準の経年的変化と地域看護活動の実践について人、物、金の側面から新たな改善方法を検討する。（三徳和子/2回）
13. 健康課題の解決のための方向性を住民・地域組織、地域の専門職などの人々と共有する。そのために住民や関係者に対して根拠のある健康情報を開示し、住民とともにあるべき方向を探るための計画の在り方を考察する。（三徳和子/1回）
14. 明らかになった健康実態把握に対し、健康問題解決のための方法論としてインタビューなどの質的研究及び社会的、疫学的な量的研究を行い、健康に影響する要因、要因の因果関係や関連、健康阻害要因を明らかにする。（三徳和子・西川まり子/1回）（共同）
15. 地域の人々の健康水準評価と地域看護活動展開の評価研究について、学生の内容学修度と課題についてレポート発表と討論でまとめを行う。（三徳和子/1回）

評価方法

1. 授業中の発表・質疑・討論 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. レポート 30%

A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)

B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)

C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)

D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
地域の人々の健康を守るための地区診断の理論や、健康支援の理論、健康行動変容のための理論を理解し応用できる。				
地域看護活動の対象である集団と個（母子、成人、高齢者、難病、感染症、災害弱者など）を対象に焦点化して健康課題の抽出が出来る。				
健康課題に沿って、現在の看護活動の改善と改革的提案を行うことが出来る。				
提案した値域看護活動について、住民や各種関係機関の人々との共同計画によって取り組みの調整が出来る。				
諸外国の活動と我が国の活動を比較することで、今後の日本における活動の課題や展望の考察が出来る。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DE2201	地域看護学演習 D	1 年/通年	2
担当教員		課程	
三徳和子 山田裕子 西川まり子		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

「地域看護学特論 D」において、理論や展開方法を講義で行った地域看護課題の内容について研究的視点と方法を用いて実践での具体的な展開方法を演習によって行い、研究と実践の相互関係的発展を促す進め方について基盤となる能力を修得する。

そのために国内外の文献検討を踏まえ、地域看護活動の具体的な対象集団に対し、分野別の健康課題解決に向けて、研究的に取り組むための検討を行い考察を深める。同時に住民の健康水準向上のための問題解決方を住民が主体的に取り組むことができるよう、その支援方法についての研究を自立して行うことができるようになる。「地域看護学特論 D」の内容を基盤にして、地域看護活動を進めるために具体的な対象集団に対し、海外及び国内自治体等から公表されているデータと、地域看護活動や住民からの聞き取り等から得られるフィールドワークを分析し、健康課題解決のための要因を明らかにする。また、住民と健康課題を共有し、健康水準向上のための活動計画を立案することができる。本演習の過程から、学生が自己の研究課題についての探求する基盤を修得する。

授業内容

地域看護活動における諸外国の制度、サービス提供システム、住民の健康課題別地域看護活動の動向と我が国活動課題を明確化する。対象者別の集団・個別の健康の水準について先行研究をクリティークし、因果関係や健康阻害要因に関するデータ分析を行い住民の健康課題をレビューする。

地域看護活動の実践事例から住民の健康水準の変化を地域的、経年的、季節的、時間的变化について、信頼性と妥当性のある研究方法と評価の在り方を追究する。健康に影響する要因と因果関係や関連、健康阻害要因を明らかにする。実践例を用いて保健事業活動の展開を阻害する要因を明確にし、改善方法を見出す。健康水準の経年的変化と地域看護活動の実際について人、物、金の側面から新たな改善方法を検討する。健康課題の解決の方向性を住民・地域組織、地域の専門職などと共有した上での解決策を見出し、根拠のある健康情報の開示・提供の有効な方法について検討、具体的に方策を提案する。個と集団のサービスプログラムと保健医療福祉サービス圏域におけるサービスシステムのあり方を開発する。地域看護活動展開の評価研究について、学生の学修度と課題についてレポート発表と討論を行う。

(オムニバス方式/全 30 回)

(三徳和子/4 回) 地域看護活動における諸外国の制度、サービス提供システム、住民の健康課題別地域看護活動の動向を分析し、我が国の研究と実践課題を明確化する。

(三徳和子/8 回・山田裕子/2 回) 国内・外の地域看護活動の対象者別の集団・個別に健康の水準について先行研究をクリティークし、因果関係や健康阻害要因に関するデータ分析を行い住民の健康課題をレビューする。

(三徳和子・西川まり子/4 回：共同) 地域看護活動の実践事例から住民の健康水準の変化を地域的、経年的、季節的、時間的变化について、データの偏りを排除した解析を用いて、信頼性と妥当性のある研究方法と評価の在り方を追究する。健康実態把握と健康問題解決のための方法論をインタビューなどの質的研究及び社会的、疫学的な量的研究方法を追究し、健康に影響する要因と因果関係や関連、健康阻害要因を明らかにする。

(三徳和子/10 回) 実践例を用いて保健事業活動の展開を阻害する要因(課題)を明確にし、海外文献等も検討の上、改善方法を見出す。民の健康水準の経年的変化と地域看護活動の実際について人、物、金の側面から新たな改善方法を検討する。健康課題の解決の方向性を住民・地域組織、地域の専門職などと共有した上での解決策を見出す。住民や関係者に根拠のある健康情報の開示・提供の有効な方法について検討、具体的に方策を提案する。健康課題に対する地域看護活動の方向性と地域の社会資源(関係機関、関係職種)を活用した個と集団のサービスプログラムと保健医療福祉サービス圏域におけるサービスシステムのあり方を検討し開発する。

(三徳和子・山田裕子/2 回：共同) まとめ。地域の人々の健康水準評価と地域看護活動展開の評価研究について、学生の内容学修度と課題についてレポート発表と討論を行う。

留意事項				
・授業に①積極的に参加すること、②授業の課題について事前に情報収集・分析しておくこと、③授業の中で自己の実践力強化と研究計画に反映させること。共通科目B(フィジカルアセスメント特論、臨床薬理学特論、病態生理学特論)の履修が望ましい。				
教材				
資料(書名、必要な文献など)は、その都度紹介する。				
授業計画 (15回)				
1-4. 地域看護活動における諸外国の制度、サービス提供システム、住民の健康課題別地域看護活動の動向を分析し、我が国の研究と実践課題を明確化する。(三徳和子/4回) 5-14. 国内・外の地域看護活動の対象者別の集団・個別(母子:三徳2、山田1、成人:三徳2・山田1、高齢者:三徳、精神:三徳、難病:三徳、感染症・災害弱者:三徳)に健康の水準について先行研究をクリティークし、因果関係や健康阻害要因に関するデータ分析を行い住民の健康課題をレビューする。(三徳和子/8回・山田裕子/2回) 15-16. 地域看護活動の実践事例から住民の健康水準の変化を地域的、経年的、季節的、時間的变化について、データの偏りを排除した解析を用いて、信頼性と妥当性のある研究方法と評価の在り方を追究する。(三徳和子・西川まり子/2回)共同 17-18. 健康実態把握と健康問題解決のための方法論をインタビューなどの質的研究及び社会的、疫学的な量的研究方法を追究し、健康に影響する要因と因果関係や関連、健康阻害要因を明らかにする。(三徳和子・西川まり子/2回)共同 19-20. 実践例を用いて保健事業活動の展開を阻害する要因(課題)を明確にし、海外文献等も検討の上、改善方法を見出す。(三徳和子/2回) 21-22. 住民の健康水準の経年的変化と地域看護活動の実践について人、物、金の側面から新たな改善方法を検討する。(三徳和子/2回) 23-24. 健康課題の解決の方向性を住民・地域組織、地域の専門職などと共有した上での解決策を見出す。住民や関係者に根拠のある健康情報の開示・提供の有効な方法について検討、具体的に方策を提案する。(三徳和子/2回) 25-28. 健康課題に対する地域看護活動の方向性と地域の社会資源(関係機関、関係職種)を活用した個と集団のサービスプログラムと保健医療福祉サービス圏域におけるサービスシステムのあり方を検討し開発する。(三徳和子/4回) 29-30. まとめ。地域の人々の健康水準評価と地域看護活動展開の評価研究について、学生の内容学修度と課題についてレポート発表と討論を行う。(三徳和子・山田裕子/2回)共同				
評価基準				
1. 授業中の発表・質疑・討論 40% 2. 情報収集・分析 30% 3. レポート 30% 教員別の配点は、授業の時間比率で算出する。 A(100~80点): 到達目標に達している(Very Good) B(79~70点): 到達目標に達しているが不十分な点がある(Good) C(69~60点): 到達目標の最低限は満たしている(Pass) D(60点未満): 到達目標の最低限を満たしていない(Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. 地域で生活する人々の健康上の課題を抽出することができる。				
2. 海外の先進・後進国のデータを我が国の健康水準と比較検討し、具体例を用いて実践的な評価が行える。				
3. 地域の人々や関係機関、関係職種に健康課題を解決するための必要性について説明でき、対象集団、関係機関等と課題解決に向けたシステムを構築できる。				
4. 健康課題別に生活圏域において、適切なサービス計画やサービスシステム新たに組める。				
5. 学修を自己の研究課題や研究計画書作成に反映させることができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DE4101	国際保健看護学特論D	1 年/前期	2
担当教員		課程	
西川まり子 市川誠一		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

世界のヘルスを担うトップの人々が注目している内容に焦点を合わせつつ、健康問題をグローバルに捉え、世界のそれぞれの地域、または地球規模で健康に影響を及ぼす諸問題をタイムリーに考える。その中で、健康問題発生の予防、改善・解決と実践の向上をめざす。そのために、健康ニーズの分析方法・ヘルスのメジャーメント・アウトカム測定法・ケアプログラム改善方法・相互関係の構築・ケアシステムの改善・構築方法を理解することができる力をつける。

授業内容

(オムニバス方式と共同方式／全 15 回)

(西川まり子／7 回)

健康ニーズの分析方法・ヘルスのメジャーメント・アウトカム測定法・ケアプログラム解決方法・相互関係の構築・ケアシステムの改善・構築方法を教授し本科目全体を総括する。

(西川まり子・市川誠一／8 回)

世界のヘルスを担うトップの人々が注目している内容に焦点を合わせつつ、健康問題をグローバルに捉え、世界のそれぞれの地域、または地球規模で健康に影響を及ぼす諸問題を考え、測定可能な研究デザインを策定する。

その中で、討論を中心とまとめとして健康問題発生の予防、改善・解決と実践の向上をめざす。

留意事項

1. 授業に積極的に参加する
2. 授業の課題について事前に情報収集と必要に応じて分析を試みる
3. 授業の中で自己の研究計画と実践力強化に反映させる。

教材

教材は受講者のニーズに応じて適宜選択する。

授業計画 (15 回)

以下の内容で授業展開を行う。

(西川まり子／7 回)

- 1 世界のヘルスを担うトップの人々が注目している内容を知る。健康問題をグローバルに捉え、世界のそれぞれの地域又は、地球規模で健康に影響を及ぼす諸問題を考える
- 2 健康ニーズの分析方法、ヘルスのメジャーメント
- 3 アウトカム測定法（基礎統計、多変量解析、ノンパラメトリック、ロジスティック解析など非正規分布の解析を含む）
- 4 ケアプログラム解決方法（理論的説明、実践例の紹介を含む）
- 5 相互関係の構築（複雑に絡み合った要因の理解）
- 6 ケアシステムの改善
- 7 ケアシステムの構築方法

(西川まり子・市川誠一／8 回)

- 8 健康ニーズ、地域データの収集とコンパクト GIS を用いた数値地図上での可視化（1）
- 9 健康ニーズ、地域データの収集とコンパクト GIS を用いた数値地図上での可視化（2）
- 10 アンケート、訴えなどテキストデータの分析
- 11 保健、疾病要因の解析
- 12 保健活動アウトカムの推測

13 疾病の地域拡散のシミュレーション				
14 まとめと発表の準備				
15 発表				
評価基準				
1. 討議への参加 40% 2. レポート 30% 3. 発表 30%				
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)				
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)				
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)				
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
世界のヘルスを担うトップの人々が注目している内容を理解できる				
健康問題をグローバルに捉えることができる				
世界のそれぞれの地域、または地球規模で健康に影響を及ぼす諸問題をタイムリーに考えることができる				
健康ニーズの分析方法・ヘルスのメジャーメント・アウトカム測定法が理解できる				
ケアプログラム改善方法・相互関係の構築・ケアシステムの改善・構築方法を理解することができる				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DE4201	国際保健看護学演習D	1年/通年	2
担当教員		課程	
西川まり子 市川誠一		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

「国際保健看護学特論」を基盤にして、国際保健看護における研究を具体的に進めるための基盤となる内容を教授する。自己の研究に近い内容の既存の研究例をクリティカルに解説しその強さや弱さを見定める。さらに自己の研究をシュミレーションし、教材として研究の進め方を理解できるようにする。常にベンチとフィールドの調和を念頭に演習する。それらをまとめてレポート作成・発表を討論形式で進める。研究者として、基本的な倫理に基づいた真摯な態度でのレポート作成力・討論力を向上させる。これらによって学生が自己の研究課題について明確なリサーチクエスチョンと研究の独自性をもち、研究デザインと進め方を探求する基礎となるようにする。

授業内容

学びをまとめてレポート作成・発表を討論形式で進める。研究者として、基本的な倫理に基づいた真摯な態度でのレポート作成力・討論力を向上させる。これらによって学生が自己の研究課題について明確なリサーチクエスチョンをもち、研究デザインと進め方を探求する基礎となるようにする。本科目全体を総括する。「国際保健看護学特論」を基盤にして、国際保健看護における研究を具体的に進めるための基盤となる内容を学修する。自己の研究に近い内容の既存の研究例をクリティカルに解説しその強さや弱さを見定める。さらに自己の研究をシュミレーションし、教材として研究の進め方を理解できるようにする。常にベンチとフィールドの調和を念頭に演習する。研究の進行に合わせて指導を継続する。

(オムニバス方式と共同方式/全30回)

(西川まり子/4回)

「国際保健看護学特論」を基盤にして、国際保健看護における研究を具体的に進めるための基盤となる内容を教授する。自己の研究に近い内容の既存の研究例をクリティカルに解説しその強さや弱さを見定める。

(西川まり子・市川誠一 共同/26回)

学びをまとめてレポート作成・発表を討論形式で進める。研究者として、基本的な倫理に基づいた真摯な態度でのレポート作成力・討論力を向上させる。これらによって学生が自己の研究課題について明確なリサーチクエスチョンをもち、研究デザインと進め方を探求する基礎となるようにする。本科目全体を総括する。

さらに自己の研究をシュミレーションし、教材として研究の進め方を理解できるようにする。常にベンチとフィールドの調和を念頭に演習する。研究の進行に合わせて指導を継続する。

留意事項

修士レベルの看護学研究方法特論、国際保健看護学特論、疫学統計学Ⅰ、疫学統計学Ⅱあるいは同等の科目は履修済みであること。授業は、これらの科目で学習した方法を駆使しながら進める。

教材

教材は受講者のニーズに応じて適宜選択する。

授業計画 (30回)

- | | | |
|-------|---|--------------------|
| 1～2 | 授業の進め方の説明、学生によるリサーチ・クエスチョンの提示、研究の具体性、適切性、Credibility、実践における有用性の検討 | (西川まり子・市川誠一/2回) 共同 |
| 3～4 | 学生による研究デザインの提示と討議 | (西川まり子・市川誠一/2回) 共同 |
| 5～6 | 討議と学習課題(先行研究、文献、研究法)の提示 | (西川まり子/2回) |
| 7～8 | 討議と学習課題の提示(継続) | (西川まり子・市川誠一/2回) 共同 |
| 9～17 | 自己の研究に近い内容の既存の研究例をクリティカルに解説と討議 | (西川まり子・市川誠一/9回) 共同 |
| 18～26 | 研究室とフィールドとの融合を考慮しながら、自己の研究のシュミレーションおよび研究に必要と | |

する処理技術の習熟		(西川まり子・市川誠一／9回) 共同			
27～30 研究の進行に合わせて指導を継続する。		(西川まり子・市川誠一／4回) 共同			
評価基準					
1. 討議への参加とピア評価 40% 2. レポート 60%					
A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good)					
B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)					
C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)					
D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)					
到達目標		A	B	C	D
1. 自己の研究に類似した世界的な研究論文をクリティカルに解読でき、その強さと弱さを分析できる。					
2. 自己の研究課題について明確なリサーチクエスチョンを持ち、その重要性を理論的に述べることができる。					
3. 研究室とフィールドの調和を考慮しながら、自己の研究のシミュレーションを描くことができる。					

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DE6101	精神看護学特論D	1 年/前期	2
担当教員		課程	
郷良淳子		博士後期課程	
授業計画詳細			
授業目的			
メンタルヘルスと援助に関する諸概念を国内外の文献をレビューし、児童思春期精神看護学領域における研究の国内外の研究の動向を多角的、系統的に理解できる。加えて、日本における精神保健および精神看護学領域の課題を諸外国の精神保健の制度やシステム、それに基づく看護実践と比較しながら多角的、系統的に理解できる。これらを含め、精神看護学研究の国際的な動向と方法について熟知するとともに、児童思春期における精神障害の予防や早期介入、入院治療に依拠しない諸外国の精神保健活動を手がかりに、日本における精神保健看護の実践活動の方向性を探究する。これらを通して、児童思春期領域における学問的発展ができるような研究疑問を深め、研究の進め方の概要を理解できるようにする。			
授業内容			
メンタルヘルスと援助に関する諸概念について国内外の文献を系統的、多角的にレビューし、重要と考えられる理論の分析、日本における精神保健、精神看護のケアの質を向上しうるケアやシステム開発に必要な要因や問題点を追究、分析、解釈し、明らかにしていく。児童思春期精神保健、精神看護学領域の研究の動向と方法について熟知するとともに、この領域の課題を解決しうる新たな精神看護の方向性を探究する。これらを通して、児童思春期の精神看護領域のケア技術の開発や学問的発展ができるような研究疑問を深め、それらを見出す研究の進め方の概要を理解できるようにする。			
留意事項			
各課題のレポート作成、発表、討論への参加、自己の研究課題解決に向けた関連図書、国内外の先駆的研究や実践の論文、及び学術研究報告書などの文献的考察などを行う。フィールドワーク等での困難な状況に向き合い、課題に主体的に取り組むこと。			
教材			
必要に応じて文献、論文などは、その都度提示する。			
授業計画（15回）			
1-3 諸外国の制度やサービス提供システムの国内外の系統的、多角的な文献レビューを通して日本の精神保健、精神看護学領域における研究と実践課題を明確化する			
4-8 児童思春期精神看護学領域の実践における複雑な課題を追究、分析、解釈し、明確化する 児童思春期におけるメンタルヘルスの増進のための根拠となる理論、ニーズ分析、ケアプログラム開発の方法の検討 子どものケアを行う上での精神障害の予防や早期介入を含めた看護職の役割開発の背景となる理論			
9-10 精神科における倫理的課題を系統的、多角的に整理、明確化し、その対処のための方策やシステムの検討			
11-13 日本における課題である精神科病院の長期入院患者の退院促進について国内外の系統的、多角的な文献レビューによる精神保健、看護の課題の方策の検討			
14-15 児童思春期の精神看護学領域における研究課題の明確化において、学問的発展をしようような、あるいはケアの技術の開発によって、ケアの質保証が可能となる、実践の課題解決に向けた方策についてのディスカッションとレポート提出			
評価基準			
問題・課題の発見、専門書および論文の選択と内容の理解、討論・プレゼンテーション内容、レポート内容等から総合的に評価する。			
1. レポート：50 2. 授業への取り組み：50%			

A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
1. メンタルヘルスと援助に関する諸概念の系統的、多角的な国内外のレビューができる。				
2. 精神障害の予防や早期介入に重要な時期である児童思春期精神看護における問題の追究やケア技術の開発を含め、新たな研究の課題が明確化できる。				
3. 実践現場での複雑な問題を解決できうる研究疑問の明確化ができ、進め方が具体的に説明できる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DE6201	精神看護学演習D	1年/通年	2
担当教員		課程	
郷良淳子		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

1. フィールドワークを通して、児童思春期精神看護の領域における、実践現場での現状の問題や課題を多角的な視点から明らかにし、追究、分析／解釈していくことができる。
2. 児童思春期精神看護における実践の質を保証しうるケア技術の開発能力を養う。

授業内容

特論での学びをふまえ、必然的に学生が自己の研究課題に必要な児童思春期のメンタルヘルスおよび精神看護学領域でのフィールドワークを通して研究手法を演習する。加えて、文献を通じた理論や分析を用いながら、現象を読み解き、実践現場における課題の追究や分析、解釈を通して、課題解決能力を身につける。それを通して、データ分析に必要なテクニカルスキルを習得し、児童思春期領域の開発的な研究デザインと進め方の明確化を図っていく。

留意事項

主体的に取り組んでください。フィールドワークの困難に対処する力を身につけ、その分析のためのデータソフトを駆使して、より正確かつ厳密に質的研究のデータを分析することを試みてください。

教材

適宜紹介する。

授業計画 (30回)

- 1-3 精神看護のケア技術についての国内外の文献レビューによる先駆的实践やケア技術の開発の方法論やその研究の進め方
- 4-8 1-3で明らかになったケア技術開発の知見を踏まえたうえで、児童思春期のメンタルヘルスおよび精神看護の対象に関連する国内外の先駆的研究や先駆的实践のシステムティックレビューによる児童思春期の時期における精神障害の予防や早期介入の概念分析、児童思春期精神看護のケアの概念分析
- 9-10 精神看護における倫理的課題、国内外の精神科領域全体の倫理的課題におけるシステムティックレビューと概念分析
- 11-12 児童思春期のメンタルヘルスおよび精神看護における看護実践の現象分析
フィールドワークを行う場の特性の分析
- 13-15 フィールドワークや半構成面接、非構成面接のデータ分析、その理論と方法
(定性データ分析ソフトNVivo等を用いて)
- 16-30 児童思春期のメンタルヘルスおよび精神看護の領域におけるフィールドワークのデータ分析、解釈評価 まとめ

評価基準

1. レポート 50%
 2. 参加状況 50%
- A (100～80点) : 到達目標に達している (Very Good)
 B (79～70点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good)
 C (69～60点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass)
 D (60点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)

到達目標	A	B	C	D
1. 児童思春期の精神保健看護学領域の学問的追究や新たなケア技術の開発ができる 研究の課題が明確化できる。				
2. 文献を通じた理論や分析を多角的に行い、現場の複雑な現象読み解く能力、問題や 課題を追究し、分析解釈することができる。				
3. 実践現場の問題を研究の課題とし、解決できる研究に発展させることができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DE9101	広域看護学特別研究D I	1年/通年	2
担当教員		課程	
島内節 三徳和子 西川まり子 郷良淳子		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

目的は在宅看護学、地域看護学、国際保健看護学、精神看護学の領域を広域看護学分野としている。看護の対象となる人々のQOLの向上を目指して、社会情勢の急激な変化から生じる顕在化した健康課題や潜在する健康課題を解決するために、研究を用いて解決の方法を見出すことにある。最初の段階である課題を明確にすること、さらに研究目的、方法（対象と調査方法）を明確にし、ケースコントロール研究、コホート研究などのよりエビデンス水準の高い研究計画や複雑な現象を、厳密性を確保した方法で読み解き、ケアの質向上に寄与できる研究計画について教授する。看護研究と実践の相互関係的発展を促進させる実践科学として学問的発展に貢献できる高度で活動的・創造的な自立した研究者・教育者をめざし、初年度は、研究計画書の作成を行う。さらに、研究倫理審査委員会への提出を目指す。

授業内容

明らかにしようとする課題を明確に定め、国内外の文献検討を行い、研究の現象をよりとらえやすい諸要素に分解し、それらの要素間にどのような関連があるのかについての概念枠組みを明確化（関心を持っている課題が、どのような要因、変数、過程にどのように関連しているのか）し、理論的・一般的な前提での仮説設定を行う。そのうえで、研究過程（対象者と調査方法、データ収集、データ分析、結果と考察）を概観し、研究計画を策定する。仮説を科学的に実証していくための厳格な調査・実験等の方法についてしっかりと学んで計画を立てること。また、研究過程でとらえた解釈の限界も十分に認識し考察しておく。研究計画書には研究タイトル、研究動機、研究背景、研究対象のとらえ方（研究枠組みなど）研究の意義（研究の新規性・独創性・看護における意義、社会的価値）、実施計画、必要経費、倫理的配慮について記載する。さらに研究デザインと具体的な研究方法の選択、研究方法の適切性・妥当性の検討、研究の対象、データ収集法・データ分析法・研究のプロセスにおける質管理方に法を含めて検討する。明らかにしたい看護の課題について①厳密な研究対象の選定や介入研究など精度の高い研究方法の選択を行うなど、より高いエビデンスを生み出すための方法を吟味して、研究計画書を作成する。

（島内節）

在宅看護の研究はいずれのテーマであっても在宅ケアの利用者と家族のケアの質保証を重視する。そのために看護の評価研究を含め、必要に応じて介入研究を行う。研究手法には、主に看護の実践例の調査研究を主体としてRCTやコホート研究を含む。事例分析・介入によるアウトカム分析などである。

①終末期ケア ②要介護高齢者の自立支援 ③アセスメントとアウトカム評価 ④在宅ケアのリスク要因の予防とケア方法 ⑤心身症状の発生予防とケア ⑥ケアマネジメント ⑦サービスの組織化 ⑧病院から在宅ケアの移行支援 ⑨ケアシステム評価 ⑩在宅ケアの質管理 ⑪費用対効果

（三徳和子）

地域住民の喫煙、乳幼児虐待、神経難病、認知症、要介護高齢者の重度化予防などのケアと施策等制度のあり方等について、記述統計、多変量解析などを用いてデータの解析を行い、ケアのあり方や地域への提言を行う方向で研究指導を行う。

（西川まり子）

日本に在住する来日外国人の健康問題、健康課題の地域比較（GISソフトを利用）の研究指導を行う。

（郷良淳子）

「児童・思春期精神看護に関する研究」に関する研究を指導する。それらの看護の質の向上やシステムの構築・看護ケア技術の開発に寄与できるような質的研究が実施できるよう、特別研究D Iでは研究疑問を明確化し、その解決を導く質的研究のアプローチを用い、具体的な研究方法を検討し、研究計画書が作成できるように指導する。

留意事項				
1. 科学文献などから情報収集と分析、論理的な思考とレビューを作成すること。 2. レポートなどの提出物は期限を厳守のこと。 3. 授業および研究への積極的な取り組み、行動が求められる。				
教材				
1. 学生は自己の研究課題に関連した国内外の文献をレビューすること。 2. 教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を示す。				
授業計画（15回）				
1～4 広域看護学分野の教員の参加のもと、研究課題の認識。 5～8 自己の関連研究において国内外文献のクリティークを行い、研究テーマ・研究目的を検討し、研究に関する社会的ニーズの分析・研究の新規性・独創性・社会的価値・研究倫理を検討。研究テーマと目的を決定。 9～13 概念枠組みの明確化と仮説の設定。 14～19 研究対象と研究方法の設定（決研究目的を達成するために実行可能なデータ収集法とデータ分析法を検討）。 調査方法の選択（研究デザインの選択と研究方法の適切性・妥当性を具体的に検討し決定）。 研究の限界の検討（結果解釈の限界を明確にしておく）。 研究プロセスにおいて研究の精度を保つ質管理方法を検討。 20～22 研究計画書を作成。 23～26 研究科委員会が開催する学生と教員の参加による「発表会」での発表・討論準備。 27～28 発表した研究計画の評価に基づいて修正し、研究計画書を完成。 29～30 研究計画書を研究倫理審査委員会へ提出し、承認。				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価 A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
・研究テーマと目的について社会的ニーズの分析・研究の新規性・独創性・社会的価値・研究倫理を検討し、研究テーマと目的を決定できる				
・適切な研究デザインを選択し、研究の具体的な方法を決定できる				
・研究データ収集方法の具体化とデータ分析法を決定できる				
・研究プロセスにおける質管理方法を理解し活用できる				
・「研究計画発表会」に適切な準備の上で発表し、評価が受けられる				
・研究計画書を完成させることができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DE9201	広域看護学特別研究Ⅱ	2 年/通年	2
担当教員		課程	
島内節 三徳和子 西川まり子 郷良淳子		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

目的は在宅看護学、地域看護学、国際保健看護学、精神看護学の領域を広域看護学分野としている。看護の対象となる人々のQOLの向上を目指して、社会情勢の急激な変化から生じる顕在化した健康課題や潜在する健康課題を解決するために、研究を用いて解決の方法を見出すことにある。最初の段階である課題を明確にすること、さらに研究目的、方法（対象と調査方法）を明確にし、ケースコントロール研究、コホート研究などのよりエビデンス水準の高い研究計画や複雑な現象を、厳密性を確保した方法で読み解き、ケアの質向上に寄与できる研究計画について教授する。看護研究と実践の相互関係的発展を促進させる実践科学として学問的発展に貢献できる高度で活動的・創造的な自立した研究者・教育者をめざし、フィールドに出て対象者からデータの収集を行い、得られたデータを解析し、信頼性と妥当性を備えた結果解釈を行い、考察へと導く。さらに国内外の学会に発表し、論文を学会誌に投稿する。

授業内容

特別研究Ⅱで作成した研究計画書に従って、データの収集を行う。得られたデータの分析は質的データ・量的データにより異なる。量的データは記述統計を行い、その後目的を明らかにできる統計手法を用いて、分析し結果を整理する。結果から仮説の検証と解釈を行う。質的データは事実の記述・説明、具体例の提示、関係性の理論、理論の発見について、これまでなかった新知見を理論的な手段で整理しまとめる。

（島内節）

在宅看護の研究はいずれのテーマであっても在宅ケアの利用者と家族のケアの質保証を重視する。そのために看護の評価研究を含め、必要に応じて介入研究を行う。研究手法には、主に看護の実践例の調査研究を主体としてRCTやコホート研究を含む。事例分析・介入によるアウトカム分析などである。

①終末期ケア ②要介護高齢者の自立支援 ③アセスメントとアウトカム評価 ④在宅ケアのリスク要因の予防とケア方法 ⑤心身症状の発生予防とケア ⑥ケアマネジメント ⑦サービスの組織化 ⑧病院から在宅ケアの移行支援 ⑨ケアシステム評価 ⑩在宅ケアの質管理 ⑪費用対効果

（三徳和子）

地域住民の喫煙、乳幼児虐待、神経難病、認知症、要介護高齢者の重度化予防などのケアと施策等制度のあり方等について、記述統計、多変量解析などを用いてデータの解析を行い、ケアのあり方や地域への提言を行う方向で研究指導を行う。

（西川まり子）

国際保健看護の研究で、日本に在住する来日外国人の健康問題、健康課題の地域比較（GISソフトを利用）等の研究指導を行う。

（郷良淳子）

「児童・思春期精神看護に関する研究」に関する研究を指導する。それらの看護の質の向上やシステムの構築・看護ケア技術の開発に寄与できるような、研究の課題の答えを導き出せる質的研究のアプローチを用いた質的研究が実施できるよう指導する。Ⅱでは、フィールドにおいて、質的データを収集し、総合的多角的にデータを分析、解釈し、新しい概念やケア技術の開発ができるような論文になる内容を指導する。

留意事項

研究の推進、データの収集・分析、データ分析、解釈、発表などに積極的に取り組む。

教材

適宜、必要に応じて示す。

授業計画（30回）

1-2 特別研究Ⅰの研究計画について、研究倫理審査委員会の承認を得て、研究計画に沿って研究

の実施準備 3-6 研究の精度を保つ方法でデータを収集 7-11 効率的なデータ入力方法、適切なデータ分析方法によって、研究結果について信頼性と妥当性を検討して図、表を加えて文章化 12-16 研究結果に基づいて、論文（副論文を含む）について適切な考察（結論を含む場合がある）を導き論理的にまとめ 17-20 研究目的から考察（結論を含む場合がある）までの論旨一貫性を検討 21-22「発表会Ⅱ（博士論文中間）」において適切な準備の上で発表・討論 23-25 論文の発表会の意見・討論に基づいて論文の修正 26-27 研究成果を国内・国際学会において発表の準備 28-30 副論文を学術誌に投稿準備				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価する A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
研究計画に沿って精度を保つ方法でデータが収集できる。				
適切なデータ分析方法によって研究結果の信頼性と妥当性を検討できる。				
分析に基づいて研究目的から結果・考察を適切に導くことができる。				
論文の発表会Ⅱ（博士論文中間）で発表し、質疑に適切に対応できる。				
研究したものを国内学会や国際学会等において発表する準備ができる。				
副論文を学術誌に投稿する準備を進めることができる。				

授業コード	授 業 科 目 名	配当学年/学期	単位数
DE9301	広域看護学特別研究ⅡⅢ	3年/通年	2
担当教員		課程	
島内節 三徳和子 西川まり子 郷良淳子		博士後期課程	

授業計画詳細

授業目的

在宅看護学、地域看護学、国際保健看護学、精神看護学の領域を広域看護学分野としている。看護の対象となる人々のQOLの向上を目指して、社会情勢の急激な変化から生じる顕在化した健康課題や潜在する健康課題を解決するために、研究を用いて解決の方法を見出すことにある。得られた結果を、十分に吟味し、研究論文を完成させる。

授業内容

特別研究ⅡⅢの目的は、特別研究ⅡⅠと特別研究ⅡⅡで行ってきた研究結果を用いて研究枠組みの検証を行い、一般化への提言をまとめ、原著論文の作成を行う。国内外の発表と、原著論文の投稿をする。

【指導教員の研究】

（島内節）

在宅看護の研究はいずれのテーマであっても在宅ケアの利用者と家族のケアの質保証を重視する。そのために看護の評価研究を含め、必要に応じて介入研究を行う。研究手法には、主に看護の実践例の調査研究を主体としてRCTやコホート研究を含む。事例分析・介入によるアウトカム分析などである。

①終末期ケア ②要介護高齢者の自立支援 ③アセスメントとアウトカム評価 ④在宅ケアのリスク要因の予防とケア方法 ⑤心身症状の発生予防とケア ⑥ケアマネジメント ⑦サービスの組織化 ⑧病院から在宅ケアの移行支援 ⑨ケアシステム評価 ⑩在宅ケアの質管理 ⑪費用対効果

（三徳和子）

地域住民の喫煙、乳幼児虐待、神経難病、認知症、要介護高齢者の重度化予防などのケアと施策等制度のあり方等について、記述統計、多変量解析などを用いてデータの解析を行い、ケアのあり方や地域への提言を行う方向で研究指導を行う。

（西川まり子）

国際保健看護の研究で、日本に在住する来日外国人の健康問題、健康課題の国際地域比較（GISソフトを利用）等の研究指導を行う。

（郷良淳子）

「児童・思春期精神看護に関する研究」に関する研究を指導する。それらの看護の質の向上やシステムの構築・看護ケア技術の開発に寄与できるような、研究の課題の答えを導き出せる質的研究のアプローチを用いた質的研究が実施できるよう指導する。ⅡⅢでは、新しい概念やケア技術の開発の内容の博士論文の作成と発表ができるよう指導する。また研究成果の公表に向けて指導する。

留意事項

科学的知見に基づいた論文作成を行う

教材

- ・教員は必要に応じて研究テキスト・研究論文・資料を紹介する。
- ・学会誌に原著論文として掲載される。

授業計画（30回）

- 1～10 特別研究ⅡⅡの研究結果に基づいて、さらに研究結果を見直し適切な考察と結論を記述する
 11～14 研究目的から結論までの論旨一貫性と信頼性・妥当性を検討する。
 15～17 看護における研究の意義について再考し、論文としてまとめる。
 18～20 発表会Ⅲ（博士論文中間）において適切な準備の上で発表と討論を行う。
 21～22 中間発表した論文の意見・評価に基づいて修正する。
 23～25 論文最終発表会において適切な発表と質疑ができる。

26～27 期日までに論文を完成させる。				
29～30 論文の審査において説明と質疑に適切に対応できる。				
評価基準				
科目の到達目標の到達度により評価する A (100～80 点) : 到達目標に達している (Very Good) B (79～70 点) : 到達目標に達しているが不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 到達目標の最低限は満たしている (Pass) D (60 点未満) : 到達目標の最低限を満たしていない (Failure)				
到達目標	A	B	C	D
博士論文の目的から結論まで論旨一貫性のある論文を作成できる。				
博士論文は独創性・新規性・社会的価値が含まれている。				
博士論文発表会では発表と質疑に適切に対応できる。				
博士論文はおおむね原著論文水準の質で作成できる。				
論文の審査において説明と質疑に適切に対応できる。				